

令和7年度第3回埼玉県バーチャルユースセンター

運営検討会議 次第

日時 令和7年9月22日（月）
15：00～17：00
会場 オンライン

1 開会

2 挨拶

3 議事

- （1）埼玉県バーチャルユースセンター試行運用成果報告について

4 閉会

◆埼玉県バーチャルユースセンター運営検討会議委員名簿

令和7年度

No.	氏 名	備 考
1	青山 鉄兵	文教大学・准教授
2	さいたまん吉	埼玉県広報アンバサダー
3	篠谷 瞳	さいたま市総合教育相談室
4	諏訪 峻之	上尾市こども家庭保健課
5	利根 好子	小川町健康福祉課
6	鳥海 洋平	大日本印刷株式会社
7	ブローハン 聡	一般社団法人コンパスナビ・代表理事
8	堀田 香織	埼玉大学・教授

埼玉県バーチャルユースセンター 試行運用成果報告

2025.09.22

認定NPO法人さいたまユースサポートネット



令和6年

10月活動実績

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
10月 1日(火) 10:00~14:00	VYCを探検しよう！(13:00~13:45)	0名
10月 3日(木) 10:00~14:00	VYCを探検しよう<操作方法デモ>(10:00~10:45)	5名(男:2名、女:3名)
10月 8日(火) 10:00~14:00	VYCを探検しよう！(10:00~10:45) トークカフェ(13:00~13:45)	7名(男:5名、女:2名)
10月11日(金) 13:00~17:00	VYCを探検しよう！<小学生デモ>(16:00~17:00)	15名(男:7名、女:8名)
10月15日(火) 10:00~14:00	トークカフェ(13:00~13:50)	2名(男:2名、女:0名)
10月16日(水) 10:00~11:00	VYCを探検しよう！<狭山市教委操作方法デモ> (10:00~11:00)	6名(男:2名、女:4名)
10月17日(木) 10:00~14:00	哲学カフェ(13:30~14:30)	9名(男:4名、女:5名)
10月22日(火) 12:00~16:00	バーチャル県民SHOW(14:00~15:30)	2名(男:2名、女:0名)
10月25日(金) 13:00~17:00	宝探し(小学生コラボ会)(15:00~17:00)	43名
10月29日(火) 10:00~14:00	トークカフェ(13:00~13:45)	10名(男:4名、女:6名)

10月利用者(延べ人数)	10月登録者数
99名	21名

11月活動実績

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
11月 1日(金) 13:00～17:00	LGBTQ基礎知識セミナー(14:00-15:00)	6名(男:4名、女:2名)
11月 5日(火) 10:00～14:00	健康教室(10:30-12:00)	6名(男:3名、女:3名)
11月 6日(水) 13:30～14:30	学びの場デモ(13:30～14:30)	4名(男:2名、女:2名)
11月 8日(金) 13:00～17:00	表現コミュニケーションWS(10:30-12:00)	1名(男:0名、女:1名)
11月12日(火) 10:00～14:00	表現コミュニケーションWS(13:00-13:30)	2名(男:1名、女:1名)
11月15日(金) 13:00～17:00	県立ふじみ野高校デモ(13:30-13:30)	16名(男:10名、女6名)
11月19日(火) 10:00～14:00	こころの話・からだの話(11:00-11:30)	6名(男:5名、女:1名)
11月22日(金) 13:00～17:00	表現&哲学対話のmix Ver.(13:00-14:00)	0名(男:0名、女:0名)
11月24日(日) 13:00～17:00	★こどもの居場所フェア埼玉(12:00-16:00)	50名
11月26日(火) 10:00～14:00	表現&哲学対話のmix Ver.(13:00-14:00)	5名(男:3名、女:2名)
11月29日(火) 13:00～17:00	推し本紹介しよう！(15:00-16:00)	6名(男:3名、女:3名)

11月利用者(延べ人数)	11月登録者数
102名	16名

12月活動実績 (1)

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
12月 3日(火) 10:00~14:00	①学習プログラム(10:30-11:30) ②ポレポレひろば(13:00-14:00)	①②0名(男:0名、女:0名)
12月 6日(金) 9:00~17:00	①加須市教育支援センターデモ(10:05-11:05) ②プログラミング教室「スクラッチやろう」(13:30-14:30) ※Zoom ③トークカフェ(16:00-17:00)	①7名(男:1名、女:6名) ②1名(男:1名、女:0名) ③1名(男:1名、女:0名)
12月10日(火) 10:00~14:00	①学習プログラム(10:30-11:30) ②ポレポレひろば(13:30-14:00)	①②0名(男:0名、女:0名)
12月13日(金) 14:00~18:00	①見沼の生き物を知ろう！(14:00-15:00) ②トークカフェ(16:00-17:00)	①3名(男:2名、女:1名) ②1名(男:1名、女:0名)
12月17日(火) 10:00~14:00	①学習プログラム(10:30-11:30) ②ポレポレひろば(13:00-14:00)	①0名 ②15名
12月19日(木) 17:00~18:00	コンパスナビデモ(17:00~18:00)	5名(男:2名、女:3名)
12月20日(火) 11:00~15:00	★つながるSAITAMAフェスタ ①トークカフェ(11:00-11:45) ②トークカフェ特別講演(13:15-14:00) ③本のおしゃべり(14:00-15:00)	①2名 ②12名 ③16名

12月活動実績（2）

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
12月26日(木) 11:00～13:00	煮ぼうとうオフ会inさいたま市若者自立支援ルーム・桜木(11:00-13:00)	7名(男:5名、女:2名)
12月27日(金) 14:00～17:00	①見沼の植物を知ろう！(14:00-15:00) ②トークカフェ(16:00-17:00)	①1名 ②0名

12月利用者(延べ人数)	12月登録者数
71名	27名

令和7年

1月活動実績 (1)

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
1月 7日(火) 18:30~20:30	新春トークカフェ(19:00-20:00)	1名
1月 8日(水) 14:00~16:00	発酵の話し(14:30-15:30)	0名
1月 9日(木) 16:00~18:00	暦のハナシ(16:30-17:30)	0名
1月10日(金) 15:00~17:00	ポレポレひろば(15:30-16:30)	0名
1月15日(水) 16:00~18:00	お仕事トーク「学校の先生」(16:30-17:30)	0名
1月16日(木) ①10:00~10:30 ②16:00~18:00	①本庄市教育支援センターデモ(10:00-10:30) ②観るラジオ☆バーたま!(16:30-17:30)	①6名 ②1名
1月17日(金) 15:00~17:00	ポレポレひろば(15:30-16:30)	0名
1月21日(水) 13:00~15:00	プログラミング教室(13:30-14:30)	1名
1月22日(木) 14:00~16:00	①NPOクラブしっきーズデモ(14:30-15:30) ②見沼の自然を知ろう(14:30-15:30)	①5名 ②1名
1月23日(木) 12:00~15:30	①煮ぼうとうオフ会in上尾市子ども若者自立支援 ルームここから(12:00-13:30) ②ポレポレひろば(14:00-15:00)	①9名 ②8名
1月24日(金) 15:00~17:00	学びの時間(15:30-16:30)	0名

1月活動実績（2）

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
1月25日(土) 15:30～17:30	本のおしゃべり(16:00-17:00)	2名
1月28日(火) 14:30～16:30	からだの話(15:00-16:00)	4名
1月29日(水) 16:00～18:00	ポレポレひろば(16:30-17:30)	0名
1月30日(木) 16:00～18:00	学びの時間(16:30-17:30)	0名
1月31日(金) 15:00～17:00	推しトーク「音楽」(15:30-16:30)	3名

1月利用者(延べ人数)	1月登録者数
41名	5名

2月活動実績（1）

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
2月 3日(月) 14:00～16:00	お仕事トーク「ネイリスト」(14:30-15:30)	0名
2月 4日(火) 13:00～15:00	暦のハナシ(13:30-14:30)	0名
2月 5日(水) 14:30～16:30	観るラジオ☆バーたま！(15:00-16:00)	3名
2月 7日(金) 14:00～16:00	ポレポレひろば(14:30-15:30)	1名
2月 8日(土) 14:00～16:00	VYC向上委員会(14:30-15:30)	3名
2月12日(水) 13:00～15:00	ゆるっと自習室(13:30-14:30)	0名
2月13日(木) 13:00～15:00	推しトーク「好きな漫画」(13:30-14:30)	0名
2月14日(金) 14:00～16:00	ポレポレひろば「おやつ」(14:30-15:30)	3名
2月18日(火) 13:00～15:00	プログラミング教室(13:30-14:30)	0名
2月19日(水) 10:00～12:00	ゆるっと自習室(10:30-11:30)	0名
2月20日(木) 13:30～15:30	ポレポレひろば「コンビニ」(14:00-15:00)	6名
2月21日(金) ①10:00～12:00 ②18:30～20:30	①子ども地域ネットワーク所沢デモ(10:00-12:00) ②ゆるっとトーク(19:00-20:00)	①7名 ②0名

2月活動実績（2）

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
2月25日(火) 13:00～15:00	VYCオープンデー(13:30-14:30)	3名
2月26日(水) 14:00～16:00	ポレポレひろば「インドア」(14:30-15:00)	0名
2月27日(木) 13:00～15:00	推しトーク「マイクラフト」(13:30-14:30)	1名
2月28日(金) 14:30～16:30	みちねこのブックトーク(15:00-16:00)	3名

2月利用者(延べ人数)	2月登録者数
30名	23名

3月活動実績（1）

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
3月 4日(火) 10:00～12:00	暦のハナシ(10:30-11:30)	0名
3月 5日(水) 10:00～12:00	ゆるっと自習室(10:30-11:30)	0名
3月 6日(木) 13:30～15:30	ポレポレひろば(14:00-14:30)	0名
3月 7日(金) 14:00～16:00	ゆるっとトーク(14:30-15:30)	0名
3月11日(火) 14:00～16:00	推しトーク「好きなキャラクター」(14:30-15:30)	0名
3月12日(水) 10:00～12:00	ゆるっと自習室(10:30-11:30)	0名
3月13日(木) 13:30～15:30	ポレポレひろば(14:00-14:30)	0名
3月14日(金) 14:00～16:00	推しトーク「好きなテーマパーク」(14:30-15:30)	1名
3月18日(火) 13:30～15:30	観るラジオ☆バーたま！(14:00-15:00)	3名
3月19日(水) 10:00～12:00	ゆるっと自習室 (10:30-11:30)	0名
3月21日(金) 14:30～16:30	若者の声(15:00-16:00)	1名

3月活動実績（2）

VYC
オープン
DAY
※春休み企画



開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
3月26日(水) 14:00～16:00	バーチャル埼玉ツアー(14:30-15:30)	6名
3月27日(木) 10:00～12:00	バーチャル埼玉ツアー(10:30-11:30)	4名
3月28日(金) 10:00～12:00	ゆるっとトーク「ペット」(10:30-11:30)	0名
3月29日(土) 19:00～21:00	バーチャル埼玉ツアー(19:30-20:30)	1名
3月30日(日) 19:00～21:00	推しトーク「ゲーム」(19:30-20:30)	3名

3月利用者(延べ人数)	3月登録者数
19名	16名

4月活動実績(1)

VYC
オープン
DAY
※春休み企画

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
4月 2日(水) 10:00~12:00	バーチャル埼玉ツアー(10:30-11:30)	2名
4月 3日(木) 10:00~12:00	観るラジオ☆バーたま!(10:30-11:30)	2名
4月 4日(金) 15:30~17:30	バーチャル埼玉ツアー(16:00-17:00)	1名
4月 5日(土) 15:30~17:30	ゆるっとトーク「マンガ」(16:00-17:00)	0名
4月 8日(火) 10:00~12:00	暦のハナシ(10:30-11:30)	1名
4月 9日(水) 10:00~12:00	ゆるっと自習室(10:30-11:30)	0名
4月10日(木) 16:00~18:00	はじめてのVYC(16:30-17:30)	0名
4月11日(金) 11:00~13:00	ランチトーク(11:30-12:30)	0名
4月15日(火) 10:00~12:00	推しトーク「好きなキャラクター」(10:30-11:30)	0名
4月16日(水) 10:00~12:00	ゆるっと自習室(10:30-11:30)	0名
4月17日(木) 16:00~18:00	はじめてのVYC(16:30-17:30)	0名
4月18日(金) 11:00~13:00	ランチトーク(11:30-12:30)	0名

4月活動実績(2)

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
4月22日(火) 10:00~12:00	推しトーク「ゲーム」(10:30-11:30)	0名
4月23日(水) 10:00~12:00	ゆるっと自習室(10:30-11:30)	0名
4月24日(木) 16:00~18:00	はじめてのVYC(16:30-17:30)	1名
4月25日(金) 11:00~13:00	ランチトーク(11:30-12:30)	0名
4月26日(土) 19:00~21:00	ゆるっとトーク「GWなにをするん？」(19:30-20:30)	1名
4月28日(月) 12:30~14:30	お仕事トーク(13:00-14:00)	0名
4月30日(水) 10:00~12:00	ゆるっと自習室(10:30-11:30)	1名

4月利用者(延べ人数)	4月登録者数
9名	10名

5月活動実績

	開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
	5月 1日(木) 15:00~18:00	①スタッフラジオ(15:30-16:30) ②ゆるっとトーク(17:00-17:30)	①0名 ②0名
OPEN	5月 3日(土) 19:00~21:00	テーマトーク「コンビニで思わず買っちゃうもの」 (19:30-20:30)	0名
	5月 7日(水) 9:30~12:30	①暦のハナシ(10:00-11:00) ②ゆるっとトーク(11:30-12:00)	①0名 ②0名
	5月 8日(木) 15:00~18:00	①ゆるっと自習室(15:30-16:30) ②まったりChill time(17:00-17:30)	①0名 ②0名
	5月 9日(金) 11:00~13:00	ランチトーク(11:30-12:30)	0名
OPEN	5月13日(火) 9:30~12:30	①おためしVYC(10:00-11:00) ②スタッフラジオ(11:30-12:00)	①3名 ②3名
	5月15日(木) 15:00~18:00	①ゆるっと自習室(15:30-16:30) ②まったりChill time(17:00-17:30)	①0名 ②0名
	5月16日(金) 17:00~19:00	わせだこども食堂デモ(17:00-19:00)	10名

※ OPEN :オープンDAY実施日(未登録でも参加可能)

開室日時		実施プログラム(実施時間)	利用者数
OPEN	5月18日(日) 19:00~21:00	イバショビルド(19:30-20:30)	1名
	5月19日(月) 14:00~15:00	デモクラティックスクールさいたまあみゅーずデモ(14:00-15:00)	4名
	5月20日(火) 9:30~12:30	①お仕事トーク(10:00-11:00) ②ランチトーク(11:30-12:00)	①0名 ②0名
	5月21日(水) 16:00~18:00	テーマトーク「わたしの趣味」(16:30-17:30)	5名
	5月22日(木) 13:30~18:00	①バーチャル埼玉ツアーin上尾市子ども若者自立支援ルームここから(13:30-15:00) ②おためしVYC(15:30-16:30) ③まったりChill time(17:00-17:30)	①3名 ②3名 ③1名
	5月27日(火) 10:00~13:00	①推しトーク「K-POP」(10:30-11:30) ②まったりChill time(12:00-12:30)	①0名 ②0名
	5月28日(水) 16:00~17:00	県立和光高校デモ(16:00-17:00)	5名
OPEN	5月29日(木) 15:00~18:00	①観るラジオ☆バーたま!(15:30-16:30) ②ゆるっとトーク(17:00-17:30)	①2名 ②2名
	5月31日(土) 19:00~21:00	テーマトーク「好きなお夜食」(19:30-20:30)	3名
5月利用者(延べ人数)			5月登録者数
45名			10名

6月活動実績(1)

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
6月 3日(火) 9:30~12:30	①暦のハナシ(10:00-11:00) ②ゆるっとトーク(11:30-12:00)	①0名 ②1名
6月 5日(木) 15:00~18:00	①ゆるっと自習室(15:30-16:30) ②まったりChill time(17:00-17:30)	①0名 ②0名
OPEN 6月 8日(日) 10:00~13:00	①VYCオープンDAY(10:30-11:30) ②ほりさきマルシェデモ(12:00-13:00)	①1名 ②15名
OPEN 6月10日(火) 9:30~12:30	①おためしVYC(10:00-11:00) ②スタッフラジオ(11:30-12:00)	①1名 ②0名
6月12日(木) 15:00~18:00	①ゆるっと自習室(15:30-16:30) ②まったりChill time(17:00-17:30)	①1名 ②0名
6月14日(土) 10:00~12:00	きいたんの部屋(10:30-11:30)	1名
OPEN 6月17日(火) 9:30~12:30	①おためしVYC(10:00-11:00) ②ランチトーク(11:30-12:00)	①0名 ②0名
6月19日(木) 15:00~18:00	①ゆるっと自習室(15:30-16:30) ②まったりChill time(17:00-17:30)	①0名 ②0名

※ OPEN :オープンDAY実施日(未登録でも参加可能)

6月活動実績(2)

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
6月22日(日) 15:00～18:00	①イバショビルド(15:30-16:30) ②鳩山町若者の集い「やきいも」デモ(16:00-18:00)	①0名 ②6名
6月24日(火) 9:30～12:30	①テーマトーク「好きな本」(10:00-11:00) ②スタッフラジオ(11:30-12:00)	①0名 ②0名
6月26日(木) 15:00～18:00	①観るラジオ☆バーたま！(15:30-16:30) ②ゆるっとトーク(17:00-17:30)	①0名 ②0名
6月28日(土) 14:00～17:00	①ほりさきたまり場デモ(14:00-15:00) ②推しトーク「K-POP」(15:30-16:30)	①6名 ②1名

6月利用者(延べ人数)	6月登録者数
33名	11名

7月活動実績(1)

	開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
OPEN	7月 1日(火) 9:30~12:30	①暦のハナシ(10:00-11:00) ②ゆるっとトーク(11:30-12:00)	①1名 ②0名
	7月 3日(木) 15:00~18:00	①ゆるっと自習室(15:30-16:30) ②まったりChill time(17:00-17:30)	①0名 ②0名
	7月 6日(日) 18:00~20:00	きいたんの部屋(18:30-19:30)	0名
OPEN	7月 8日(火) 9:30~12:30	①おためしVYC(10:00-11:00) ②スタッフラジヲ(11:30-12:00)	①0名 ②0名
	7月10日(木) 15:00~18:00	①ゆるっと自習室(15:30-16:30) ②まったりChill time(17:00-17:30)	①0名 ②0名
OPEN	7月13日(日) 18:00~20:00	推しトーク「好きなアニメ」(18:30-19:30)	3名
OPEN	7月15日(火) 9:30~12:30	①おためしVYC(10:00-11:00) ②スタッフラジヲ(11:30-12:00)	①0名 ②0名
	7月16日(水)①10:00~13:00 ②18:00~19:00	①大宮ろう学園デモ(10:00-13:00) ②県立春日部高校定時制デモ(18:00-19:00)	①27名 ②6名

※ OPEN :オープンDAY実施日(未登録でも参加可能)

7月活動実績(2)

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
7月17日(木) 15:00~18:00	①お仕事トーク(15:30-16:30) ②ゆったりChill time(17:00-17:30)	①0名 ②0名
7月20日(日) 18:00~20:00	イバショビルド(18:30-19:30)	0名
7月22日(火) 9:30~12:30	①ゆるっと自習室(10:00-11:00) ②スタッフラジオ(11:30-12:00)	①0名 ②0名
7月24日(木)① 9:30~10:40 ②③15:00~18:00	①子ども未来応援センターデモ(9:30-10:40) ②おためしVYC(15:30-16:30) ③ゆったりChill time(17:00-17:30)	①6名 ②3名 ③0名
7月26日(土) 16:30~18:30	観るラジオ☆バーたま!(17:00-18:00)	0名
7月29日(火) 9:30~12:30	①テーマトーク「好きな本」(10:00-11:00) ②ランチトーク(11:30-12:00)	①0名 ②2名
7月31日(木) 15:00~18:00	①ゆるっと自習室(15:30-16:30) ②ゆったりChill time(17:00-17:30)	①0名 ②0名
7月利用者(延べ人数)		7月登録者数
48名		34名

OPEN

OPEN



8月活動実績(1)

*全日オープンDAY（未登録でも参加可能）

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数(うち、プログラム参加者数)
8月 1日(金) 17:00~18:00	あそぼっくすほりさきデモ(17:00-18:00)	10名
8月 3日(日) 19:00~21:00	もやトーク「進路の悩み」(20:00-21:00)	1名(0名)
8月 5日(火) 13:00~16:00	夏の謎解きゲーム！(小学生スペシャル) (14:00-15:00)	1名(0名)
8月 7日(木) 16:00~19:00	謎解き！～上級編～(17:00-18:00)	8名(5名)
8月10日(日) 19:00~21:00	もやトーク「友人関係の悩み」(20:00-21:00)	4名(4名)
8月12日(火) 13:00~16:00	ちょっと怖い話(14:00-15:00)	9名(4名)
8月14日(木) 16:00~19:00	めっちゃ怖い話(17:00-18:00)	8名(4名)
8月17日(日) 19:00~21:00	イバショビルド(20:00-21:00)	3名(3名)
8月19日(火) 9:30~12:30	きいたんの部屋(11:00-12:00)	11名(10名)
8月20日(水)①11:15~12:00 ②13:30~14:30	①あそぼっくすほりさきデモ(11:15-12:00) ②あそぼっくすほりさきデモ(13:30-14:30)	①5名 ②6名

OPEN 8月活動実績(2)

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数(うち、プログラム参加者数)
8月21日(木) 16:00～19:00	推しトーク「マイクラフト」(17:00-18:00)	6名(4名)
8月24日(日) 19:00～21:00	保護者のための”こころの保健室” (20:00-21:00)	17名(11名)
8月26日(火) 13:00～16:00	ぶっちゃけトーク(小学生)「学校行きたくない！」 (14:00-15:00)	20名(20名)
8月28日(木) 16:00～19:00	ぶっちゃけトーク(中高生)「学校行きたくない！」 (17:00-18:00)	5名(0名)
8月31日(日) 19:00～21:00	もやトーク「不登校の悩み」(20:00-21:00)	2名(1名)

8月利用者(延べ人数)	8月登録者数
116名	20名

試行運用期間の活動実績(広報、その他)

訪問説明実施回数 (うちデモ回数)	71回 (24回)	リアルの居場所事業、教育支援センター、県立高校、支援機関、NPO団体等
チラシ配布枚数	18,090枚	
Web広告	2回	YouTube広告、Instagram広告
SNS発信数	53回	Instagram(1週間に1回以上)
その他	LP作成・更新、公式LINE・Instagram開設、毎月のイベントカレンダー掲載(LP・公式LINE)、操作マニュアル作成(動画・文書)、イベント出展(こどもの居場所フェア、つながるSAITAMAフェスタ)、卓上POP作成	

Web広告掲載



YouTube広告掲載

期間：令和7年4月17日(木)～5月11日(水)

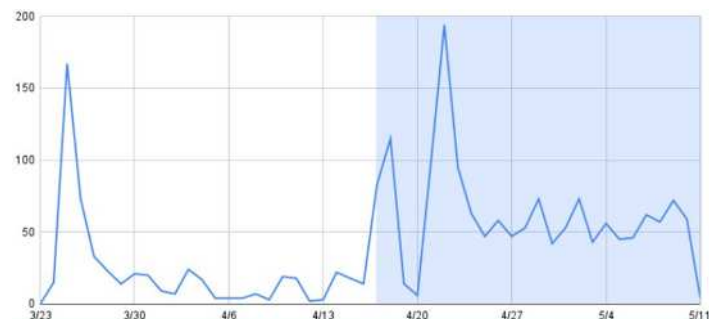
対象：埼玉県内在住の子ども(6～17歳)を持つ人・教育機関・現役の大学生、
検索キーワード「不登校」「学校に行きたくない」「寂しい」「居場所」等
アプローチ強化層に関するものを選定⁽¹⁾

影響：法人サイト⁽²⁾全体の中でも露出が増えたことで関心が高まった

※広告未掲載期間(3月23日～4月16日、25日間)と

広告掲載期間(4月17日～5月11日、25日間)を比較

- ・PV数:541→1558(約3倍)
- ・インターネットブラウザにて直接「バーチャルユースセンター」と打ち込み検索された



(1)対象設定の理由：保護者が子どもの居場所を探してVYCにつながる層が一定いることや、子ども・若者と直接つながっている支援者からの問合せもあることから、子ども・若者に関わる大人を対象とした。

(2)認定NPO法人さいたまユースサポートネットのホームページ。

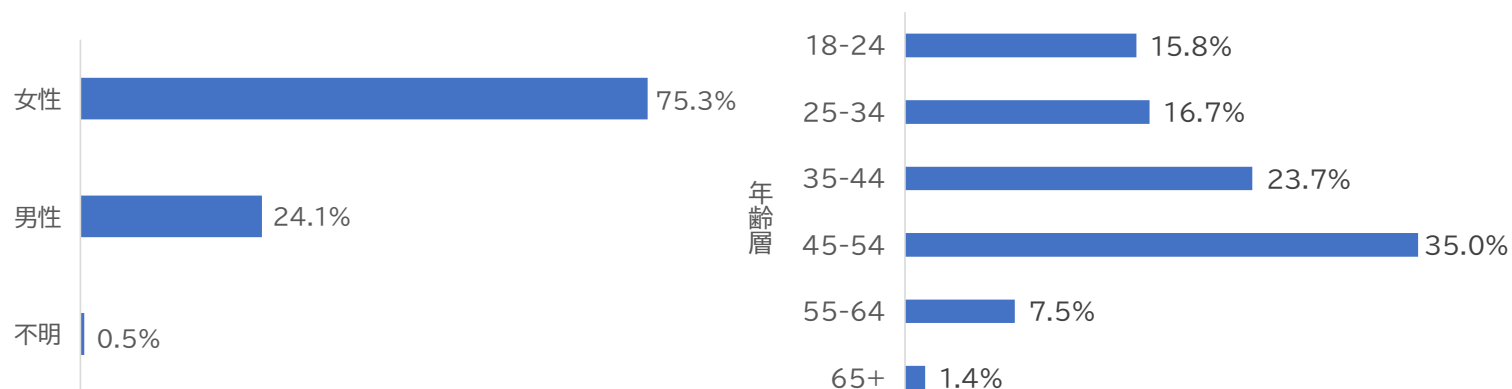
Web広告掲載

Instagram広告掲載

期間：令和7年8月14日(木)～8月19日(火)

対象：埼玉県内在住の18～54歳、
興味・関心「不登校」「居場所」「メタバース」等

結果：広告再生・表示回数9117、リーチ数4764、
LPアクセス160、フォロワー数4増



試行運用期間の運営について

期間	開室日	プログラムの特徴	利用方法
令和6年 10月～	平日週2日×4時間、不定期	バーチャルユースセンターの紹介、操作デモ	事前登録及び電話による本人確認 ※氏名・性別・ニックネーム・生年月日・在住市町村・所属(学校等)・メールアドレス・電話番号
令和6年 11月～	平日週2日×4時間、 火曜10時～14時 金曜13時～17時	★プログラムに重点 講義形式、学習、トーク、オフ会	事前登録及び電話による本人確認
令和7年 1月～	週4日×2時間、不定期	★進行をゲスト講師中心からVYCスタッフ中心へ 推しトーク、子ども・若者が企画するプログラム、観るラジオ☆ バーたま	事前登録及び電話による本人確認 オープンDAY(未登録で参加可能)不定期開催 (3月～)
令和7年 5月～	週3日、平日週2日×3時間、 休日週1日 2時間、 不定期	★休日(土日)実施、見る・聞くだけでよい テーマトーク、意見発信(イバショビルド)	事前登録及び電話による本人確認 オープンDAY不定期開催
令和7年 7月～	週3日、平日週2日×3時間、 休日週1日 2時間、 火曜9:30～12:30 木曜15:00～18:00 日曜18:00～20:00	★曜日固定 テーマトーク、意見発信(イバショビルド)	事前登録及びSMSによる本人確認 ※ニックネーム・年齢・電話番号・メールアドレス・ 登録のきっかけ(デモ、紹介、チラシ・SNS) オープンDAY不定期開催
令和7年 8月～	週3日、平日週2日×3時間、 休日週1日 2時間、 火曜13:00～16:00 木曜16:00～19:00 日曜19:00～21:00	★オープンテラスの活用 年代ごとに分けたプログラムの実施、テーマトーク(ぶっちゃけ トーク、もやトーク)、クイズ、保護者対象のプログラム	事前登録及びSMSによる本人確認 全日オープンDAY

埼玉県バーチャルユースセンター運営検討会議について

設置目的	埼玉県バーチャルユースセンターの運営手法を検討するため設置するもの。
開催回数	8回 (令和6年6月13日、8月21日、10月31日、12月23日、令和7年2月17日、6月12日、8月19日、9月22日)

区 分	令和6年度	令和7年度	備 考
教育分野の学識経験者	埼玉大学・堀田香織	同左	委員長
心理分野の学識経験者	文教大学・青山鉄兵	同左	副委員長
メタバース空間に係る有識者	大日本印刷株式会社・阿部雄介	大日本印刷株式会社・鳥海洋平	
居場所づくり活動実践者	一般社団法人コンパスナビ・ブローハン聡	同左	
ユーザー関連者	さいたまん吉 (埼玉県広報アンバサダー)	同左	
リアルユース実施自治体	上尾市子ども家庭総合支援センター・東海林智之	上尾市こども家庭保健課・諏訪峻之	
不登校・引きこもり支援実施自治体	毛呂山町福祉課・綿貫能理子	小川町健康福祉課・利根好子	
参考事例実施自治体	さいたま市総合教育相談室・篠谷瞳	同左	

利用登録者数

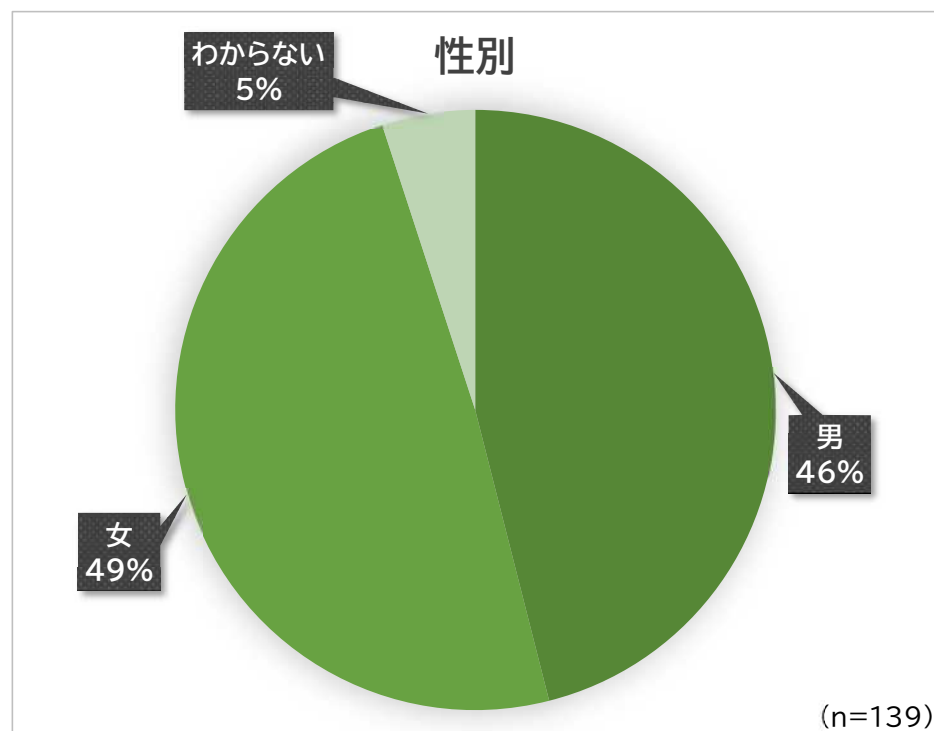
*R7.7.1から登録項目変更

	利用者(延べ人数)	登録者
10月	99名	21名
11月	102名	16名
12月	71名	27名
1月	41名	5名
2月	30名	23名
3月	19名	16名
4月	9名	10名
5月	45名	10名
6月	33名	11名
7月	48名	34名
8月	116名	20名
利用者累計		登録者累計
613名(8/31時点)		193名(8/31時点)

利用登録者の傾向

性別	男	64
	女	68
	わからない	7

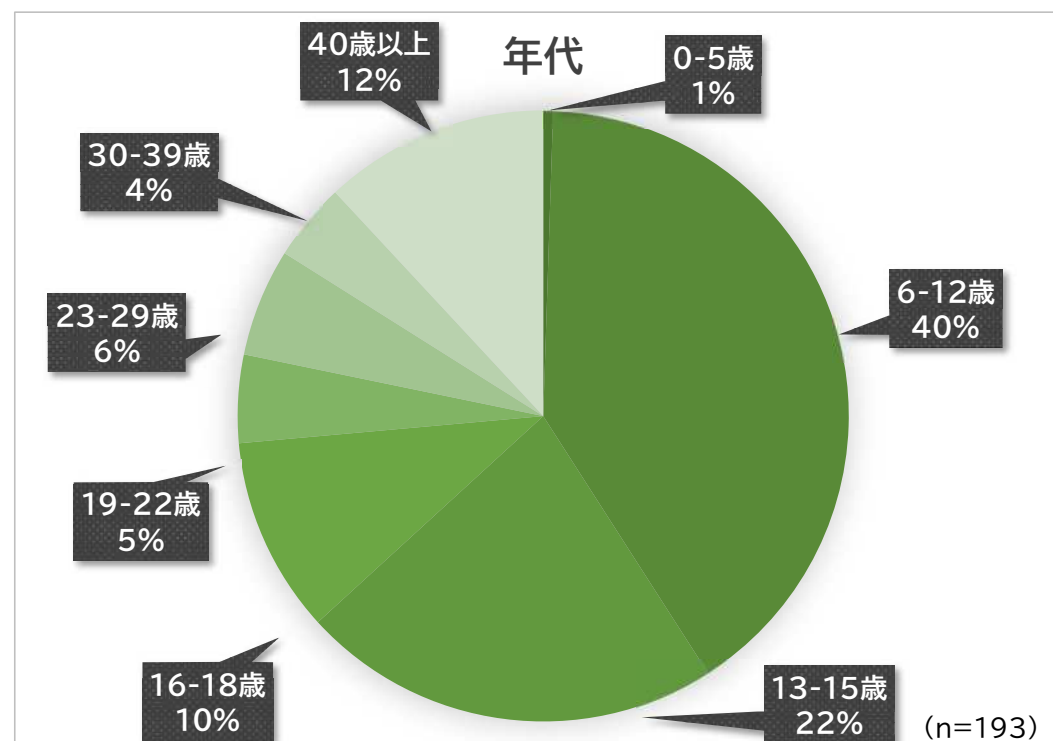
※ R7.6.30時点での登録者139名の内訳



利用登録者の傾向

年代	未就学	1
	小学生	78
	中学生	43
	16-18歳	20
	19-22歳	9
	23-29歳	11
	30-39歳	8
	40歳以上	23

「40歳以上」では、学校教員や支援機関の職員、保護者等からの登録も含まれています。

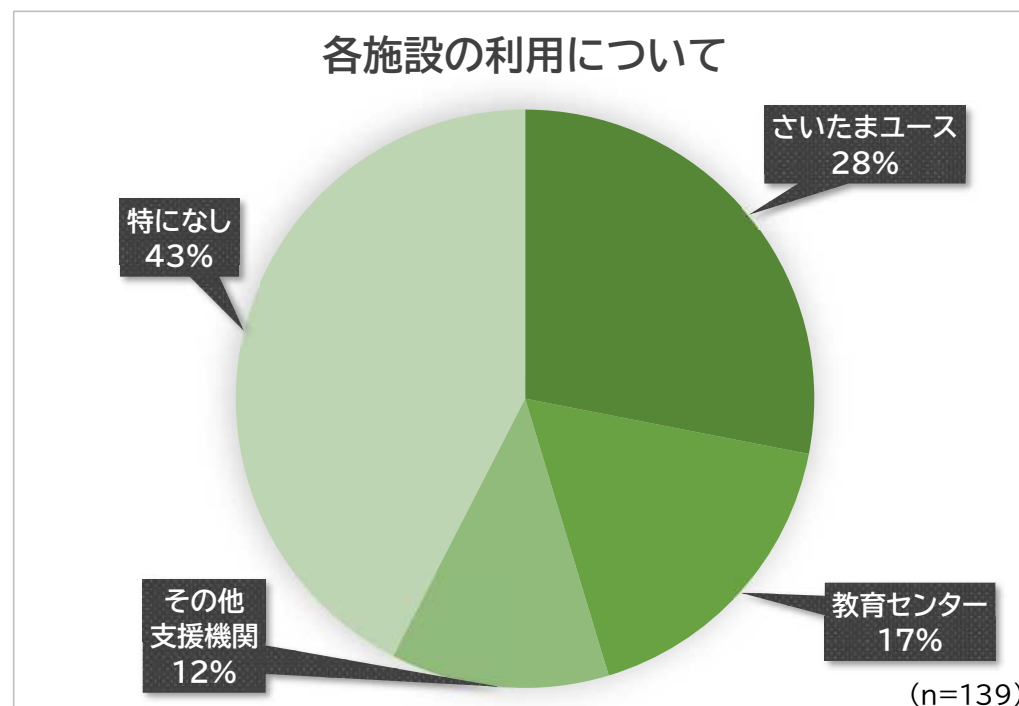


利用登録者の傾向

各施設	さいたまユース	39
	教育センター	24
	その他支援機関	17
	特になし	59

※ R7.6.30時点での登録者139名の内訳

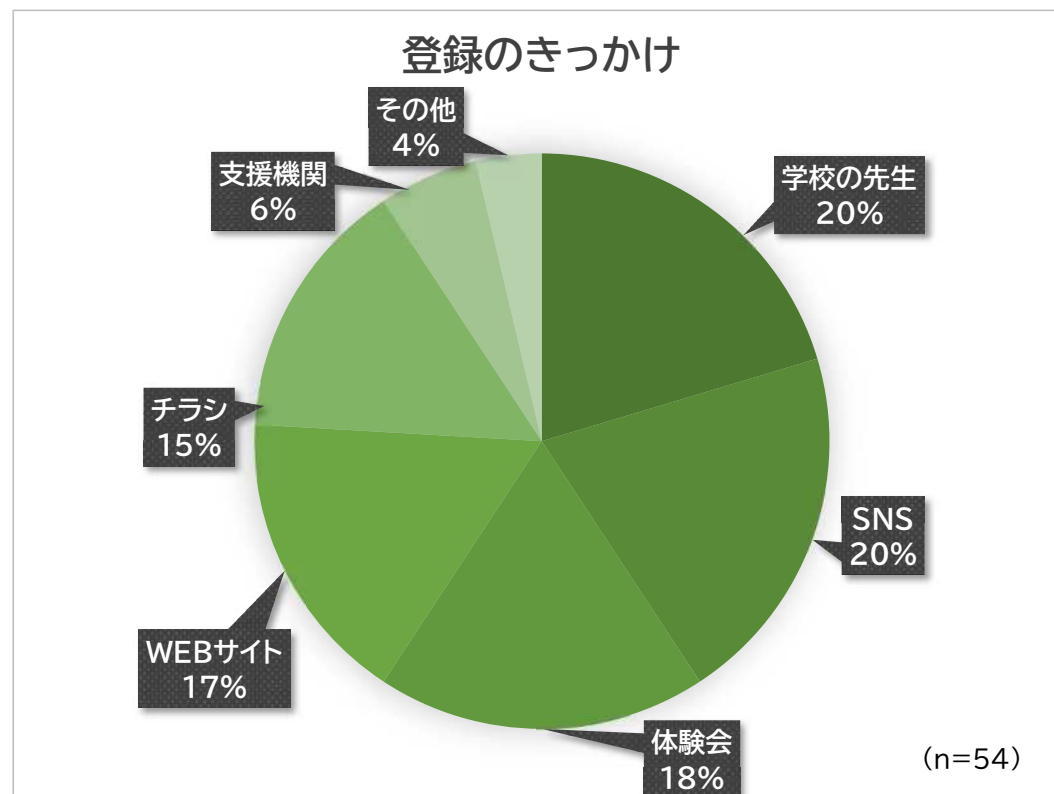
「特になし」は、イベントでVYCを知った方や公共施設や学童クラブでVYCの情報を得た方、県実施のアンケート等からの登録も含まれています。



利用登録者の傾向

登録の きっかけ	学校の先生	11
	SNS	11
	体験会	10
	WEBサイト	9
	チラシ	8
	支援機関	3
	その他	2
	インターネット広告	0

※R7.7.1～ R7.8.31



参加者の声(10月)

感想	意見・要望など
・ 楽しい。 ・ 顔を出さなくていいのが良い。 ・ チャットでのやり取りは抵抗感が少ないと思う。 ・ 対面での交流のほうが好み。	・ 不登校の子ども(小5)の保護者より、「居場所のない時間にオンラインで参加できる場所があることがありがたい」。 ・ アバターを自由に作成できるようにしてほしい。 ・ (バーチャル埼玉内で)季節ごとのイベントがあると楽しい。 ・ 土日や夜の時間など、施設が開いていない時間に利用したい。 ・ ログ機能があると良い(誰がどの時間にいたかわかるように) ・ チャットに「いいね!」などのリアクションがあると良い。 ・ リアルタイムで文章を考えるのが苦手なので、テーマトーク以外で、ゆるっと気軽に雑談したい。

※アンケートは、デモ及びプログラムを実施した下記施設にて、参加した小学生・10代～20代の若者に直接聞き取りとアンケート記入により収集。

- ・ さいたま市若者自立支援ルーム
- ・ 上尾市子ども若者自立支援ルームここから
- ・ 子ども第三の居場所あそぼつくすほりさき
- ・ 就労支援はたチカプログラム

参加者の声(11月～12月)

感想・興味を持ったきっかけ	意見・要望など
・ (デモに参加した小学生) 遠くから画面を見たら、よく知っているゲームに似てたから参加した。アドベンチャーエリアでみんなと一緒に遊んだのが楽しかった。(バーチャル埼玉の中で)また会う約束をしたので登録してみたい。 ・ (小学生の子どもと一緒にデモを体験した保護者) 自分の住んでいる自治体にもオンライン上の不登校支援センターはあるのだが、少し学校っぽいので子どもにはなじまない。もっとゆるやかな居場所みたいなものがないかと思い参加してみました。 ・ (30代) ひきこもり支援機関につながっているが、他の人と一緒に参加するリアルプログラムはまだ無理があるので、自分のペースで参加できそうなバーチャルユースセンターに興味を持った。	・ (プログラムに参加した小学生) 見るだけじゃなくて体験コーナーがほしい。蔵造りブースエリアでコバトンコインを集めるのは楽しかった。もっと面白いと知名度が上がると思う。 ・ (20代) 仮想空間上でオンライン配信できるのは画期的だと感じた。しかし配信画面の画質が悪いのが気になった。 ・ (20代) キャラクターで他者との差別化ができず、誰が誰なのか見分けが付きにくい。髪型や髪色、メガネ等のアクセサリや服などは変更できると個性が出せる。またアバターのリアクションや他のアバターの様子が分かりにくい。

※イベントでのデモ及びプログラムを実施した下記施設にて、参加者や問合せがあった方より直接聞き取りにより収集。

さいたま市若者自立支援ルーム／上尾市子ども若者自立支援ルームここから／子ども第三の居場所あそぼくすほりさき／就労支援はたチカプログラム

参加者の声(1月～2月)

感想・興味を持ったきっかけ	意見・要望など
・ (不登校の子どもをもつ保護者) 不登校をテーマにした報道でVYCを知り、登録につながる。アバターで他者と交流できるところに惹かれ、きっかけになればと思った。 ・ (不登校の子どもをもつ保護者) 教育支援センターでのデモで子どもが興味を持ったため登録。 ・ (デモに参加した小学生) みんなできて楽しかった。(バーチャル埼玉に)鉄道を走らせてほしい、運転してみたい。アウトドアエリアの自転車も自分で操作したい。自分が住んでいる市ができるとうれしい。	・ (プログラムに参加した小学生) 自分でプログラムを企画したい。好きなものを紹介したい。 ・ (プログラムに参加した30代若者) チャットのUI(ユーザーインターフェイス)を全体的に改良してほしい。フリック入力だけでもできるようにしてほしい。 ・ (デモに参加した20代若者) オンラインに居場所があればいいという訳ではない。会いたい人がそこにいるから(リアルの居場所に)行っている。 ・ (デモに参加した20代若者) すでに相談できる(リアルの)場所があるからバーチャルで相談しようとは思わない。顔が見えない人には、相談しない。安心感がないから。

※デモ及びプログラムを実施した下記施設にて、参加者や問合せがあった方より直接聞き取りにより収集。
クローバーハウス／本庄市教育支援センター／NPOクラブしっきず／さいたま市若者自立支援ルーム／上尾市子ども若者自立支援ルームこれから

参加者の声(3月～5月)

感想・興味を持ったきっかけ

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ (20代の若者)
県外のユースセンターを訪れたことをきっかけに、埼玉県でも同様の場所がないかとインターネットで検索したところ、VYCがヒットした。本当はリアルのユースセンターで体を動かしたい。・ (中学生の子どもの保護者)
県内の支援機関からVYCを紹介された。子どもに紹介する前に、まずはお試しで登録。・ (中学生の子どもの保護者)
県庁のLINEでVYCを知った。子どもが対面でのコミュニケーションが苦手なので、メタバースで交流の機会ができればと思い、登録。・ (デモに参加した小学生の子どもの保護者)
デモで実際にスタッフの顔を見ると安心感がある。 | <ul style="list-style-type: none">・ (プログラムに参加した高校生)
よく観ているVTuberの配信だとチャット欄が穏やかで温かい。VYCも同じように大人が見守り、否定されない安心感があった。・ (デモに参加した高校生)
なんかすごかった。・ (デモに参加した高校生)
離れている人と交流できるのがいいと思った。・ (デモに参加した高校生)
相談とかはメールとかがいいかな。対面だと相談しづらいし、なんか気まずい。 |
|--|---|

※デモ及びプログラムを実施した下記施設にて、参加者や問合せがあった方より直接聞き取りにより収集。
子ども地域ネットワーク所沢／みさとこども食堂／デモクラティックスクール さいたま あみゅーず／県立和光高校／上尾市子ども若者自立支援ルームここから

参加者の声(3月～5月)

意見・要望など

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">• (デモに参加した小学生)
タイムトライアルで競って遊べるようになったらいいな。• (デモに参加した中学生)
シール交換が好きなので、リアル活動があれば参加したい。(アウトドアエリアの)アスレチックの種類をもっと増やしてほしい。• (バーチャル埼玉を体験した大学生)
拡張性がなくて残念。• (デモに参加した高校生)
普段プログラミングなどでメタバース上の街や建物、空間を造っているのに、バーチャル埼玉はなににもできないと感じる。例えば、一緒にワールドを作りながら話したりできたら楽しいかも。 | <ul style="list-style-type: none">• (プログラムに参加した高校生)
登録の際に、個人情報を入力することに抵抗があった。• (プログラムに参加した高校生)
意見交換をしたら、まずはリアルがあって、次点で顔出しアリのオンライン、その後にアバターでの交流ならあり得るかも。• (プログラムに参加した30代)
コミュニケーション空間としては物足りない。アドベンチャーエリアやアウトドアエリアでチャットができればいいのに。相談エリアでオープンチャットをするとトークが流れてしまう。グループチャットができればいいのに。相談エリアに入るのにエントランスを経由するのが面倒だった。 |
|--|--|

※デモ及びプログラムを実施した下記施設にて、参加者や問合せがあった方より直接聞き取りにより収集。
子ども地域ネットワーク所沢／みさとこども食堂／デモクラティックスクール さいたま あみゅーず／県立和光高校／上尾市子ども若者自立支援ルームここから

参加者の声(6月～7月)

意見・要望など

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">• (デモに参加した特別支援学校の高校生)
とても面白かった。車いすに乗っている人や人工内耳をつけている人のアバターが選べるといい。• (デモに参加した20代)
離れててもこの中でスタッフさんと話せるのがいいと思った。• (高校の先生)
学校が夏休み期間でも安心して相談できるようにと思って、生徒たちにVYCを紹介しました。• (高校の養護教諭)
ケガ等の利用ではなく、お話をしたりサボったりするために保健室に来る生徒たちに、VYCのようなオンラインの居場所があると良いと思いました。 | <ul style="list-style-type: none">• (デモに参加した小学生)
操作しにくいし、コイン探しが面倒。バグを見つけるのが楽しいタイプの自分にとって、(バーチャル埼玉はバグが少ないので)あまり面白みがない。• (デモに参加した20代)
バーチャルだと相談はちょっと怖い。• (体験会に参加した30代)
体験会で初めてVYCを知った。HPも見たが、ここで何ができるのか、誰と出会えるのかよくわからず、コンテンツが見えない。 |
|---|--|

※デモ及びプログラムを実施した下記施設にて、参加者や問合せがあった方より直接聞き取りにより収集。
ほりさきマルシェ／ほりさきたまり場／鳩山町若者の集い「やきいも」／県立特別支援学校大宮ろう学園／県立春日部高校定時制課程

参加者の声(8月)

意見・要望など

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">• (見学でプログラムに参加)
ただ話を聞いているだけでも楽しかった。• (プログラムに参加)
謎解き楽しかった！また開催してほしい。• (プログラムに参加)
楽しかった！また来たい！• (バーチャルユースセンターに参加)
ここのスタッフはめっちゃ優しい。こんなに話しかけてくれるところはあんまないんで。• (バーチャルユースセンターに参加)
VYCっていいよね。botじゃなくて人がちゃんというのが、他のメタバースとちがうよね。 | <ul style="list-style-type: none">• (保護者対象プログラムに参加した保護者)
助けてと言える場所がなかったので、このような場をつくってもらえてありがたいです。• (保護者対象プログラムに参加した保護者)
改めて大事なことを聞かせてもらえました。 |
|---|---|

※バーチャルユースセンターにて参加者から直接聞き取りにより収集

参加者の声を受けて(10月)

- 基本は『利用登録⇒参加』という流れではあるが、居場所を必要とする子どもや若者は安心できる場と感じられて初めて参加・活動することができるため、『お試し参加⇒利用登録』という流れも必要だと考える。
- VYC開始段階ということもあり、利用者からの感想としてアプリの仕様に関する要望事項も多かった。今後プログラムに関する要望や、やりたいことなどをアンケートやプログラム後の交流時間を活用し聞き取っていきたい。
- さいたまユースの各事業プログラムに参加している子ども・若者や、ご協力いただいた狭山市教委の適応指導教室「茶レンジルームひだまり」の出席生徒はすでに、リアルな居場所に参加することができている。その上で、もうひとつの居場所としてVYCを周知し、利用拡大に努める。
- 一方で、各支援機関につながってはいても自宅等にこもりがちだったり、電話でしか連絡が取れないといった層も一定程度おり、VYCがそうした人たちの「居場所」となれるよう、各支援機関と連携して積極的にアプローチしていく必要がある。
- さいたまユースでは、リアル居場所への来所が少ない利用者に対して、なじみのスタッフを通して一斉メールなどでVYCを紹介している。今後、直接電話する等の個別対応も検討する。

参加者の声を受けて(11月～12月)

- プログラムに関しては「楽しかった」という声も多いが、参加者が少人数の日もある。今後、ターゲットを明確にしたプログラムを打ち出すなど周知方法を工夫していく。引き続き、プログラムに関する要望ややりたいことを聞き取っていく。
- 保護者の方や支援機関につながっている方の中で、自分のペースで参加できることを期待して、バーチャルユースセンターに興味を持ってくれた方がいた。そのニーズに応えられるようなプログラムを検討していく。

参加者の声を受けて(1月～2月)

- 子ども・若者自身が企画するプログラムを増やしていく。
- すでにリアルに居場所を持っている子ども・若者にとって、バーチャル空間は参加の選択肢が増えた状態であり、リアルの居場所の補完的な存在。
- 不登校の状況にある等、居場所を喪失していたり、どこか自分に合う居場所を探している子ども・若者(とその保護者)にニーズがある可能性。
- バーチャル空間での活動を通じて、段階的にリアルの居場所につなぐ橋渡しの場を目指していく。

参加者の声を受けて(3月～5月)

- 「スタッフの顔を見せる」ことが安心感や入ってみようという気持ちにつながることから、継続してこども・若者の居場所づくりを行っている場所にデモを実施する。
- 登録したきっかけの中に、「リアルな居場所を探してバーチャルユースセンターにたどりついた」「中学生時代にいじめに遭い対面でのコミュニケーションが苦手」などがあつた。対人恐怖や集団への恐怖、教師や保護者とのコミュニケーション不足など、他者との関わりを喪失し孤立している層に対して、継続的にアプローチを行っていく。具体的には、SNSによる情報発信を通じたVYCの認知度向上、学校とつながっている子に対しては、各市の教育支援センターや定時制・通信制高校等、地域の「居場所」への訪問やデモをひき続き実施していく。
- 「その他支援機関」につながっている方からの登録が少しずつ増えてきている。事業周知が進んでいていると考えられるため、支援機関への事業周知を継続して行う。
つながっている機関が「特になし」の方からの登録も増えている。これには、さいたまけん★こどものこえアンケート回答者や対象年齢ではない保護者・高齢世代も含まれる。⁽¹⁾

(1) 前回資料からの伸び(人)：さいたまユース+10、支援センター+1、その他支援機関+12、特になし+36

参加者の声を受けて(6月～7月)

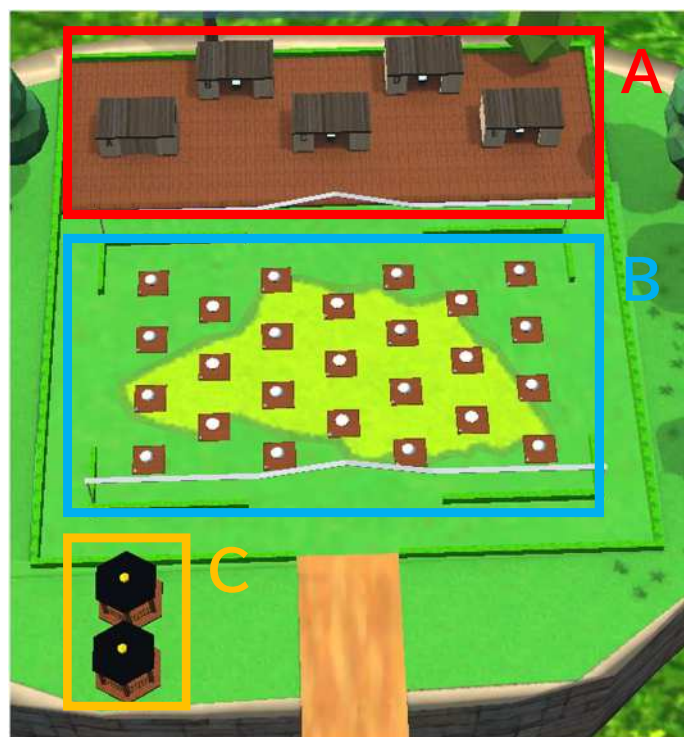
- 「スタッフの顔を見せる」ことが安心感や入ってみようという気持ちにつながることから、継続してこども・若者の居場所づくりを行っている地域の居場所や高校等への訪問・デモを実施する。
- VYCは「遊べる場所」としての機能は低いため、テキストチャットやボイスチャットによるコミュニケーションとしての場の機能を高めるようなプログラムを設定する。
- SNSでの頻繁な情報発信や定期的な動画広告掲示を通して認知度向上を図る。どんなことができる空間か(推しトークや本音トーク、個別相談等)を明示する。
※次回動画広告(予定):8月14日～8月18日
- グループワークルームでプログラムを開催していると、ふらっと来た人には何もやっていないように見えるため、オープンテラスを活用してVYCの活動を“見える化”し、参加への動機づけにしたい。

参加者の声を受けて(8月)

- オープンテラスを使用できるようになったことで、プログラム以外の利用が増えている。また初めて参加する方が、試しにオープンテラスに入ってみることも増えており、スタッフとの会話を通じてバーチャルユースセンターの雰囲気を知ってもらう機会となっている。
→ オープンテラスを活用したことで、誰かがいることの安心感や、ふらっと来て自身のタイミングで入退室できる自由さを表現することができ、参加者も入りやすくなった。
- 8月のプログラムで初めて謎解きゲームや怖い話を実施し、参加者から「またやりたい！」という声が寄せられた。参加者の要望に応じて、9月以降もプログラムで実施する。
→ 引き続き、こども・若者の意見をプログラムに反映していく。
- 8月のプログラムで初めて保護者向けのプログラムを実施し、参加者から前向きな反応が得られた。
→ 引き続き、保護者向けのプログラムを実施する。

◆オープンテラスの活用に関して

- ・ 相談エリア全体を活用した運用とする → オープンテラス、鍵付き相談ブースの活用
- ・ 活動の様子が外から見えることで、参加しやすい環境をつくり、参加の動機付けにつなげる
- ・ 参加者がどの活動に参加するのか(しないのか)選べるようにして、参加の自由度を高める



相談エリア入口

名称	説明	主な利用用途
A 鍵付き相談ブース	・入口扉の開閉が可能。 ・チャットや画面共有の内容はブース外からは見えない。	クローズドな個別相談等
B オープンテラス	・入口の開閉が可能。 ・テーブルごとにグループチャットが可能。 ・テーブルの出入り自由。	スタッフとのおしゃべりや自習等、参加者のニーズに合わせた利用
C グループワーク ルーム(車座・教室)	・入口扉の開閉が可能。 ・鍵付き相談ブースより広い空間で、空間内の全員とチャットが可能。	講座型のプログラム等

* プログラムの内容によって適宜活動場所を調整

オープンDAY・オープンテラス活用の効果

効果

- 登録不要かつ活動の様子が外から見えることで、参加のハードルが下がった。
 - プログラムの途中参加・途中退出もしやすくなり、参加の自由度が上がった。
 - 参加者間に交流が生まれやすくなった。
- * プログラム終了後もオープンテラスに残り、参加者同士で交流する場面が見られた。
- * これまでプログラムに積極的に参加することがなかった来場者が、オープンテラスに入場してスタッフと交流した。



運営を通じて見えてきたこと

子ども・若者の声から	・ メタバース自体に面白味を求める ・ アバターの自由度、ワールド制作の自由度を求める ・ 「なんとなくふらっと」入れる場所ではない
保護者の声から	・ 県内中心部から離れた地域では、資源が限られている ・ 保護者の困り感、子どもに合う育ちの場や支援機関を探している ・ 保護者自身の孤立 →バーチャルユースセンターが担う役割やニーズは大きいと考える
プログラム運営から	・ バーチャル埼玉内では、非言語で「自分らしさ」を出すことが難しいが、非言語で自己表現をしたい子ども・若者もいる ・ スタッフや参加者との関係づくりのために、言語によるコミュニケーションを取らざるを得ないが、即座な言語化が難しい子ども・若者も多い ・ メタバースは大きな可能性を持つ空間であるが、現状は言語によるコミュニケーションに頼るところが大きい ・ 年代で楽しみ方や話題が異なるため、プログラムを分けたほうがよい ・ 自分の興味のあるプログラムに毎回参加する利用者も出てきている
実際の利用状況から	・ さいたまユース利用者 → 居場所が開いていない時間帯に利用できるもうひとつの居場所としてバーチャルユースセンターが認知され始めている。 ・ 教育支援センター利用者 → 定着が見られない ・ 一般の申込み → 一定の定着が見られる ※オープンDAYの実施により最初の参加ハードルが下がったことや、オープンテラスの活用により自分の過ごしたいように過ごせる参加の自由度が上がったことが背景にあると考える。

試行期間の振り返り

開室時間	・ 曜日や時間帯に特徴的な参加傾向は見られない。 ・ 開室日を固定することで、参加者が認識しやすく、周知も容易となる。 ・ 週2～3回に分けて開室する。
事前登録制	・ こども・若者にとって登録制のハードルは高かった。8月は未登録でも入れるようになったことで、利用者数も増加した。 ・ 8月は全日オープンDAYで実施したが、現状酷い荒らし行為は見られない。
プログラム運営	・ ターゲットを絞り対象や内容を明確にして広報を行う。 ・ 内容は、テーマトーク(趣味、困りごと)を中心に、こども・若者の「やりたい」を反映したプログラムや保護者対象のプログラムに参加者が集まった。一方で、講座型のプログラムは参加者が集まりにくい。 ・ 「小学生」と「中高生・若者」に年代を分けて実施する。 ・ 相談エリア全体を活用したことで、参加のハードルが下がり、参加の自由度も高まった。
個別相談	・ 開室時間に合わせて実施。事前予約制、当日に空きがあれば予約不要で参加可。 ・ スタッフとの個別の会話をきっかけに「相談したい」という声上がり、相談のニーズが見えてきている。
ターゲット層	・ 推しトーク(アニメ・ゲーム)が人気。また「不登校」をテーマにしたプログラムにこども・保護者の参加がある。定着しているこどもの中には不登校のこどももいる。 ・ 共通の趣味や困りごとといった共通項を通じた交流ニーズがうかがえる。

埼玉県バーチャルユースセンター 開設記念シンポジウム

こども・若者の居場所とは ユースワークから見るバーチャル空間の可能性

メタバース（仮想空間）を活用したこどもや若者の居場所として
2024年10月にオープンした埼玉県バーチャルユースセンター。
開設から1年を記念したシンポジウムを開催します。
この1年の取り組みを振り返り、バーチャルユースセンターの運営から
見えてきた子どもたちを取り巻く社会課題とユースワークの可能性、
全国の取り組みについて、欧米ユースワークの実践紹介などを報告し、
今後の展望について考えます。

**バーチャルユースセンターの実践と
ユースワーク研究の最前線をぜひお聞かせください。**

先着順

30名

2025年

10/4 土

時間 14:00-16:00
(開場 13:30)

会場 コモンズカフェ
(認定NPO法人さいたまユースサポートネット組織本部
さいたま市見沼区堀崎町12-39)

参加費 無料

対象

若者

こども・若者支援に
関わっている方

教育・行政関係者

県民の方

登壇者



日本福祉大学社会福祉学部専任講師

両角 達平氏



公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会
こども若者支援担当部長
一般社団法人ソーシャルベタゴジネット
代表理事

松田 考氏

お申し込み

こちらのQRコードからお申し込みください。
後日、録画配信を予定しています。



開催に関するお問い合わせは、
下記までご連絡ください。
埼玉県バーチャルユースセンター
☎ 080-7805-1780



埼玉県バーチャルユースセンターは認定NPO法人さいたまユースサポートネットが埼玉県の委託を受けて運営しています。

バーチャルユースセンター

10月イベントカレンダー



VYC体験会！特別オープンデー

10月8日（水）～10日（金）

開 室 時 間 16:00～19:00

プログラム時間 17:00～18:00

8日 水

イバショビルド（高校生以上対象）

9日 木

推しトーク「好きなテーマパーク」

10日 金

ぶっチャけトーク「学校行きたくない」

10月11日（土）はリアルで！

こどもの居場所フェア埼玉に出展します！

出 展 時 間 11:00～16:00

11日 土

おためしVYC

こどもの居場所フェア埼玉
ソニックシティ 第1展示場
★大宮駅東口より徒歩3分



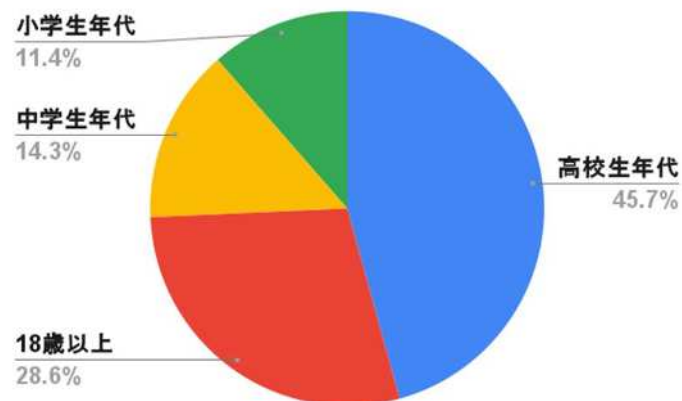
ちょこっと見学だけでもOK！
お気軽にご参加ください

埼玉県バーチャルユースセンター（VYC）

【参考】埼玉県バーチャルユースセンター デモ参加者アンケート結果

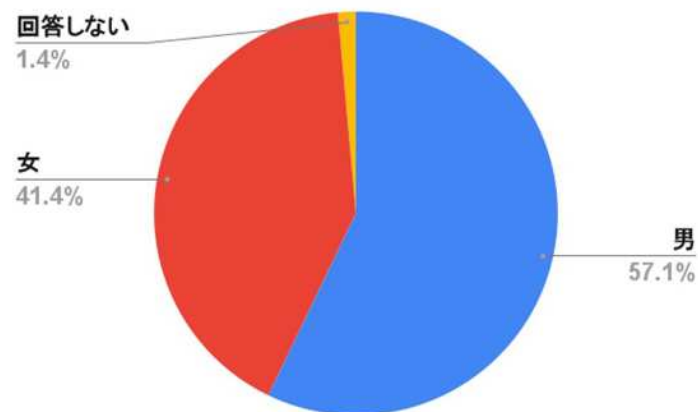
質問① (回答数:70件)

あなたの年代を教えてください。



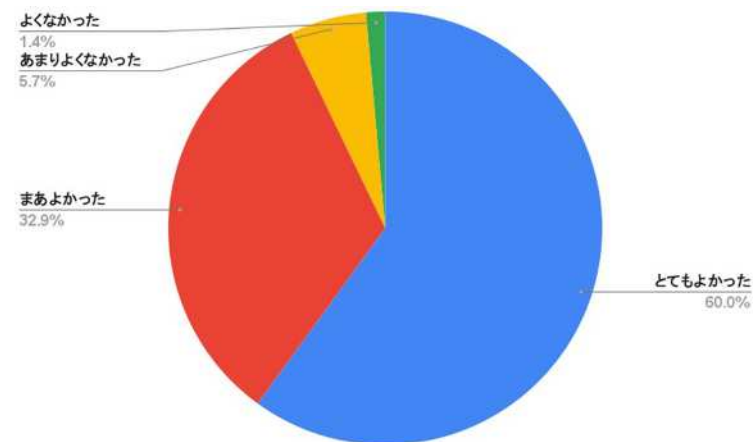
質問② (回答数:70件)

あなたの性別を教えてください。



質問③-1 (回答数:70件)

バーチャル空間でアバターになってバーチャルユースセンターに参加したことについてあなたの考えに近いものを1つ選んでください。



* 本アンケートの回答者は
コンパスナビ、狭山市・本庄市教育支援センター、しっきーず、
地域子育てNW所沢、さいたまみゅーず、和光高校、大宮ろう
学園、そのほかさいたまユース数名

【留意事項】

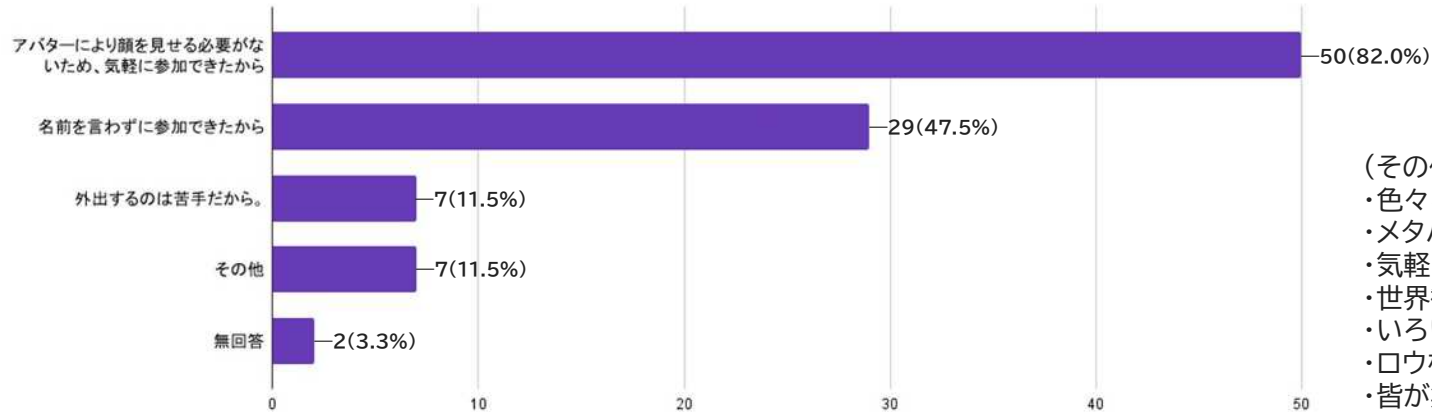
- ① 対面でアンケートをとっている。
- ② 1～2回程度のデモ参加者にアンケートをとっている。

【参考】埼玉県バーチャルユースセンター デモ参加者アンケート結果

質問③-2

(回答数:61件)

(「とてもよかった」「まあよかった」を選んだ方にお聞きします。)よかった理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



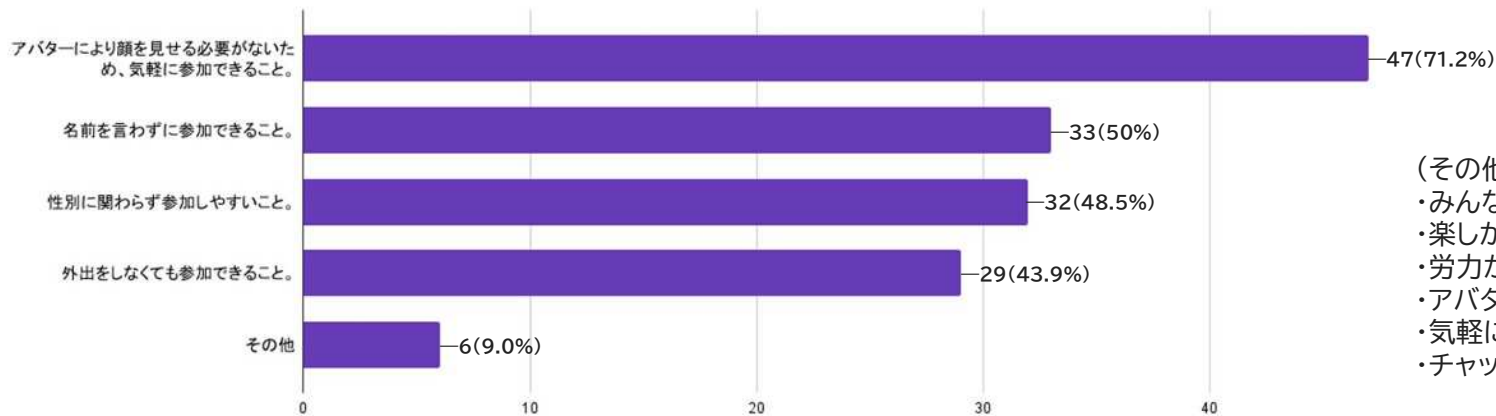
(その他)

- ・色々な人のチャットのコメントが楽しかった。
- ・メタバースを一度体験してみたかったから。
- ・気軽に来ることができるから。
- ・世界観が好き
- ・いろいろあそべてたのしかった
- ・口ウなのでコミュニケーションしやすくてよかった
- ・皆が集まることで、良い会話になったから

質問④

(回答数:66件)

バーチャル空間の良い点はどのような点だと思いますか。あてはまるものを全て選んでください。



(その他)

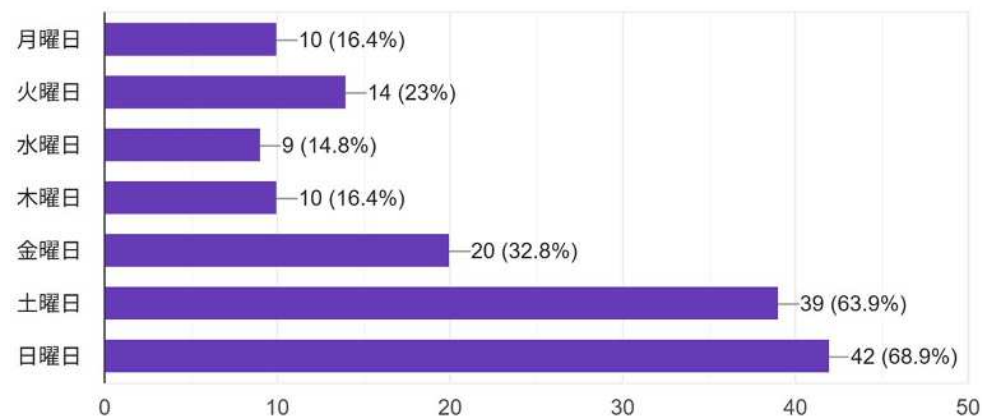
- ・みんなでできたから
- ・楽しかった
- ・労力が少なくていい。寝ながら話せる
- ・アバターの操作ができた
- ・気軽にチャットなどができ、交流がしやすいと思った
- ・チャットの方が緊張しない時もあります

【参考】埼玉県バーチャルユースセンター デモ参加者アンケート結果

質問⑤-1

(回答数:61件)

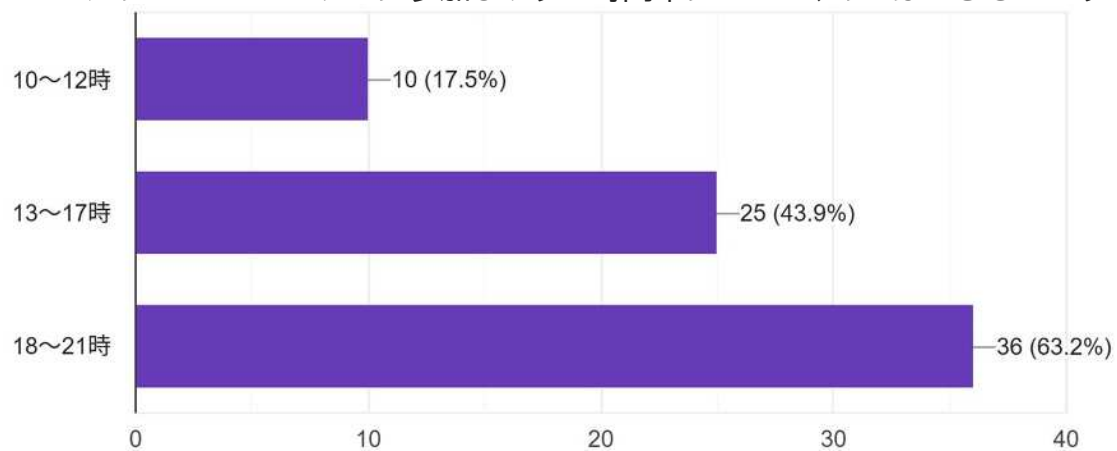
バーチャルユースセンターに参加しやすい曜日について、あてはまるものをすべて選んでください。



質問⑤-2

(回答数:57件)

バーチャルユースセンターに参加しやすい時間帯について、あてはまるものをすべて選んでください。

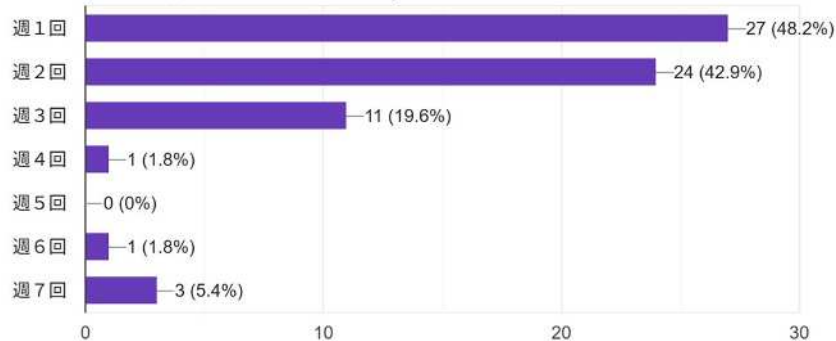


【参考】埼玉県バーチャルユースセンター デモ参加者アンケート結果

質問⑤-3

(回答数:56件)

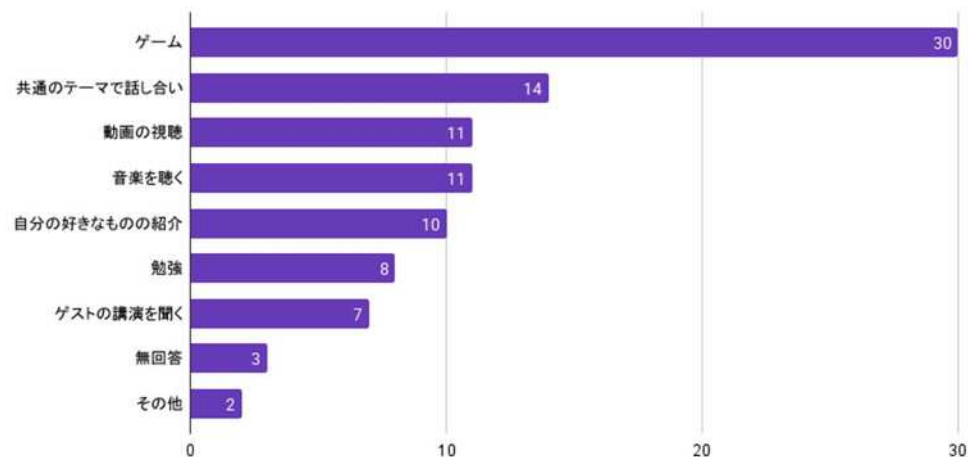
バーチャルユースセンターに参加しやすい回数について、あてはまるものをすべて選んでください。



質問⑥

(回答数:67件)

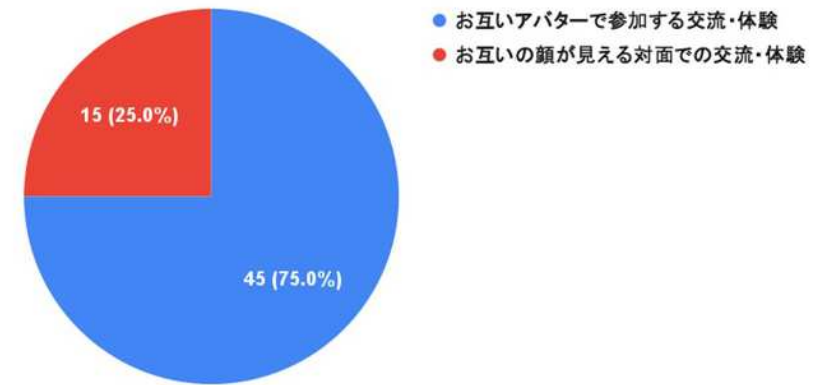
実施してほしい交流・体験プログラムを1つ選んでください。



質問⑦-1

(回答数:60件)

若者どうしの交流・体験プログラムに参加する際、お互いの顔が見える対面型と、お互いアバターで参加するバーチャル型のどちらかを選べる場合、あなたが参加したい方を選んでください。



(その他)

- ・全部
- ・ラジオ
- ・志木市を作ってほしい

【参考】埼玉県バーチャルユースセンター デモ参加者アンケート結果

質問⑦-2

(回答数:44件)

その理由を教えてください。

お互いの顔が見える対面での交流・体験	相手の方の表情や声のトーン、しぐさがとてもよくわかるし、一緒に話題や感情を共有するには、個人的意見として対面の方が深く関われると僕は考えて、僕自身人の表情がわかりにくくて文章やリアクションだけでと誤解を生むこともあったと考えたからです。
	表情などがわかりやすい
	表情が見えた方が相手の気持ちがよくわかるから、話しやすいと思うから。
	相手がどのような人かわからない上で関わりたいと思う。信頼関係が成り立っていない人に話をしたいと思わない。(バーチャル上で)信頼関係をどう築くかが課題。
	そのほうがなかよくなれそうだから
	表情を読み取りたいから
	相手の顔を見れないから怖い
	顔を見るのが好きだから
	顔が見えてるの方が気持ちを伝えやすい

お互いアバターで参加する交流・体験	顔を出したくないから
	今は顔を見せることに(あまり)抵抗はないが、見せたくない人が多いと思うので、それに合わせたい。
	わざわざ「現地で集まる」という労力を使わなくていいから。金銭的な面で困っている人からすると、バーチャルで集まることにメリットがある。
	顔を出したくない人もいるから
	その方が緊張しないので
	顔見えるの気まずい
	なんとなく
	顔は気まずいから
	現実社会だと、どうしても外見を気にしてしまい、出かけるために準備する時間がかかってしまうため、出かけて人に会うということのハードルが上がりめんどくさくなってしまうが、アバターであれば自分が思い立ったときにすぐにバーチャル空間に出て他人と交流できるから
	アバターを使うことで、対面の緊張感少なく気軽に交流できるから。身だしなみを気にせずに参加できる。
	初対面の方とも気兼ねなく会えると思うから
	人見知りでも参加しやすい
	自由が好き
	色んな人と関わったり、楽しめられるから。
	顔を見せるひつようがないため、プライベートが安全。
	アバターの方がかわいいから。
	対面だとなんかちょっとやだ。さんかしづらい。

【参考】埼玉県バーチャルユースセンター デモ参加者アンケート結果

質問⑦-2

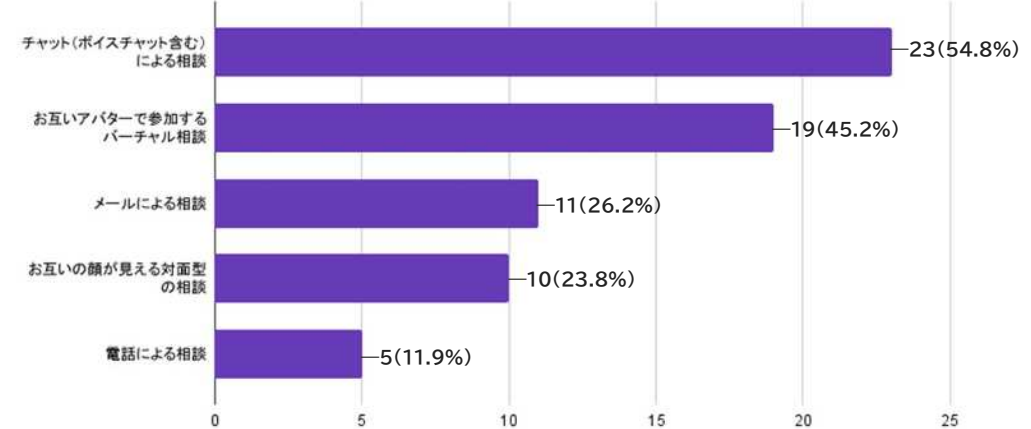
お互いアバターで参加する交流・体験

アバターの方がより話しやすいから
アバターで参加したほうが気軽だから
アバターで参加した方が話しやすいから。
恥ずかしいから
お互いより知ることができると話題も広まると思う
顔を見て話すよりも、アバターで話した方が、楽かなと思ったから
顔を見せず、安心してやりとりできるから
顔を出す必要ないから
気楽に参加できるから
お互いの顔が見れないからです
お互いの顔を見ない方が安心
他の人と顔を合わせて話すと緊張をしてしまうため。
安心して交流できるから。
匿名なので気軽に参加できるから
アバターの方が立体的で面白そうだから
他の人と顔を合わせて話すと緊張をしてしまうため。

質問⑧-1

(回答数:42件)

(相談利用者のみ回答)あなたが悩みごとを相談する場合、どのような相談方法なら利用したいですか。あなたが利用したい方法をすべて選んでください。



質問⑧-2

(回答数:27件)

その理由を教えてください。

お互いの顔が見える対面型の相談	・対面の方がラポールが形成しやすいから、相手の表情が見えるのは重要だ。 ・顔を合わせた方が相談しやすいから。
お互いアバターで参加するバーチャル相談	・顔を見せずにメッセージなどを送り、リアクションがいっぱいあり、メールなどだと相手の思っている気持ちがわからないので、リアクションがあるのはとても良いと思った。 ・安全だし、話しやすい。 ・チャットよりみんなと一緒に交流した方が情報を得ることができるから

【参考】埼玉県バーチャルユースセンター デモ参加者アンケート結果

質問⑧－２

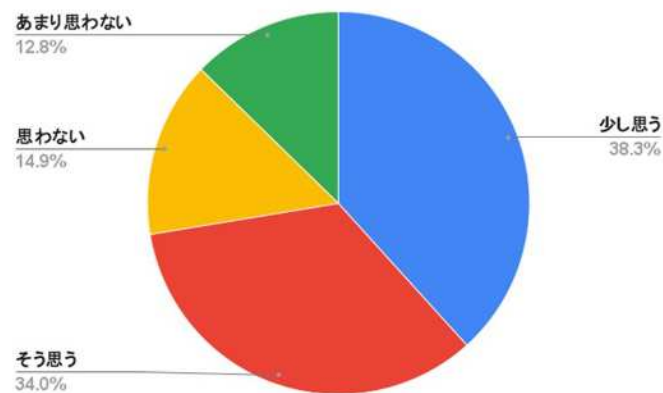
メールによる相談	・アバターも顔もみえないから ・とくにない ・対めんだと相だんしづらいしなんかきまずい。
チャット(ボイスチャット含む)による相談	・話しやすいから ・楽だから ・その方が話しやすい ・楽でキーボードで打つだけだから ・チャットの方が楽だからです ・チャットがあった方が相談しやすいから
電話による相談	聞き取り／相談は信頼のおける人にする。顔が見えない人には相談しない。 一度会ったことがあるのが前提 で、対面で相談したい。バーチャル上では相談しない。
お互いの顔が見える対面型の相談、電話による相談	自分の話(悩み事)をする際に、できるだけ 的確に伝える には文章やアバターだとなかなか伝わりにくいので、声や相手の顔がわかって自分の気持ちが伝わりやすい電話や対面がいいと思いました。
お互いの顔が見える対面型の相談、チャット(ボイスチャット含む)による相談	どのような人と話しているかわかることで、安心感を得られるため。
お互いの顔が見える対面型の相談、メールによる相談	直接の方が安心感がある
メールによる相談、チャット(ボイスチャット含む)による相談	文章を書く方がラクだし、 気軽 な感じがするから。

お互いアバターで参加するバーチャル相談、チャット(ボイスチャット含む)による相談	・バーチャル相談のほうがはなしやすいから。 ・チャットによる会話の方がスムーズで話しやすい ・チャットが一番楽 ・チャットがあった方が聴覚障害者でも参加する事ができるから
お互いアバターで参加するバーチャル相談、メールによる相談	アバターなら顔バレもなく自分の悩みを話せるからです
お互いアバターで参加するバーチャル相談、メールによる相談、チャット(ボイスチャット含む)による相談	お互いの顔が見える状態で相談することが不安が持っている人がいるかもしれない。だから、安心して相談することができると思う。
お互いの顔が見える対面型の相談、お互いアバターで参加するバーチャル相談、電話による相談	リアルタイムで話せる。アバターや電話だと顔をあわせなくてよい。
お互いの顔が見える対面型の相談、お互いアバターで参加するバーチャル相談、チャット(ボイスチャット含む)による相談、電話による相談	内容によってツールを選べるのが良い かなと思った。

【参考】埼玉県バーチャルユースセンター デモ参加者アンケート結果

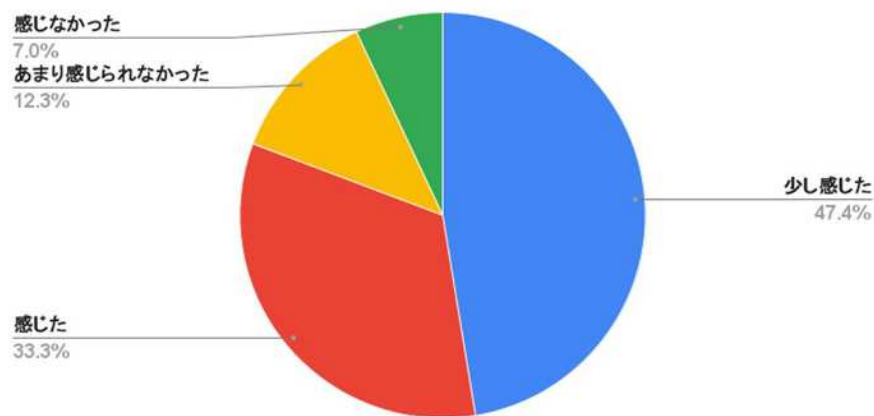
質問⑨ (回答数:47件)

(相談利用者のみ回答)バーチャル空間であれば、人に相談しにくいことも相談しやすいと思いますか。
あなたの考えに近いものを選んでください。



質問⑩ (回答数:57件)

バーチャルユースセンターを家(普段寝起きしている場所)や学校(授業や部活、クラブ活動)以外の「ここに居てもいい」という居場所と感じたか、
あなたの考えに近いものを1つ選んでください。



【参考】さいたまけん★こどものこえ アンケート結果・バーチャル空間の遊び場について

さいたまけん★こどものこえ

活動内容

- 県政等に関するWEBアンケートへの回答
- その他、こどもの意見表明に関する取組への協力

募集対象

- 1 埼玉県内に在住し、応募時点において以下のいずれかの区分に該当する方
 - ① 未就学児(埼玉県内在住)の保護者 ※ 保護者は県外在住の者を含む。
 - ② 小学生低学年(1年生から3年生)
 - ③ 小学生高学年(4年生から6年生)
 - ④ 中学生
 - ⑤ 高校生相当年齢
- 2 上記1②～⑤の区分の申込者の保護者

*** 主に一般家庭の回答が多いと推察される。**



アンケート結果【こども】

調査の概要

アンケートテーマ バーチャル空間の遊び場について
 アンケート期間 令和7年2月14日～令和7年2月28日
 対象メンバー数 1,566人
 回答数 933人
 回答率 59.6%

属性	人数(人)	比率(%)
保護者(未就学児)	179	19.2
小学校低学年(1～3年生)	265	28.4
小学校高学年(4～6年生)	293	31.4
中学生	126	13.5
高校生	70	7.5
合計	933	100

調査の目的

埼玉県では、みんなが楽しく安全に遊べる、バーチャル空間の遊び場「埼玉県バーチャルユースセンター」を作りました。

この遊び場では、みんなが好きなアバターになって、友達やスタッフとチャットしたり、お話したりできます。

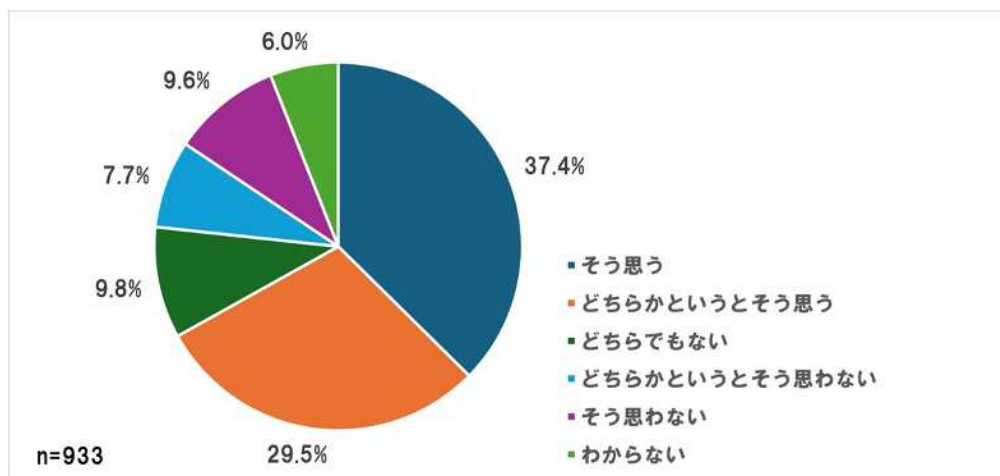
遊び場をもっと楽しく、みんなが使いやすいようにするために、アンケートにご協力いただきました。

【参考】さいたまけん★こどものこえ アンケート結果・バーチャル空間の遊び場について

質問①

埼玉県が運営するバーチャル空間の遊び場に興味がありますか。(1つえらんでください。)

→ 『そう思う(計)』が6割半ば超(66.9%)



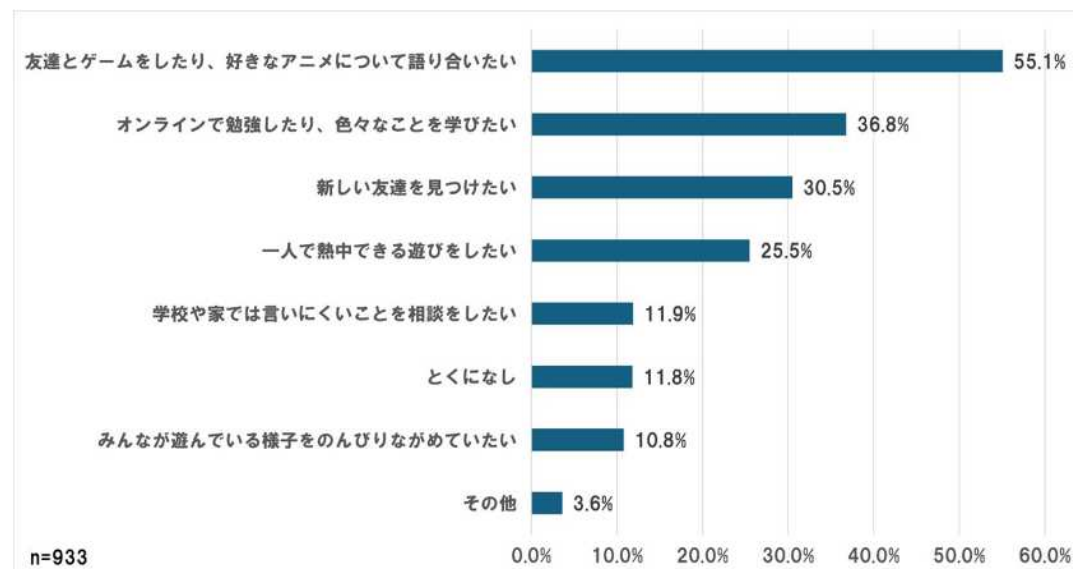
【分析】

「そう思う」(37.4%)と「どちらかというと思う」(29.5%)を合わせた『そう思う(計)』が6割半ば超(66.9%)でした。

質問②

バーチャル空間の遊び場では、どのようなことをしたいですか。(すべてえらんでください。)

→ 「友達とゲームをしたり、好きなアニメについて語り合いたい」が5割半ば(55.1%)



【分析】

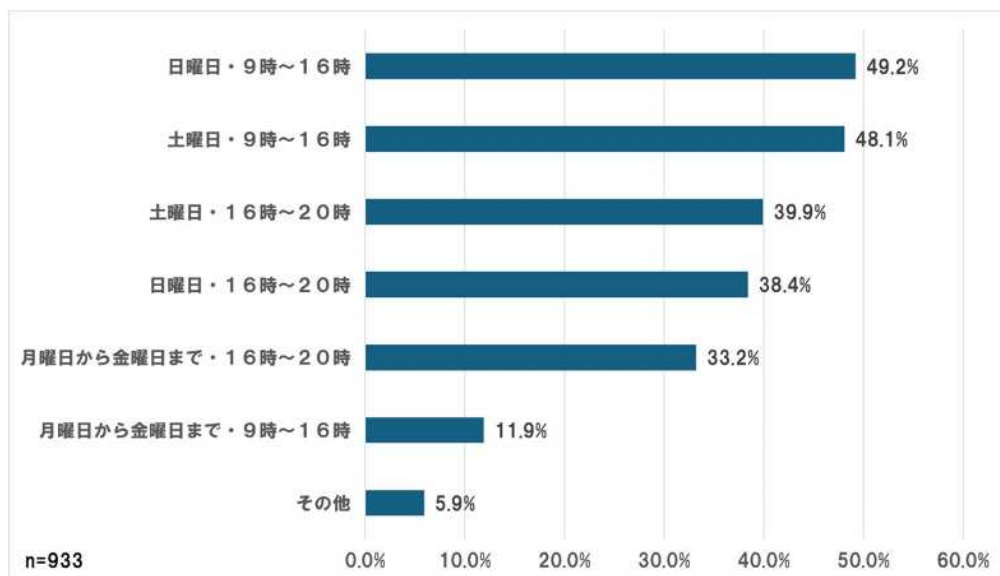
「友達とゲームをしたり、好きなアニメについて語り合いたい」が最も多く5割半ば(55.1%)でした。次いで、「オンラインで勉強したり、いろいろなことを学びたい」が3割半ば超(36.8%)でした。

【参考】さいたまけん★こどものこえ アンケート結果・バーチャル空間の遊び場について

質問③

どの時間帯であればバーチャル空間の遊び場を利用したいと思いますか。(すべてえらんでください。)

→ 「日曜日・9時～16時」が5割弱(49.2%)



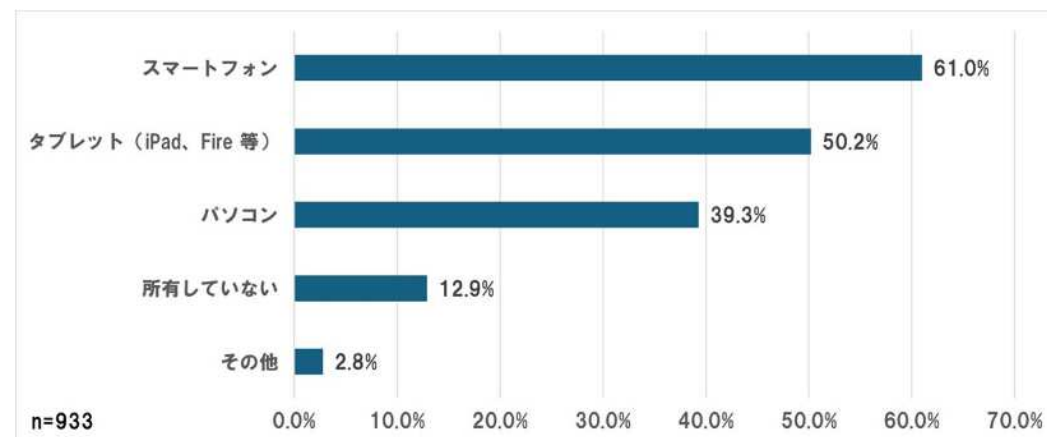
【分析】

「日曜日・9時～16時」が最も多く5割弱(49.2%)でした。次いで、「土曜日・9時～16時」も5割弱(48.1%)でした。

質問④

自分が使用できる、自分や保護者(ほごしゃ)のパソコン、スマートフォン、タブレット等がありますか。(すべてえらんでください。)

→ 「スマートフォン」が6割強(61.0%)



【分析】

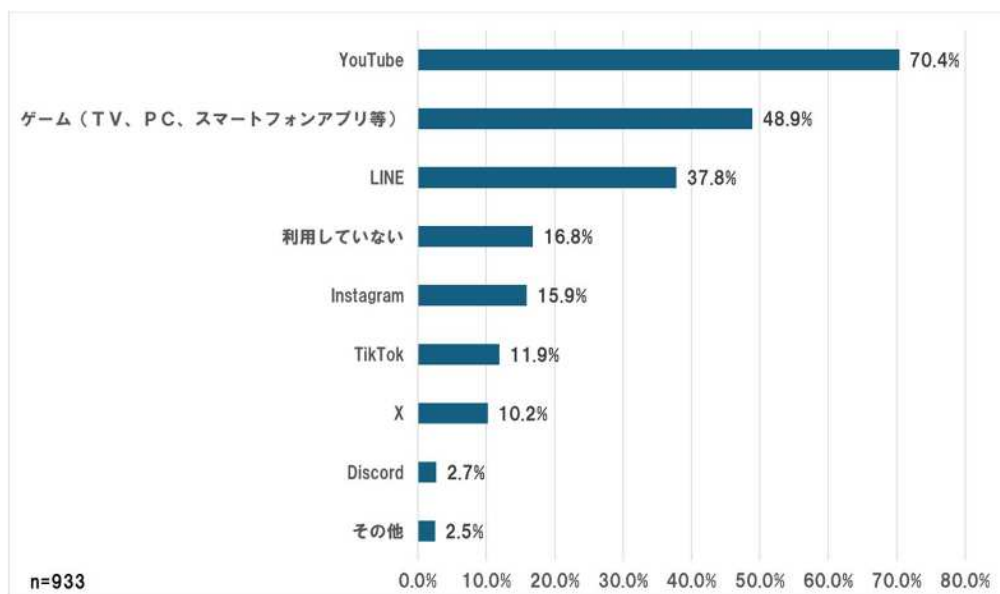
「スマートフォン」が最も多く6割強(61.0%)でした。次いで、「タブレット (iPad, Fire 等)」が5割強(50.2%)でした。

【参考】さいたまけん★こどものこえ アンケート結果・バーチャル空間の遊び場について

質問⑤

ふだん利用しているオンラインサービスを教えてください。(すべてえらんでください。)

→ 「YouTube」が7割強(70.4%)



【分析】

「YouTube」が最も多く7割強(70.4%)でした。次いで、「ゲーム(TV、PC、スマートフォンアプリ等)」が5割弱(48.9%)でした。

質問⑥

バーチャル空間の遊び場をもっと楽しくするアイデアがあったら教えてください。

(例)勉強のことでわからないことを聞ける人がいたらうれしい！

<主なご意見>

- 気軽に聞ける雰囲気だといい。
- いろんな仕事のことをきける人がいたらいいな。
- 学校の先生や友達の事を簡単に相談できる場所がほしい。
- 危険がないのが分かる遊び場であってほしい。
- みんなで遊べるようなことがあったらうれしい。
- 自分の趣味や特技を活かせる場がほしい。(勉強を教えあったり、質問に答えたり)
- 勉強を教えてほしい。
- 同じ趣味とか悩み事があればその人たちと話したり、一緒に考えたりしたい。
- みんなで協力するゲームイベントなどがあればより楽しくなると思います。
- 共通の趣味について語り合える場。
- ゲームの大会があったら楽しいかも。

※ 上記を含め、計383件の貴重なご意見をいただきました。

【参考】さいたまけん★こどものこえ アンケート結果・バーチャル空間の遊び場について

アンケート結果【保護者】

調査の概要

アンケートテーマ バーチャル空間の遊び場について
アンケート期間 令和7年2月14日～令和7年2月28日
対象保護者数 215人
回答数 86人
回答率 40.0%

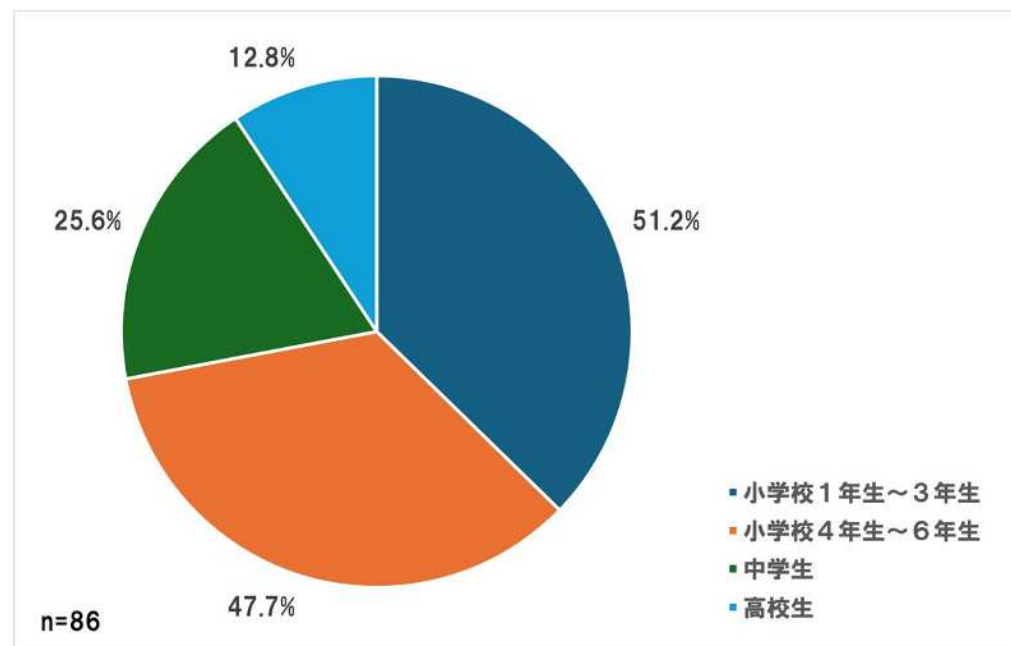
調査の目的

県では、バーチャル空間上に、アバターを使ってこども・若者が安心して気軽に参加でき、体験・交流・相談等の機能を備えた居場所として埼玉県バーチャルユースセンターを令和6年10月から試験的に設置しました。本事業の更なる展開を目指すにあたり、「さいたまけん★こどものこえ」のメンバーの保護者の皆さまにご意見を伺い、今後の参考とさせていただくため、アンケートを実施しました。

質問①

お子様の学年を選択してください。(全て選択してください。)

→ 「小学校1～3年生」が5割強(51.2%)



【分析】

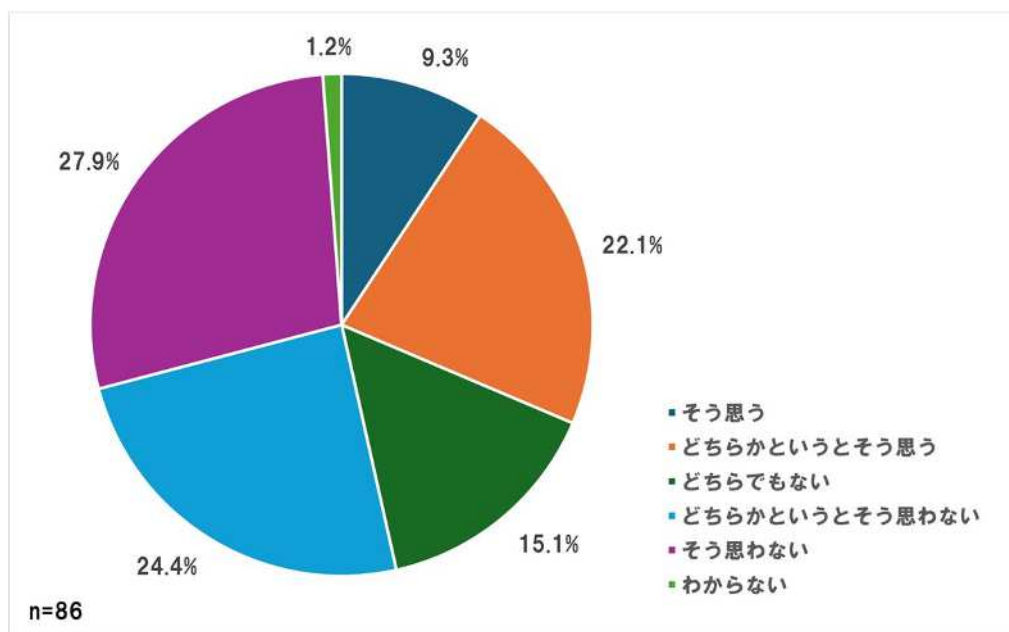
「小学校1年生～3年生」が最も多く5割強(51.2%)でした。次いで、「小学校4年生～6年生」も4割半ば超(47.7%)でした。

【参考】さいたまけん★こどものこえ アンケート結果・バーチャル空間の遊び場について

質問②

お子様に、バーチャル空間上の居場所を利用させたいと思いますか。
(1つ選択してください。)

→ 『そう思わない(計)』が5割強(52.3%)



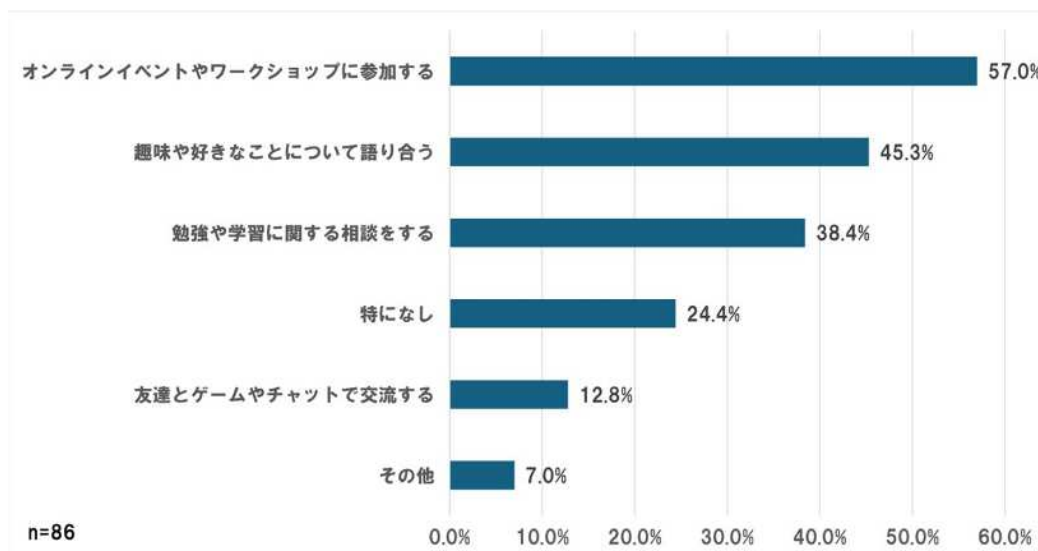
【分析】

「そう思わない」(27.9%)と「どちらかというと思わない」(24.4%)を合わせた『そう思わない(計)』が5割強(52.3%)でした。

質問③

お子様が、バーチャル空間上の居場所で、どのような活動をしてほしいと思いますか。(全て選択してください。)

→ 「オンラインイベントやワークショップに参加する」が5割半ば超(57.0%)



【分析】

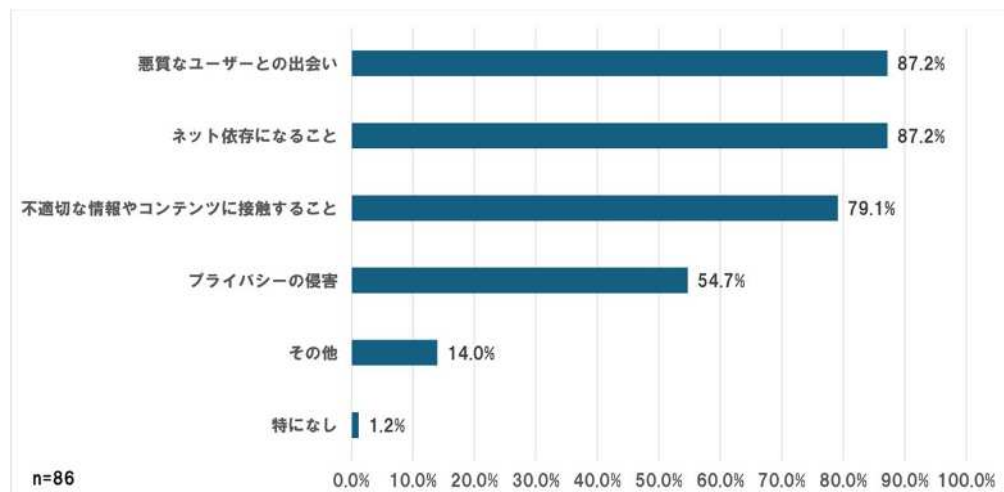
「オンラインイベントやワークショップに参加する」が最も多く5割半ば超(57.0%)でした。次いで、「趣味や好きなことについて語り合う」が4割半ば(45.3%)でした。

【参考】さいたまけん★こどものこえ アンケート結果・バーチャル空間の遊び場について

質問④

お子様がバーチャル空間上の居場所を利用する際に、どのような点に不安を感じますか。(全て選択してください。)

→ 「悪質なユーザーとの出会い」「ネット依存になること」が8割半ば超(87.2%)



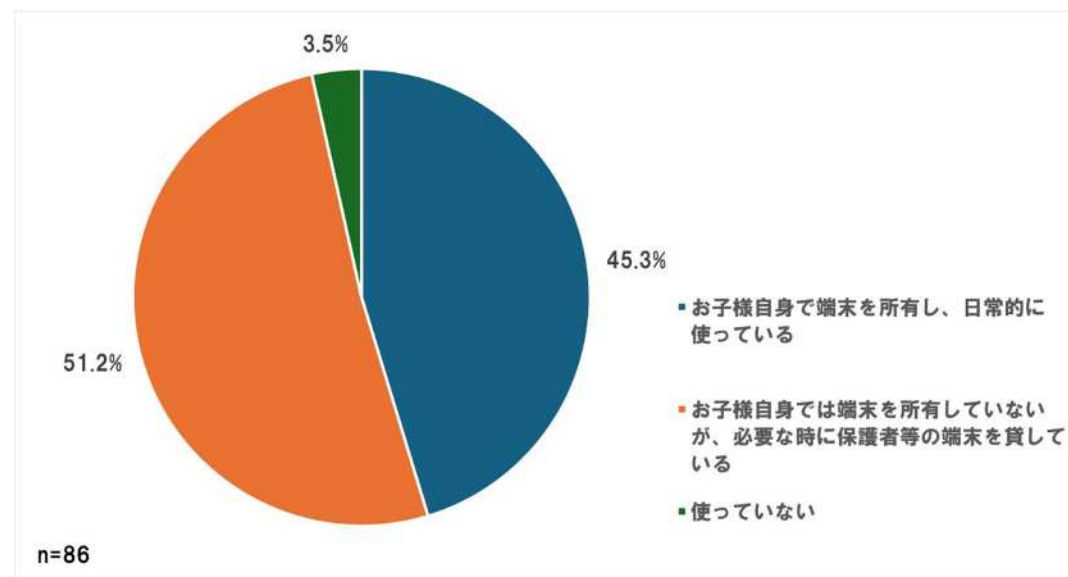
【分析】

「悪質なユーザーとの出会い」と「ネット依存になること」が最も多く8割半ば超(87.2%)でした。

質問⑤

お子様のご自宅において、インターネットに接続できるパソコン、スマートフォン、タブレットなどを日常的に使用していますか。(1つ選択してください。)

→ 「お子様自身では端末を所有していないが、必要な時に保護者等の端末を貸している」が5割強(51.2%)



【分析】

「お子様自身では端末を所有していないが、必要な時に保護者等の端末を貸している」が最も多く5割強(51.2%)でした。次いで、「お子様自身で端末を所有し、日常的に使っている」が4割半ば(45.3%)でした。

【参考】さいたまけん★こどものこえ アンケート結果・バーチャル空間の遊び場について

質問⑥

保護者向けにどのような説明があるとよいと思いますか。
(例: プログラムの内容や参加者の年齢層、安全対策、保護者のためのサポート体制等)

<主なご意見>

- 全くやり方がわからないため丁寧な説明があるとよいと思います。また電話でやり方を教えてくださる窓口があると助かります。
- バーチャル空間が無秩序な状態ではない、という安心感が欲しい。
- まず時間について、例えば1時間見たら強制的に30分間休ませるなどしてくれると良い。また、バーチャルの空間に居場所があること自体は良いと思うが、そこからどうリアルな生活につなげるかまで示してほしい。
- 匿名での利用禁止、登録については個人を証明するものを必須とし定期的に本人と保護者の確認を必要とするなどがないと親の立場では利用させる気にならない。
- リアルへの関心が薄れないための工夫について
- 利用することによる効果の検証
- 不適切な情報やコンテンツに接触しないようにするための対応策。ネット依存にならないために、子どもへの対応策。
- バーチャル空間のメリットとデメリットを聞きたい。
- バーチャル空間で居場所が必要な理由
- 視力が低下すること、スマホ首になること、長時間の利用で考える脳が働かなくなること

※ 上記を含め、計52件の貴重なご意見をいただきました。

彩の国
埼玉県

わたしたちの未来には、
わたしたちの意見が必要だから

さいたまけん★こどものこえ メンバー募集のお知らせ

こどもたちの思いや考えを生かし、こどもの幸せにつながる、日本一暮らしやすい埼玉県をつくるために、「さいたまけん★こどものこえ」のメンバーを募集します！
メンバーのみなさんには、埼玉県をより良くするための取組やこどもに関係する施策等への意見のほか、あったらいい遊び場、学校で体験したい活動などについて、インターネットを使ったアンケートに答えていただきます。ぜひ、皆さんの声を聴かせてください。

募集期間
令和6年8月1日(木)から
令和6年9月30日(月)まで

わたしたちだって
意見を言いたい！

埼玉県マスコット
「コバトン」「さいたまっち」

募集対象
【こども】小学生・中学生・高校生の年齢の人
【大人】参加する小学生から高校生の保護者(養育者)
※本就学児を育てている保護者(養育者)も応募可能です。
募集人数 1,000人程度 ※応募者多数の場合は抽選となります。

アンケートに1回以上答えると全員に
図書カード**500円分**
プレゼント！
※小・中・高校生の保護者(養育者)の方は対象外。

詳しくは、ホームページ「さいたまけん★こどものこえのメンバー募集について」をご覧ください。
さいたまけん こどものこえ <https://www.pref.saitama.lg.jp/a0607/kodomonokoe/bosyuu.html>

埼玉県バーチャルユースセンター・プログラム概要まとめ(令和6年10月～令和7年8月31日)

	プログラム	実施日	内容	回数	参加者数
1	テーマトーク／推しトーク／ランチトーク	10月8日(火)、15日(火)、22日(火)、29日(火) 11月29日(火) 12月6日(金)、13日(金)、20日(金) イベント/トーク、 20日(金) イベント/みちねこ、27日(金) 1月7日(火)、25日(土)、1月31日(水) 2月13日(木)、21日(金)、27日(木)、28日(金) 3月7日(金)、11日(火)、14日(金)、28日(金)/オープンDAY、30日(日)/オープンDAY 4月5日(土)/オープンDAY、11日(金)、15日(火)、18日(金)、22日(火)、25日(金)、26日(土) 5月1日(木)、3日(土)/オープンDAY、7日(水)、9日(金)、20日(火)、21日(水)、27日(火)、29日(木)、31日(土)/オープンDAY 6月3日(火)、17日(火)/オープンDAY、24日(火)、26日(木)、28日(土) 7月1日(火)/オープンDAY、13日(日)/オープンDAY、29日(火)2回/オープンDAY 8月12日(火)/オープンDAY、14日(木)/オープンDAY、21日(木)/オープンDAY	その会ごとにテーマを設定し、ボイスチャットやテキストチャットを使って参加者と自由におしゃべりを楽しむプログラム	50	99
2	哲学・表現コミュニケーションWS ボレボレひろば	10月17日(木) 11月8日(金)、12日(火)、22日(金)、26日(火) 12月3日、10日(火)、17日(火) 1月10日(金)、17日(金)、23日(木)、29日(水) 2月7日(金)、14日(金)、20日(木)、26日(水) 3月6日(木)、13日(木)	YESまたはNOで答えられるクローズドクエスションや、テーマを決めたトークで交流する ボイスチャットやテキストチャット、アクションボタンを使用し、表現コミュニケーションを楽しむ	18	50
3	宝探し	10月25日(金)	小学生を対象とした「バーチャル埼玉に隠れているアバターを探す」プログラム	1	43
4	探検／はじめてのVYC／おたけしVYC	10月1日(火)、8日(火) 2月25日(火)/オープンDAY 3月26日(水)/オープンDAY、27日(木)/オープンDAY、29日(土)/オープンDAY 4月2日(水)/オープンDAY、4日(金)/オープンDAY、10日(木)、17日(木)、24日(木) 5月13日(火)/オープンDAY、22日(木)/オープンDAY 6月8日(日)/オープンDAY、10日(火)、17日(火) 7月8日(火)/オープンDAY、15日(火)/オープンDAY、24日(木)/オープンDAY	初めて参加する方や、不慣れな方へのオリエンテーションとして、バーチャル埼玉ツアーや車座での交流をし、VYCの説明をする	19	32
5	からだの話 ①LGBTQ基礎知識セミナー ②こころの話・からだの話 ③健康教室 ④からだの話	11月1日(金)、19日(火)、5日(火) 1月28日(火)	若者に向けての、からだや心のことについて学ぶ	4	22
6	オフ会	12月26日(木) 1月23日(木)	10月実施のご当地トークプログラムの振り返りをし、煮ぼうとうをあらためて紹介する 実際に煮ぼうとうを作り、いっしょに食べる	2	16
7	講演会トークカフェ特別編	12月20日(金) イベント	講演会 テーマ「世界は失敗作であふれてる！だから面白い、だから進める！」	1	12
8	観るラジオ☆バーたま！	1月16日(木) 2月5日(水) 3月18日(火) 4月3日(木)/オープンDAY 5月29日(木) 6月26日(木) 7月26日(土)	スタッフがパーソナリティとなりゲストの話を聴く、ラジオ的プログラム 出演者がそれぞれZoomを通して対談、カスタムパネルにZoomの画面を投影し参加者が視聴する 音声は、車座に配置したアバターのマイクを使用する	7	11
9	見沼の自然を知ろう！	12月13日(金)、27日(金) 1月22日(水)	埼玉県さいたま市内の緑地を画像で見ながら、クイズを交えて自然環境や生き物について学ぶ	3	5
10	VYC向上委員会	2月8日(土)	バーチャルユースセンターに期待することや、やってみたいことを語り合う	1	3
11	スタッフラジオ	5月1日(木) 5月13日(火)/オープンDAY 6月10日(火)/オープンDAY、24日(火) 7月8日(火)/オープンDAY、15日(火)/オープンDAY、22日(火)	スタッフトークの配信／スタッフが何気ない日常をトークし、参加者が聴く。チャットの書き込みも受け付ける	7	3
12	プログラミング教室 「スクラッチをやろう」 ※Zoomへ移動	12月6日(金) 1月21日(水) 2月18日(火)	現役のプログラマーを講師に招き、Scratch(スクラッチ)によりプログラミングを学ぶ 車座に集合し簡単な自己紹介の後、門番を残し全員がZoomへ移動。講師の誘導によりスクラッチを体験する	3	2

埼玉県バーチャルユースセンター・プログラム概要まとめ(令和6年10月～令和7年8月31日)

	プログラム	実施日	内容	回数	参加者数
13	イバショビルド	5月18日(日) 6月22日(日) 7月20日(日) 8月17日(日)/オープンDAY	「自分たちに必要な居場所とは？」というテーマで、ざっくばらんに語り合い、自分たちが求める居場所について意見発信をする	4	4
14	ゆるっと自習室	12月3日(火)、10日(火)、17日(火) 1月24日(金)、30日(木) 2月12日(水)、19日(水) 3月5日(水)、12日(水)、19日(水) 4月9日(水)、16日(水)、23日(水)、30日(水) 5月8日(水)、15日(木) 6月5日(木)、12日(木)、19日(木) 7月3日(木)、10日(木)、22日(火)、31日(木)	ドリルや宿題などを参加者が持ち寄り、各自学習する 質問などにスタッフが答える	23	2
15	暦のハナシ	1月9日(木) 2月4日(火) 3月4日(火) 4月8日(火) 5月7日(水) 6月3日(火) 7月1日(火)/オープンDAY	西暦と和暦の違いや暦、毎月の行事について学ぶ	7	2
16	若者の声	3月21日(金)	就労支援担当者が進行役となり、子ども若者自立支援ルームを利用して一年経つ若者の経験談を聞く	1	1
17	まったりChill time	5月8日(木)、15日(木)、22日(木)/オープンDAY、27日(火) 6月5日(木)、12日(木)、19日(木) 7月3日(木)、10日(木)、17日(木)、24日(木)/オープンDAY、31日(木)	環境音楽の配信／学習プログラムや、トークプログラムの後に、環境音楽を聴きながら心身を休める時間を過ごす	12	1
18	発酵の話	1月8日(水)	発酵・発酵食品をテーマに健康や体に良い食事について学ぶ	1	0
19	お仕事トーク	1月15日(水) 2月3日(月) 4月28日(月) 5月20日(火) 7月17日(木)	各回ごとにテーマを決め、その職業に詳しい講師や現役の業界人を招いて講話や対話形式で話しを聴く	5	0
20	きいたんの部屋	6月14日(土) 7月6日(日) 8月19日(火)/オープンDAY	VYCスタッフがゲストを招きトークをする	3	13
21	もやトーク	8月3日(日)/オープンDAY、10日(日)/オープンDAY、31日(日)/オープンDAY	テーマに合わせて、日頃の悩みをスタッフに打ち明けたり、同じ悩みを持つ人とトークする	3	7
22	ぶっちゃけトーク	8月26日(火)/オープンDAY、28日(木)/オープンDAY	普段は言いづらい話題をテーマにして、家族や先生、友人にも言えない本音をトークする	2	25
23	謎解きゲーム	8月5日(火)/オープンDAY、7日(木)/オープンDAY	バーチャル埼玉に隠れたスタッフを探し出し、謎解きクイズに挑戦する	2	9
24	保護者のための“こころの保健室”	8月24日(日)/オープンDAY	＜保護者向け＞不登校の子を持つ保護者の悩みや質問に元養護教諭が答える	1	17

このほかにデモを24回実施(参加者234名)
合計実施数 204回(延べ利用者数613名)

埼玉県バーチャルユースセンター 運営マニュアル

令和7年10月1日

目次

1	埼玉県バーチャルユースセンターについて	2
(1)	埼玉県バーチャルユースセンターの設置場所について	2
2	バーチャル埼玉について	2
(1)	エリア全体概要	2
(2)	入室方法	3
(3)	基本操作方法	4
(4)	管理者権限保有者向け機能	7
(5)	バーチャル埼玉のセキュリティ	8
3	相談エリアの操作方法等	9
(1)	共通機能について（バーチャル埼玉 鍵付き相談室以外）	9
(2)	鍵付き相談ブース	9
(3)	グループワークルーム（車座形式、教室形式）	10
(4)	バーチャル埼玉 鍵付き相談室	10
4	埼玉県バーチャルユースセンターの利用方法	12
(1)	利用対象者について	12
(2)	埼玉県バーチャルユースセンターの入退室について	12
5	交流部屋の運用方法	12
(1)	開設時間等	12
(2)	運営スタッフの配置について	12
(3)	交流部屋の機能について	12
(4)	交流部屋の運用について	13
(5)	交流や体験の内容と実現手法	13
(6)	運営上の留意点	15
6	相談について	17
(1)	相談窓口について	17
(2)	相談部屋の運用について	17
(3)	相談部屋の機能について	17
(4)	相談部屋の運営上の留意点	18
(5)	専門支援機関等へのつなぎ方について	19
7	オフ会について	20
(1)	オフ会の実施について	20
(2)	募集方法	20
(3)	オフ会の実施フロー	20
8	利用者の声について	21
(1)	利用者の声について	21

(2) 利用者アンケートの実施について	21
(3) アンケート実施方法	21

1 埼玉県バーチャルユースセンターについて

(1) 埼玉県バーチャルユースセンターの設置場所について

埼玉県が設置するバーチャル埼玉 (<https://virtual-saitama.pref.saitama.lg.jp/>) に埼玉県バーチャルユースセンターを設置する。

主に、管理者が入室制御を行うことできる「グループワークルーム（車座形式）」「グループワークルーム（教室形式）」「オープンテラス」「バーチャル埼玉 鍵付き相談室」「鍵付き相談ブース」で交流・相談事業を行うこととする。

交流事業 … 「グループワークルーム（車座形式）」「グループワークルーム（教室形式）」「オープンテラス」を主に活用

相談事業 … 「バーチャル埼玉 鍵付き相談室」（3 部屋）「鍵付き相談ブース」（5 部屋）を主に活用

2 バーチャル埼玉について

バーチャル埼玉は、monoAI technology 株式会社が運営する XR CLOUD システム上に構築されている。

* バーチャル埼玉の詳細は「全庁共通メタバース空間《バーチャル埼玉》操作マニュアル」を参照すること。

(1) エリア全体概要



(2) 入室方法

① バーチャル埼玉入室方法

バーチャル埼玉 LP（ランディングページ）又は埼玉県バーチャルユースセンターHPから空間にアクセスを行う。

空間 URL を直接リンクさせアクセスすることも可能。



- * バーチャル埼玉 LP からエントランスエリアに遷移する際に、ニックネーム設定・アバター選択を行った上で、エントランスエリアに遷移する。
- * 「ブラウザで入室する」と「アプリ（XR CLOUD アプリ）で入室する」が選択できるが、ブラウザ版ではカメラ機能などの一部機能が制限されるため、アプリ版での利用を推奨。

② バーチャル埼玉 鍵付き相談室への入室方法

バーチャル埼玉 LP とは別に県が指定する URL によりアクセスする。

県が指定する URL は、事前に申し込みをした者に対し個別に周知する。



「鍵付き相談ブース」と「バーチャル埼玉 鍵付き相談室」の違い

違い①・・・「他のエリアとつながっているかどうか」

別 URL の部屋は他のエリア（相談エリア含む）とつながっていない。

違い②・・・「相談室に直接リンクできるか」

バーチャル埼玉 鍵付き相談室は URL により直接相談部屋の待合室に飛ぶ。鍵付き相談ブースはエントランスを経由する必要がある。

③ サービス概要

空 間 利 用：24 時間／365 日（定期・緊急メンテナンス時を除く）

利用推奨環境：WEB ブラウザからアクセス可能。

ただし、管理者向けの一部機能は XR CLOUD アプリケーション（PC/スマートフォン）からの利用となる。

ネットワーク環境：回線速度下り 30Mbps 以上推奨

推 奨 環 境：

	Windows PC	県職員用PC	Mac PC	iOS	Android
OS	Windows10,11	Windows10	macOS 11(Bug Sur) 以降	14.0～16.x, 17.4 以降	Android OS 10以降
CPU	Intel Core i5-6400 以上 AMD Ryzen 1400 以上	Intel Celeron 4205U	Intel Core i5 以上	—	—
メモリ	8GB以上	4GB	8GB以上	4GB以上	6GB以上
ブラウザ (※1)	Google Chrome	○	○	○	○
	Microsoft Edge	○	—	—	—
	Safari	—	○	○	—
その他		(※2)	MacBook Pro 13インチ 2017年モデル以降	iPhone XS以降の端末 ※iPhone XRは除く	日本国内主要4キャリアで販売 されているモデル

(3) 基本操作方法

① アクセス方法

Step① バーチャル埼玉 LP にて入場方法を選択

- XR CLOUD アプリを起動し、管理者として事前に登録したアカウントでログインしてから、「アプリで入室する」を選択する。

他のアカウントやゲストアカウントでログインしてしまった場合は、アプリを起動し、画面右の「端末情報をクリア」により過去のログイン情報を削除する。



XR CLOUDアプリをインストールしたPCで、
アプリを起動
「START」ボタンをクリック



事前に登録済のアカウントでログイン
※この時利用規約の同意を求められること
があるので確認の上同意してください



バーチャル埼玉LPにアクセスし、
「アプリで入室」をクリック

Step② 空間へアクセス

- 入室時に「マイクを利用することの同意」が表示されることがあるため、必ず「許可」または「同意」をクリックしアクセスすること。

Step③ ユーザー名（ニックネーム）の入力

- 12 文字以内でユーザー名を入力。委託事業者は、ニックネームの先頭に、「VYC スタッフ」と記載する。

* 埼玉県バーチャルユースセンター利用者に対しては、個人情報保護の観点から実名の入力を行わせない。



Step④ アバターを選択

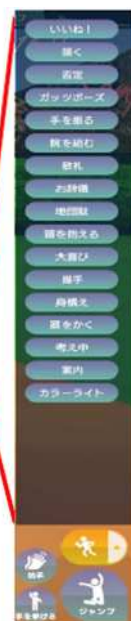
- 委託事業者は、原則として「スタッフアバター」を選択。



② 空間内でのアクション方法

画面右下の「ジャンプ」・「手を挙げる」・「拍手」をクリックするとアバターが対応する動きをする。

アクションをし続けるものがあり、アクションをやめる場合はもう一度選択したアクションのボタンをクリックする。



○ リアクション一覧

ジャンプ、拍手、手を挙げる、いいね！、頷く、否定、ガッツポーズ、手を振る、腕を組む、敬礼、お辞儀、地団駄、頭を抱える、大喜び、握手、身構え、頭をかく、考え中、案内、カラーライト

③ ボイスチャット

「オープンボイスチャット」と「プライベートボイスチャット」が可能。

オープンボイスチャット・・・マイクをONにし、自分の周囲にいる利用者と音声で会話ができる。なお、会話が可能な距離が設定されているため、声が聞こえない場合はその人の近くまで移動すること。

プライベートボイスチャット・・・選択したユーザー（2～10人）と個別会話が可能。リストから相手を選び、プライベートボイスチャットの申請を行い、相手が申請を許可すると可能となる。

④ テキストチャット

「オープンテキストチャット」と「プライベートテキストチャット」が可能。

オープンテキストチャット・・・エリア内にいる全利用者に対してテキストでメッセージを送信。

プライベートテキストチャット・・・特定のユーザーを指定して1対1でのテキストチャットが可能。

⑤ 空間内でのカメラ撮影

アプリを利用した場合のみ「カメラ機能」が利用可能。

ブラウザ利用の場合は端末のスクリーンショット機能で代替。

⑥ エリア移動方法

エリア選択画面によるエリア移動とワープゲートを用いたエリア移動の2種類がある。



- 画面下部にある「エリア一覧」をクリック
- エリア選択画面が開くので自分の行きたいエリアをクリックし移動が可能です



- 薄い水色のワープゲートが設定されている部分に入ることによってエリアへ移動が可能です

- パネル部分をクリックすることでそのエリアに移動が可能です

⑦ エリア退出方法

Web ブラウザを利用している場合、ブラウザの「×」ボタンにより退出が完了する。

PC/スマートフォンのアプリを利用している場合、アプリを終了することで退出が完了する。

(4) 管理者権限保有者向け機能

① カスタムパネルの更新

空間に配置されたカスタムパネルの更新を行うことが可能。



①PDF：PDF を掲載（同期^{※1}・非同期^{※2}）

②動画：動画を掲載（同期・非同期）

③ブラウザ：URL を設定し、パネルをクリックすることで設定した URL に移動

④ライブ動画：OBS 形式等の動画配信を実施

⑤ライブカメラ/画面共有：端末のカメラ画像を投影/端末で開いているウィンドウを投影

⑥画像：静止画を掲載

※1 同 期：閲覧中の状態が他の利用者にも反映される。（全員が同じ情報を閲覧）

※2 非同期：閲覧中の状態が他の利用者に反映されない。（利用者ごとに情報を閲覧）

② キック機能

不規則行動等を行う利用者をキック（強制退出）させることができる。

エリアメンバーボタンまたは、画面上でユーザーをクリックし、キックするユーザーを選択し、強制退出させることが可能。



③ 拡声マイク機能

「拡声マイク」機能を利用することで、該当エリア全体に対して音声が届く。

プライベートボイスチャットエリアが設定されている場所に対しても音声を届けさせることが可能。

④ 画面共有

PC の XR CLOUD アプリを利用することで、相談者の画面を共有することが可能。



- * 動画を共有する場合、音声は共有されない。
- * 「ライブカメラの開始」をクリックすることで、PC のカメラや外部出力に接続されているカメラを利用した映像の共有も可能。

⑤ エリア通知機能

エリア単位での通知が可能。

通知時に居なくとも、エリアに訪れたタイミングで通知を見ることが可能。

- * オープンテキストチャット欄に「/all+半角スペース 通知内容」を入力し、最大 100 文字まで送信可能。

⑥ 禁止エリアにおけるテキストチャット・ボイスチャットの利用

管理者は発言やテキストチャットが禁止されているエリアにおいてもボイスチャット可能。

スタッフ間で事務連絡等を行う場合は、空間内のボイスチャットやテキストチャットを利用せず、外部のチャットツール等の利用を推奨。

(5) バーチャル埼玉のセキュリティ

テキストチャットのブロック：不適切な発言を自動でブロックする。NG ワードを含むテキストは「NG ワードが含まれているため送信できません」と表示され、送信できない。

キック：不審者や妨害者を管理者が強制的に排除する。

通信暗号化：通信の暗号化により会話内容の傍受を阻止する。

会話漏洩の防止：会話内容が第三者に漏れないように空間内を制御する。

ログ管理機能：バーチャル埼玉全体のチャットログを保有する。

3 相談エリアの操作方法等

(1) 共通機能について（バーチャル埼玉 鍵付き相談室以外）

- ・ テキストチャット（グループテキストチャット*／プライベートチャット）の利用が可能。
※ ブース内に居る人のみとチャットが可能。
- ・ ボイスチャットは基本的に利用不可。管理者が許可した場合のみ利用可能。
* ボイスチャットの利用を可に変更した場合は、エリア利用終了時、利用不可の設定に戻すこと。
- ・ カスタムパネルは管理者のみ利用が可能。

ボイスチャットの制御（発言禁止の解除）



- 画面下部の「編集モード」→「発言禁止制御」をクリック
- 画面の右上の発言禁止制御画面が表示（右図→）
- 設定変更はPCのXR CLOUD アプリでのみ可能です

● 初期状態は全てが発言禁止に設定

● 発言禁止制御エリア

- ①相談エリア
- ②個別エリア（教室形式） ③個別エリア（車座形式）

● 発言禁止解除をしたいエリアのチェックボックスをオフし、適用をクリック

● 利用者の画面では「ボイスチャットが可能になった」旨が表示され、マイクボタンが活性化

(2) 鍵付き相談ブース



- ・ プライベートボイスチャットエリアが設定されており、画面共有している内容や音声ブース外に漏れることはない。
- ・ 「OPEN」ボタン、「CLOSE」ボタンをクリックすることで扉の開閉を操作する。
- ・ 初期状態は「OPEN（利用者が入れる状態）」となり、ボタンはブースの外と中の両方に設置されている。扉が閉じている状態でも外から強制的にオープンすることが可能。
- ・ 適正利用人数は4名程度。

*ブース内にアバターがいるかどうかのチェック機能はない。

(3) グループワークルーム（車座形式、教室形式）



- ・ 別エリアにある「グループワークルーム（車座形式、教室形式）」の空間に移動するための制御機能。管理者は参加者を確認の上、入室制御を行う。最大 30 人まで入室可。
- ・ 「OPEN」ボタン、「CLOSE」ボタンをクリックすることで扉の開閉を操作する。
- ・ 初期状態は「CLOSE（利用者が入れない状態）」。

- ・ 入り口にチャイムが設置されており、利用者が外からチャイムを押すと、中にいるスタッフに音が聞こえる（中にいる利用者には聞こえない）。

(4) バーチャル埼玉 鍵付き相談室

① 共通機能について

- ・ テキストチャット、ボイスチャットの利用が可能。
- ・ カスタムパネルは管理者のみ利用が可能。
- ・ バーチャル埼玉 鍵付き相談室から、バーチャル埼玉に相互移動することは不可。

② 利用者向け

空間への入室は「待合室」⇒「前室」⇒「相談室」の順で入室する。

ただし、「待合室」から「前室」へ移動すると、「待合室」には戻れない。



エリアに入ると待合室に入室。「クリックで相談室へ」をクリックすることで、相談室の前室へ移動



前室へ移動。管理者の操作で相談室へ入室が可能



相談室に移動。退出する際はブラウザを閉じて退出

③ 管理者向け



- ・ 「待合室」に案内パネル（カスタムパネル）があり、内容に合わせて更新が可能。
- ・ 案内は相談室の利用法や注意点を掲示する。



- ・ 相談室の前にある「前室」にて相談者が正しいことを確認の上、相談室へ入室してもらうための制御機能あり。
- ・ 「OPEN」ボタン、「CLOSE」ボタンをクリックすることで扉の開閉を操作する。
- ・ 「前室」と「相談室」内の両方にボタンが設置されており、「前室」で OPEN し、相談室内で 「CLOSE」する運用を想定。

4 埼玉県バーチャルユースセンターの利用方法

(1) 利用対象者について

県内に在住、在勤又は県内の学校（小学校、中学校、高等学校、大学、大学院など）に在学する者で、主に39歳以下の者。

(2) 埼玉県バーチャルユースセンターの入退室について

① 埼玉県バーチャルユースセンターへの入室

バーチャル埼玉の相談エリアにおいて、管理者が入室制御を行うことができる「オープンテラス」「鍵付き相談ブース」「グループワークルーム（車座形式、教室形式）」を埼玉県バーチャルユースセンターの主な運営場所とする。使用する空間については、交流内容や利用者人数に応じて選択する。

② 埼玉県バーチャルユースセンターの退室

埼玉県バーチャルユースセンターの退室は自由とする。

5 交流部屋の運用方法

(1) 開設時間等

交流部屋は、「オープンテラス」「グループワークルーム（車座形式、教室形式）」で実施するものとし、空間の予約は県が行う。

1月ごとの交流部屋の開設時間、事業内容等のタイムスケジュールを作成し、「埼玉県バーチャルユースセンターHP、LINE、Instagram」により周知を行う。

なお、週2日、1週間に8時間以上の開設を原則とする。

(2) 運営スタッフの配置について

利用者10人に対して1人の運営スタッフを配置する。

なお、開始時間において3人の運営スタッフを配置し、うち1人を運営上のリーダーとする。

なお、利用者数が少ない等の場合は、運営スタッフの人数を減ずることは可とする。

(3) 交流部屋の機能について

① 利用者のプライベートテキストチャットの利用禁止

利用者間でのプライベートテキストチャットの利用は禁止することとする。

運営スタッフと利用者間のプライベートテキストチャットについては認めることとする。

② 利用者のボイスチャット機能の使用について

原則として、利用者のオープン／プライベートボイスチャット機能の使用は禁止とし、利用者間での交流はリアクション及びオープンテキストチャットでのコミュニケーションとする。

運営スタッフはボイスチャットの利用は可とする。

ただし、交流事業の内容に応じ、利用者のボイスチャットの使用を可とすることはできる。

なお、プライベートボイスチャットを機能的に制限することはできないため、利用者に対して注意喚起を行う。

③ カスタムパネルの利用不可

「グループワークルーム（車座形式）、（教室形式）」において画像、動画等を投影できるカスタムパネルがあるが、利用者が使用することはできない。

(4) 交流部屋の運用について

オープンテラスを基本的な交流をする場所とし、利用者の人数やプログラムの内容に応じて、別エリアを適宜活用する。

オープンテラスの入口は常に「CLOSE」の状態とし、入口のカスタムパネルに当日のプログラム内容と利用のルールを掲示するとともに、エリア通知機能により掲示の確認を喚起する。

利用者が入室する際に、利用のルールを読んだことを確認した上で、入室を許可する。

入退出は自由だが、都度スタッフが入口の開閉を行う。

プログラムによって場所を移動する場合は、テキストチャットにより利用者の誘導を行う。

(5) 交流や体験の内容と実現手法

① 交流にあたっての基本事項

交流にあたっては、ユースワークの理念を踏まえ、利用者の自発性・自主性を尊重し、伴走支援に努めること。

② 利用者の声の反映

利用者から、交流部屋での交流やプログラム等を通じて「実施してほしい交流・体験プログラム」等を確認し、積極的に実施する。

③ 交流の実現手法

基本的な運営スタッフの配置は、利用者と交流するスタッフ2名、入り口を管理するスタッフ1名の計3名とする。

オープンテラスにおいて、交流スタッフがテキストまたはボイスチャットにより、利用者とコミュニケーションを行う。

なお、利用者間でのコミュニケーションを妨げないが、会話等は適宜スタッフが確認を行うこととする。

④ プログラムの実現手法

基本的な運営スタッフ配置は、司会1名、進行補助1名、誘導1名の計3名とする。

なお、利用者数が少ない等の場合は、進行補助を減ずることは可とする。

司 会：全体進行

進行補助：司会の補助。チャットや参加者のリアクションの確認

誘 導：遅れてきた参加者や、途中で回線が落ちて再度入室したい参加者を部屋に案内するほか、プログラムへの参加を希望しない利用者への対応

<プログラム進行手順>

開始時には、必ずカスタムパネルに以下の「埼玉県バーチャルユースセンター利用のルール」を掲示し、司会が読み上げ参加者とルールを確認する。

「埼玉県バーチャルユースセンター利用のルール」

- ① 思いやりの気持ちを大切に。
 - ・他人を不快にさせることは言わない。言葉遣いに気をつけよう。
- ② プライバシーを守ろう。
 - ・個人情報(名前、連絡先、住所など)を教えたり、聞いたりしない。
 - ・写真や動画の撮影・録音はしない。
- ③ 困ったときは、スタッフに相談しよう。

現実の世界と同じように、みんなが気持ちよく過ごせるように行動しよう。

ケース1) 外部講師によるプログラム

- ・ 司会から、本日のプログラム内容と講師の紹介をし、講話へつなぐ。
- ・ 最後に講師への質問や感想をチャットなどで寄せてもらう。
- ・ 次回のプログラムの告知をし、退出方法を説明し終了。

ケース2) 運営スタッフによるプログラム（講話）

- ・ 講話するスタッフが司会進行も務める。
- ・ 本日のプログラム内容を説明し、講話開始。
※ゲストを招いている場合はゲストの紹介をする。
- ・ 最後に質問や感想をチャットなどで寄せてもらう。
- ・ 次回のプログラムの告知をし、退出方法を説明し終了。

ケース3) 運営スタッフによるプログラム（トーク）

- ・ 司会と進行補助の2名で掛け合いながらアイスブレイク。
- ・ その日のテーマに関して参加者に質問し、テキストチャットまたはボイスチャットにて回答してもらうなどで交流する。
- ・ 最後に、次回のプログラム日時を案内して、退出方法を説明して終了。

(6) 運営上の留意点

① アバターによるコミュニケーションの留意事項

ボイスチャットとテキストチャットが混在すると、スピードに差があり全体でのコミュニケーションが難しくなる。そのため、いずれかの手法で統一してコミュニケーションをとることを推奨するが、参加者の事情を考慮し、柔軟な運用を行う。

進行をボイスチャットで行う場合、ゆっくり話すことを意識する。特に、スタッフが掛け合いで進行する場合はスピードが早くなりやすく、参加者が聞き取れないことがあるため気を付けること。

② キック（強制退室）の運用について

不適切な発言、挙動等を行っている利用者がいた場合、一度注意を行い、それでも改善されない場合、キックによる強制退室を行うこととする。

ただし、利用のルールを守らない者（プライベートボイスチャット機能の使用等）、不審なアバターがいた場合については、事前予告なくキックを行うことを可とする。

キックの判断にあたっては、交流部屋のリーダーを定め、リーダーの判断で行うこととする。

③ 退室について

原則として、交流部屋から退室する場合は、バーチャル埼玉から退室することを推奨する。

なお、交流部屋での事業終了後、スタッフが指示しても退出しない利用者がいた場合は、キックにより強制退室させる。

* Web ブラウザを利用している場合、ブラウザの「×」ボタン、PC/スマートフォンのアプリを利用している場合、アプリの終了。

6 相談について

(1) 相談窓口について

利用者に対する相談部屋は、「バーチャル埼玉 鍵付き相談室」及び「鍵付き相談ブース」に設置する。

この他、利用者及び利用者以外からの相談窓口を「専用メール、LINE、電話」等に設置する。

＊ 相談には、相談部屋や相談窓口以外の他者に見られない環境で、個別に相談を受けることも含むこととする。

(2) 相談部屋の運用について

① 予約について

相談希望者に対し、相談日時及びバーチャル埼玉 鍵付き相談室のURLを送付する。

連絡調整にあたっては、バーチャル埼玉のテキストチャット機能は使用せず、専用メールまたはLINEより案内を行い、Googleカレンダーにて予約を行う

なお、「バーチャル埼玉 鍵付き相談室」「鍵付き相談ブース」ともに事前予約が必要となることから、委託事業者と県が連携し、適宜空間予約を行うこととする。

「鍵付き相談ブース」と「バーチャル埼玉 鍵付き相談室」の違い

違い①・・・「他のエリアとつながっているかどうか」

別 URL の部屋は他のエリア（相談エリア含む）とつながっていない。

違い②・・・「相談室に直接リンクできるか」

バーチャル埼玉 鍵付き相談室は URL により直接相談部屋の待合室に飛ぶ。

鍵付き相談ブースはエントランスを経由する必要がある。

② ルールについて

相談内容の録音やスクリーンショット等の録画は禁止とする。また、10分以上、利用者からリアクションやチャットでの応答がない場合、相談を終了する。

(3) 相談部屋の機能について

① テキスト／ボイスチャットの利用

相談者の希望に応じて、テキスト／ボイスチャットいずれかにより相談対応を行うこと。

② カスタムパネルの利用

各相談部屋にカスタムパネルが設置されているため、相談スタッフは必要に応じて適宜利用すること。

(4) 相談部屋の運営上の留意点

① 相談記録の作成

相談スタッフは、相談した内容等を記録として残すこと。

なお、相談記録を含む個人情報の管理には十分に留意し、他者が相談内容を知ることがないようにすること。

② 専門支援機関等へのつなぎ

相談者の希望に応じて専門支援機関等へつないでいくこととする。

ただし、相談は専門支援機関につなぐことが目的ではないことから、あくまで相談者の自発的な発言によるものであることに留意する。

なお、委託事業者が相談者と直接会って支援はしないこととするが、委託事業者が別途実施している事業を案内することを妨げるものではない。

(5) 専門支援機関等へのつなぎ方について

相談者から専門支援機関等の利用等について希望があった場合、下記の手順によりつないでいく。

Step① 相談者から、より専門的な支援機関等で相談したい旨の発言を受ける。

Step② 相談者から、専門支援機関等を探すため、以下の内容を確認する。

- ① 希望する支援体系等
- ② 希望する地域
- ③ 保護者への情報共有について（年齢に応じて）
- ④ 今後の連絡方法（メール、相談部屋等）

Step③ 相談者に対し、希望に合う専門支援機関等を探し、別途紹介する旨伝達し、終話。

Step④ 相談者の希望に合う専門支援機関等を探し、相談者（または保護者）に対して情報提供を行う。

Step⑤ 相談者（または保護者）に対し、以下の内容を確認する。

- ① 氏名等や相談内容について専門支援機関等に伝えることを希望するか。
- ② 不安な点等ないか。

Step⑥ 相談者（または保護者）の希望に応じ、適宜、専門支援機関等との調整を行う。

7 オフ会について

(1) オフ会の実施について

利用者の希望や気持ちの変化に応じて、埼玉県バーチャルユースセンターの利用者に限定した対面の交流、体験の機会を提供する。

なお、利用者の希望を確認した後、企画・立案をする。

(2) 募集方法

オフ会の実施日、内容等が決定次第、「埼玉県バーチャルユースセンターHP、LINE、Instagram」にて周知を行う。

(3) オフ会の実施フロー

Step① 利用者と埼玉県バーチャルユースセンタースタッフ間の関係づくり

＊交流部屋での事業やTEAMSでの交流を通じて関係構築

Step② 聞き取りやアンケート等を通じて、利用者からオフ会の実施希望を確認

Step③ オフ会の企画・立案

＊利用者の声を反映したテーマに応じて企画を行う

＊実態に応じて、利用者が主体的に企画を行うことができるようサポート

Step④ オフ会の実施

8 利用者の声について

(1) 利用者の声について

利用者の声を積極的に反映するため、交流部屋でのコミュニケーションを通じて、意見を確認するとともに、必要に応じて意見を聞き取る場を設ける。

確認をした利用者の声は、可能な限り運営等に反映していくこと。

(2) 利用者アンケートの実施について

アンケートについては、事業に対する率直な感想のほか、事業内容の希望を確認するものとする。

(3) アンケート実施方法

埼玉県バーチャルユースセンターの利用者に対してアンケートを行う。

アンケート結果及び意見交換の結果については、以降の事業に反映させる。

埼玉県バーチャルユースセンター 運営マニュアル~~(案)~~

~~令和6年10月1日~~
~~令和6年11月1日改訂~~
~~令和7年2月1日改訂~~
~~令和7年3月31日改訂~~
~~令和7年6月30日改訂~~
~~令和7年10月1日改訂~~

目次

1	埼玉県バーチャルユースセンターについて	2
(1)	埼玉県バーチャルユースセンターの設置場所について	2
2	バーチャル埼玉について	2
(1)	エリア全体概要	2
(2)	入室方法	3
(3)	基本操作方法	4
(4)	管理者権限保有者向け機能	7
(5)	バーチャル埼玉のセキュリティ	9
3	相談エリアの操作方法等	10
(1)	共通機能について（バーチャル埼玉 鍵付き相談室以外）	10
(2)	鍵付き相談ブース	10
(3)	グループワークルーム（車座形式、教室形式）	11
(4)	バーチャル埼玉 鍵付き相談室	11
4	埼玉県バーチャルユースセンターの利用方法	13
(1)	利用対象者について	13
(2)	埼玉県バーチャルユースセンターの入退室について	13
5	交流部屋の運用方法	13
(1)	開設時間等	13
(2)	運営スタッフの配置について	14
(3)	交流部屋の機能について	14
(4)	交流部屋の運用について	14
(5)	交流や体験の内容と実現手法	15
(6)	運営上の留意点	17
6	相談について	19
(1)	相談窓口について	19
(2)	相談部屋の運用について	19
(3)	相談部屋の機能について	20
(4)	相談部屋の運営上の留意点	20
(5)	専門支援機関等へのつなぎ方について	21
7	オフ会について	22
(1)	オフ会の実施について	22
(2)	募集方法	22
(3)	オフ会の実施フロー	22
8	利用者の声について	23
(1)	利用者の声について	23

(2) 利用者アンケートの実施について	23
(3) アンケート実施方法	23

(2) 入室方法

① バーチャル埼玉入室方法

バーチャル埼玉 LP（ランディングページ）又は[埼玉県](#)バーチャルユースセンターHPから空間にアクセスを行う。

空間 URL を直接リンクさせアクセスすることも可能。



- * バーチャル埼玉 LP からエントランスエリアに遷移する際に、ニックネーム設定・アバター選択を行った上で、エントランスエリアに遷移する。
- * 「ブラウザで入室する」と「アプリ（XR CLOUD アプリ）で入室する」が選択できるが、ブラウザ版ではカメラ機能などの一部機能が制限されるため、アプリ版での利用を推奨。

② バーチャル埼玉 鍵付き相談室への入室方法

バーチャル埼玉 LP とは別に県が指定する URL によりアクセスする。

県が指定する URL は、事前に申し込みをした者に対し個別に周知する。



「鍵付き相談ブース」と「バーチャル埼玉相談室バーチャル埼玉 鍵付き相談室」の違い

違い①・・・「他のエリアとつながっているかどうか」

別 URL の部屋は他のエリア（相談エリア含む）とつながっていない。

違い②・・・「相談室に直接リンクできるか」

バーチャル埼玉相談室バーチャル埼玉 鍵付き相談室は URL により直接相談部屋の待合室に飛ぶ。

鍵付き相談ブースはエントランスを経由する必要がある。

③ サービス概要

空間利用：24時間／365日（定期・緊急メンテナンス時を除く）

利用推奨環境：WEBブラウザからアクセス可能。

ただし、管理者向けの一部機能はXR CLOUD アプリケーション（PC/スマートフォン）からの利用となる。

ネットワーク環境：回線速度下り 30Mbps 以上推奨

推奨環境：

	Windows PC	県職員用PC	Mac PC	iOS	Android
OS	Windows10,11	Windows10	macOS 11(Bug Sur) 以降	14.0～16.x, 17.4 以降	Android OS 10以降
CPU	Intel Core i5-6400 以上 AMD Ryzen 1400 以上	Intel Celeron 4205U	Intel Core i5 以上	—	—
メモリ	8GB以上	4GB	8GB以上	4GB以上	6GB以上
ブラウザ (※1)	Google Chrome	○	○	○	○
	Microsoft Edge	○	—	—	—
	Safari	—	○	○	—
その他		(※2)	MacBook Pro 13インチ 2017年モデル以降	iPhone XS以降の端末 ※iPhone XRは除く	日本国内主要4キャリアで販売 されているモデル

(3) 基本操作方法

① アクセス方法

Step① バーチャル埼玉 LP にて入場方法を選択

- XR CLOUD アプリを起動し、管理者として事前に登録したアカウントでログインしてから、「アプリで入室する」を選択する。

他のアカウントやゲストアカウントでログインしてしまった場合は、アプリを起動し、画面右の「端末情報をクリア」により過去のログイン情報を削除する。



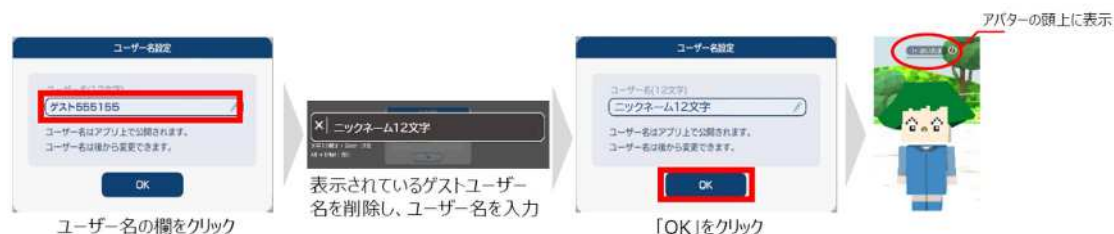
Step② 空間へアクセス

- 入室時に「マイクを利用することの同意」が表示されることがあるため、必ず「許可」または「同意」をクリックしアクセスすること。

Step③ ユーザー名（ニックネーム）の入力

- 12文字以内でユーザー名を入力。委託事業者は、ニックネームの先頭に、「VYC スタッフ」と記載する。

* [埼玉県](#)バーチャルユースセンター利用者に対しては、個人情報保護の観点から実名の入力は行わせない。



Step④ アバターを選択

- 委託事業者は、原則として「スタッフアバター」を選択。



② 空間内でのアクション方法

画面右下の「ジャンプ」・「手を挙げる」・「拍手」をクリックするとアバターが対応する動きをする。

アクションをし続けるものがあり、アクションをやめる場合はもう一度選択したアクションのボタンをクリックする。



○ リアクション一覧

ジャンプ、拍手、手を挙げる、いいね！、頷く、否定、ガッツポーズ、手を振る、腕を組む、敬礼、お辞儀、地団駄、頭を抱える、大喜び、握手、身構え、頭をかく、考え中、案内、カラーライト

③ ボイスチャット

「オープンボイスチャット」と「プライベートボイスチャット」が可能。

オープンボイスチャット・・・マイクをONにし、自分の周囲にいる利用者と音声で会話ができる。なお、会話が可能な距離が設定されて

いるため、声が聞こえない場合はその人の近くまで移動すること。

プライベートボイスチャット …… 選択したユーザー（2～10 人）と個別会話が可能。リストから相手を選び、プライベートボイスチャットの申請を行い、相手が申請を許可すると可能となる。

④ テキストチャット

「オープンテキストチャット」と「プライベートテキストチャット」が可能。

オープンテキストチャット …… エリア内にいる全利用者に対してテキストでメッセージを送信。

プライベートテキストチャット …… 特定のユーザーを指定して1対1でのテキストチャットが可能。

⑤ 空間内でのカメラ撮影

アプリを利用した場合のみ「カメラ機能」が利用可能。

ブラウザ利用の場合は端末のスクリーンショット機能で代替。

⑥ エリア移動方法

エリア選択画面によるエリア移動とワープゲートを用いたエリア移動の2種類がある。



⑦ エリア退出方法

Web ブラウザを利用している場合、ブラウザの「×」ボタンにより退出が完了する。

PC/スマートフォンのアプリを利用している場合、アプリを終了することで退出が完了する。

(4) 管理者権限保有者向け機能

① カスタムパネルの更新

空間に配置されたカスタムパネルの更新を行うことが可能。



①PDF：PDF を掲載（同期^{※1}・非同期^{※2}）

②動画：動画を掲載（同期・非同期）

③ブラウザ：URL を設定し、パネルをクリックすることで設定した URL に移動

④ライブ動画：OBS 形式等の動画配信を実施

⑤ライブカメラ/画面共有：端末のカメラ画像を投影/端末で開いているウィンドウを投影

⑥画像：静止画を掲載

※1 同 期：閲覧中の状態が他の利用者にも反映される。（全員が同じ情報を閲覧）

※2 非同期：閲覧中の状態が他の利用者に反映されない。（利用者ごとに情報を閲覧）

② キック機能

不規則行動等を行う利用者をキック（強制退出）させることができる。

エリアメンバーボタンまたは、画面上でユーザーをクリックし、キックするユーザーを選択し、強制退出させることが可能。



③ 拡声マイク機能

「拡声マイク」機能を利用することで、該当エリア全体に対して音声が届く。

プライベートボイスチャットエリアが設定されている場所に対しても音声を届けさせることが可能。

④ 画面共有

PC の XR CLOUD アプリを利用することで、相談者の画面を共有することが可能。



- * 動画を共有する場合、音声は共有されない。
- * 「ライブカメラの開始」をクリックすることで、PC のカメラや外部出力に接続されているカメラを利用した映像の共有も可能。

⑤ エリア通知機能

エリア単位での通知が可能。

通知時に居なくとも、エリアに訪れたタイミングで通知を見ることが可能。

- * オープンテキストチャット欄に「/all+半角スペース 通知内容」を入力し、最大100文字まで送信可能。

⑥ 禁止エリアにおけるテキストチャット・ボイスチャットの利用

管理者は発言やテキストチャットが禁止されているエリアにおいてもボイスチャット可能。

スタッフ間で事務連絡等を行う場合は、空間内のボイスチャットやテキストチャットを利用せず、外部のチャットツール等の利用を推奨。

(5) バーチャル埼玉のセキュリティ

テキストチャットのブロック：不適切な発言を自動でブロックする。NGワードを含むテキストは「NGワードが含まれているため送信できません」と表示され、送信できない。

キック：不審者や妨害者を管理者が強制的に排除する。

通信暗号化：通信の暗号化により会話内容の傍受を阻止する。

会話漏洩の防止：会話内容が第三者に漏れないように空間内を制御する。

ログ管理機能：バーチャル埼玉全体のチャットログを保有する。

~~* テキストチャット等のログは残らない。~~

3 バーチャルユースセンター相談エリアの操作方法等

(1) 共通機能について（バーチャル埼玉相談室バーチャル埼玉 鍵付き相談室以外）

- ・ テキストチャット（グループテキストチャット*／プライベートチャット）の利用が可能。
※ ブース内に居る人のみとチャットが可能。
- ・ ボイスチャットは基本的に利用不可。管理者が許可した場合のみ利用可能。
* ボイスチャットの利用を可に変更した場合は、エリア利用終了時、利用不可の設定に戻すこと。
- ・ カスタムパネルは管理者のみ利用が可能。

ボイスチャットの制御（発言禁止の解除）



- 画面下部の「編集モード」→「発言禁止制御」をクリック
- 画面の右上の発言禁止制御画面が表示（右図→）
- 設定変更はPCのXR CLOUDアプリでのみ可能です

● 初期状態は全てが発言禁止に設定

● 発言禁止制御エリア

- ①相談エリア
- ②個別エリア（教室形式） ③個別エリア（車座形式）

● 発言禁止解除をしたいエリアのチェックボックスをオフし、適用をクリック

● 利用者の画面では「ボイスチャットが可能になった」旨が表示され、マイクボタンが活性化

(2) 鍵付き相談ブース



- ・ プライベートボイスチャットエリアが設定されており、画面共有している内容や音声ブース外に漏れることはない。
- ・ 「OPEN」ボタン、「CLOSE」ボタンをクリックすることで扉の開閉を操作する。
- ・ 初期状態は「OPEN（利用者が入れる状態）」となり、ボタンはブースの外と中の両方に設置されている。扉が閉じている状態でも外から強制的にオープンすることが可能。
- ・ 適正利用人数は4名程度。

* ブース内にアバターがいるかどうかのチェック機能はない。

(3) グループワークルーム（車座形式、教室形式）



- ・ 別エリアにある「グループワークルーム（車座形式、教室形式）」の空間に移動するための制御機能。管理者は参加者を確認の上、入室制御を行う。最大 30 人まで入室可。
- ・ 「OPEN」ボタン、「CLOSE」ボタンをクリックすることで扉の開閉を操作する。
- ・ 初期状態は「CLOSE（利用者が入れない状態）」。

・ 入り口にチャイムが設置されており、利用者が外からチャイムを押すと、中にいるスタッフに音が聞こえる（中にいる利用者には聞こえない）。

(4) ~~バーチャル埼玉相談室~~バーチャル埼玉 鍵付き相談室

① 共通機能について

- ・ テキストチャット、ボイスチャットの利用が可能。
- ・ カスタムパネルは管理者のみ利用が可能。
- ・ ~~バーチャル埼玉相談室~~バーチャル埼玉 鍵付き相談室から、バーチャル埼玉に相互移動することは不可。

② 利用者向け

空間への入室は「待合室」⇒「前室」⇒「相談室」の順で入室する。

ただし、「待合室」から「前室」へ移動すると、「待合室」には戻れない。



エリアに入ると待合室に入室。「クリックで相談室へ」をクリックすることで、相談室の前室へ移動



前室へ移動。管理者の操作で相談室へ入室が可能



相談室に移動。退出する際はブラウザを閉じて退出

③ 管理者向け



- ・ 「待合室」に案内パネル（カスタムパネル）があり、内容に合わせて更新が可能。
- ・ 案内は相談室の利用法や注意点を掲示する。



- ・ 相談室の前にある「前室」にて相談者が正しいことを確認の上、相談室へ入室してもらうための制御機能あり。
- ・ 「OPEN」ボタン、「CLOSE」ボタンをクリックすることで扉の開閉を操作する。
- ・ 「前室」と「相談室」内の両方にボタンが設置されており、「前室」で OPEN し、相談室内で 「CLOSE」する運用を想定。

4 埼玉県バーチャルユースセンターの利用方法

(1) 利用対象者について

県内に在住、在勤又は県内の学校（小学校、中学校、高等学校、大学、大学院など）に在学する者で、主に39歳以下の者。

(2) ~~利用者登録及び~~埼玉県バーチャルユースセンターへの入退室対応について

~~①~~ 利用者登録の申請

~~バーチャルユースセンターHP (<https://saitamayouthnet.org/vyc/>) により登録申請をさせる。~~

~~*義務教育段階の児童生徒の登録に際して、保護者同意を得ることとする。~~

~~(登録事項)~~

~~ニックネーム~~

~~年齢~~

~~メールアドレス~~

~~電話番号~~

~~登録のきっかけ (WEB サイト、SNS、インターネット広告、チラシ、学校の先生、支援機関、体験会、その他)~~

~~②~~ 登録内容の変更

~~登録内容 (メールアドレス等) に変更があった場合、またはニックネームを変更した場合は、バーチャルユースセンターHP により再度登録申請をさせる。~~

~~①~~ ~~③~~ 埼玉県バーチャルユースセンターへの入室

バーチャル埼玉の相談エリアにおいて、管理者が入室制御を行うことができる「オープンテラス」「鍵付き相談ブース」「グループワークルーム（車座形式、教室形式）」を埼玉県バーチャルユースセンターの主な運営場所とする。使用する空間については、交流内容や利用者人数に併せて応じて選択する。

~~バーチャルユースセンターの入口にスタッフのアバターを配置し、利用者のニックネームを確認し、登録内容と一致した場合に入室を許可する。~~

~~②~~ ~~④~~ 埼玉県バーチャルユースセンターの退室

~~埼玉県~~埼玉県バーチャルユースセンターの退室は自由とする。

5 交流部屋の運用方法

(1) 開設時間等

交流部屋は、「オープンテラス」「グループワークルーム（車座形式、教室形

式)」で実施するものとし、空間の予約は県が行う。

1月ごとの交流部屋の開設時間、事業内容等のタイムスケジュールを作成し、[「埼玉県バーチャルユースセンターHP及び、LINE、Instagram」](#)により周知を行う。

なお、週2日、1週間に8時間以上の開設を原則とする。

(2) 運営スタッフの配置について

利用者[6～710](#)人に対して1人の運営スタッフを配置する。

なお、開始時間において3人の運営スタッフを配置し、うち1人を運営上のリーダーとする。

なお、利用者数が少ない等の場合は、運営スタッフの人数を減ずることは可とする。

(3) 交流部屋の機能について

① 利用者のプライベートテキストチャットの利用禁止

~~当面の間、~~利用者間でのプライベートテキストチャットの利用は禁止することとする。

運営スタッフと利用者間のプライベートテキストチャットについては認めることとする。

~~なお、テキストチャットのログは残らないことに留意すること。~~

② 利用者のボイスチャット機能の使用について

~~当面の間、原則として、~~利用者のオープン／プライベートボイスチャット機能の使用は禁止とし、利用者間での交流はリアクション及びオープンテキストチャットでのコミュニケーションとする。

運営スタッフはボイスチャットの利用は可とする。

ただし、交流事業の内容に応じ、利用者のボイスチャットの使用を可とすることはできる。

なお、プライベートボイスチャットを機能的に制限することはできないため、利用者に対して注意喚起を行う。

③ カスタムパネルの利用不可

「グループワークルーム（車座形式）、（教室形式）」において画像、動画等を投影できるカスタムパネルがあるが、利用者が使用することはできない。

(4) 交流部屋の運用について

オープンテラスを基本的な交流をする場所とし、利用者の人数やプログラムの内容に

応じて、別エリアを適宜活用する。

オープンテラスの入口は常に「CLOSE」の状態とし、入口のカスタムパネルに当日のプログラム内容と利用のルールを掲示するとともに、エリア通知機能により掲示の確認を喚起する。

利用者が入室する際に、利用のルールを読んだことを確認した上で、入室を許可する。入退出は自由だが、都度スタッフが入口の開閉を行う。

プログラムによって場所を移動する場合は、テキストチャットにより利用者の誘導を行う。

(4)(5) 交流や体験の内容と実現手法

① 交流にあたっての基本事項

交流にあたっては、ユースワークの理念を踏まえ、利用者の自発性・自主性を尊重し、伴走支援に努めること。

④② アンケートの実施利用者の声の反映

アンケートのうち利用者から、交流部屋での交流やプログラム等を通じて「実施してほしい交流・体験プログラム」等を確認し、の回答結果で上位にあがったプログラムは積極的に実施する。

③ 交流の実現手法

基本的な運営スタッフの配置は、利用者と交流するスタッフ2名、入り口を管理するスタッフ1名の計3名とする。

オープンテラスにおいて、交流スタッフがテキストまたはボイスチャットにより、利用者とコミュニケーションを行う。

なお、利用者間でのコミュニケーションを妨げないが、会話等は適宜スタッフが確認を行うこととする。

④④ プログラムの実現手法

基本的な運営スタッフ配置は、司会1名、進行補助1名、~~門番誘導~~1名の計3名とする。

なお、利用者数が少ない等の場合は、進行補助を減ずることは可とする。

司 会：全体進行

進行補助：司会の補助。チャットや参加者のリアクションの確認

~~門番誘導~~：遅れてきた参加者や、途中で回線が落ちて再度入室したい参加者を部屋に案内するほか、プログラムへの参加を希望しない利用者への対応。相談エリアに入ってきた未登録の方への対応（質問応

~~対、バーチャルユースセンターの説明、雑談などに対するチャット
応対)~~

＜プログラム進行手順＞

開始時には、必ずカスタムパネルに以下の「[埼玉県](#)バーチャルユースセンター利用のルール」を掲示し、司会が読み上げ参加者とルールを確認する。

「埼玉県バーチャルユースセンター利用のルール」

- ① 思いやりの気持ちを大切に。
 - ・他人を不快にさせることは言わない。言葉遣いに気をつけよう。
- ② プライバシーを守ろう。
 - ・個人情報(名前、連絡先、住所など)を教えたり、聞いたりしない。
 - ・写真や動画の撮影・録音はしない。
- ③ 困ったときは、スタッフに相談しよう。

現実の世界と同じように、みんなが気持ちよく過ごせるように行動しよう。

ケース1) 外部講師によるプログラム

- ・ 司会から、本日のプログラム内容と講師の紹介をし、講話へつなぐ。
- ・ 最後に講師への質問や感想をチャットなどで寄せてもらう。
- ・ 次回のプログラムの告知をし、退出方法を説明し終了。

ケース2) 運営スタッフによるプログラム（講話）

- ・ 講話するスタッフが司会進行も務める。
- ・ 本日のプログラム内容を説明し、講話開始。
※ゲストを招いている場合はゲストの紹介をする。
- ・ 最後に質問や感想をチャットなどで寄せてもらう。
- ・ 次回のプログラムの告知をし、退出方法を説明し終了。

ケース3) 運営スタッフによるプログラム（トーク）

- ・ 司会と進行補助の2名で掛け合いながらアイスブレイク。
- ・ その日のテーマに関して参加者に質問し、テキスト文字チャットまたはボイス音声チャットにて回答してもらうなどで交流する。
- ・ 最後に、次回のプログラム日時を案内して、退出方法を説明して終了。

③ オープンDAYの実施

未登録でも参加が可能な日を「オープンDAY」とし、様々なプログラムを実施する。

(5)(6) 運営上の留意点

④ 運営スタッフは可能な限り同部屋で作業を行うこと

埼玉県バーチャルユースセンターの運営中に不測の事態が生じた場合、リアルコミュニケーションにより迅速な対応の検討を行う。

同部屋での実施が難しい状況においては、外部のチャットツール等を活用して、リアルと同様に迅速な対応を行う。

②① アバターによるコミュニケーションの留意事項

交流部屋で事業を行う際、ボイスチャットとテキストチャットが混在すると、スピードに差があり全体でのコミュニケーションが難しくなる。そのため、~~テキストチャット~~いずれかの手法で統一してそのコミュニケーションをとることを推奨するが、参加者の事情を考慮し、柔軟な運用を行う。

進行をボイスチャットで行う場合、ゆっくり話すことを意識する。特に、スタッフが掛け合いで進行する場合はスピードが早くなりやすく、参加者が聞き取れないことがあるため気を付けること。

③② キック（強制退室）の運用について

不適切な発言、挙動等を行っている利用者がいた場合、一度注意を行い、それでも改善されない場合、キックによる強制退室を行うこととする。

ただし、利用のルールを守らない者（プライベートボイスチャット機能の使用等）、不審なアバターがいた場合については、事前予告なくキックを行うことを可とする。

キックの判断にあたっては、交流部屋のリーダーを定め、リーダーの判断で行うこととする。

なお、キックをした後、登録時に確認をしたメールアドレス等を用いてキックされた利用者に連絡をとり、理由の確認をする等アフターケアに努めることとする。

④③ 退室について

原則として、交流部屋から退室する場合は、バーチャル埼玉から退室することを推奨する。

なお、交流部屋での事業終了後、スタッフが指示しても退出しない利用者がいた場合は、キックにより強制退室させる。

* Web ブラウザを利用している場合、ブラウザの「×」ボタン、PC/スマートフォンのアプリを利用している場合、アプリの終了。

6 相談について

(1) 相談窓口について

利用者に対する相談部屋は、「~~バーチャル埼玉相談室~~バーチャル埼玉 鍵付き相談室」及び「鍵付き相談ブース」に設置する。

この他、利用者及び利用者以外からの相談窓口を「専用メール、LINE、電話」等に設置する。

* ~~—~~*相談には、相談部屋や相談窓口以外の他者に見られない環境で、個別に相談を受けることも含むこととする。

(2) 相談部屋の運用について

① 予約について

相談希望者に対し、相談日時及び~~バーチャル埼玉相談室~~バーチャル埼玉 鍵付き相談室のURLを送付する。

連絡調整にあたっては、バーチャル埼玉のテキストチャット機能は使用せず、専用メールまたはLINEより案内を行い、Googleカレンダーにて予約を行う

~~メールアドレスについては、バーチャルユースセンターHPより入手する。~~

~~メールアドレスが入手できない、本人がすぐに相談を希望している等の場合においては、相談エリアにある「鍵付き相談ブース」にて相談を行う。~~

なお、「~~バーチャル埼玉相談室~~バーチャル埼玉 鍵付き相談室」「鍵付き相談ブース」ともに事前予約が必要となることから、委託事業者と県が連携し、適宜空間予約を行うこととする。

「鍵付き相談ブース」と「~~バーチャル埼玉相談室~~バーチャル埼玉 鍵付き相談室」の違い

違い①・・・「他のエリアとつながっているかどうか」

別 URL の部屋は他のエリア（相談エリア含む）とつながっていない。

違い②・・・「相談室に直接リンクできるか」

~~バーチャル埼玉相談室~~バーチャル埼玉 鍵付き相談室は URL により直接相談部屋の待合室に飛ぶ。

鍵付き相談ブースはエントランスを経由する必要がある。

② ルールについて

相談内容の録音やスクリーンショット等の録画は禁止とする。また、10分以上、利用者からリアクションやチャットでの応答がない場合、相談を終了する。

(3) 相談部屋の機能について

① テキスト／ボイスチャットの利用

相談者の希望に応じて、テキスト／ボイスチャットいずれかにより相談対応を行うこと。

② カスタムパネルの利用

各相談部屋にカスタムパネルが設置されているため、相談スタッフは必要に応じて適宜利用すること。

(4) 相談部屋の運営上の留意点

① 相談記録の作成

相談スタッフは、相談した内容等を記録として残すこと。

なお、相談記録を含む個人情報の管理には十分に留意し、他者が相談内容を知ることがないようにすること。

② 専門支援機関等へのつなぎ

相談者の希望に応じて専門支援機関等へつないでいくこととする。

ただし、相談は専門支援機関につながることが目的ではないことから、あくまで相談者の自発的な発言によるものであることに留意する。

なお、委託事業者が相談者と直接会って支援することはしないこととするが、委託事業者が別途実施している事業にを案内することを妨げるものではない。

(5) 専門支援機関等へのつなぎ方について

相談者から専門支援機関等の利用等について希望があった場合、下記の手順によりつないでいく。

Step① 相談者から、より専門的な支援機関等で相談したい旨の発言を受ける。

Step② 相談者から、専門支援機関等を探すため、以下の内容を確認する。

- ① 希望する支援体系等
- ② 希望する地域
- ③ 保護者への情報共有について（年齢に応じて）
- ④ 今後の連絡方法（メール、相談部屋等）

Step③ 相談者に対し、希望に合う専門支援機関等を探し、別途紹介する旨伝達し、終話。

Step④ 相談者の希望に合う専門支援機関等を探し、相談者（または保護者）に対して情報提供を行う。

~~＊ 保護者への連絡については、協力機関に協力を仰ぐこととする。~~

Step⑤ 相談者（または保護者）に対し、以下の内容を確認する。

- ① 氏名等や相談内容について専門支援機関等に伝えることを希望するか。
- ② 不安な点等ないか。

Step⑥ 相談者（または保護者）の希望に応じ、適宜、専門支援機関等との調整を行う。

7 オフ会について

(1) オフ会の実施について

利用者の希望や気持ちの変化に応じて、埼玉県バーチャルユースセンターの利用者に限定した対面の交流、体験の機会を提供する。

なお、~~利用者アンケート等を通じて~~利用者の希望を確認した後、企画・立案をする。

(2) 募集方法

~~1月ごとのオフ会の実施日、内容等のタイムスケジュールを作成し、協力機関を経由して周知を行う。~~ オフ会の実施日、内容等が決定次第、「埼玉県バーチャルユースセンターHP、LINE、Instagram」にて周知を行う。

(3) オフ会の実施フロー

Step① 利用者と埼玉県バーチャルユースセンタースタッフ間の関係づくり

＊交流部屋での事業やTEAMSでの交流を通じて関係構築

Step② 聞き取りやアンケート等を通じて、利用者からオフ会の実施希望を確認

Step③ オフ会の企画・立案

＊利用者の声を反映したテーマに応じて企画を行う

＊実態に応じて、利用者が主体的に企画を行うことができるようサポート

Step④ オフ会の実施

8 利用者~~アンケート~~の~~実施~~声について

(1) 利用者の声について

利用者の声を積極的に反映するため、交流部屋でのコミュニケーションを通じて、意見を確認するとともに、必要に応じて意見を聞き取る場を設ける。

確認をした利用者の声は、可能な限り運営等に反映していくこと。

~~(1)~~ (2) 利用者アンケートの実施について

~~試験運用期間中においては、事業実施後、アンケートを実施し、事業運営の参考とする。~~

アンケートについては、事業に対する率直な感想のほか、事業内容の希望を確認するものとする。

~~(2)~~ (3) アンケート実施方法

埼玉県バーチャルユースセンターの利用者に対し、~~協力機関を通じて~~アンケートを行う。~~必要に応じて協力機関に行き、直接聞き取りを行う。~~

~~この他、適宜、交流・体験事業実施時に、利用者との意見交換を行う。~~

アンケート結果及び意見交換の結果については、以降の翌月の事業に反映させるとともに、~~翌月のタイムスケジュールの案内と併せてフィードバックを行う。~~

バーチャルユースセンターの設置・運営

【予算額】 27,053千円

担当 青少年課 企画・非行防止担当
内線 2905

目的

あらゆる子ども・若者に身近な居場所があり、気軽に他者に相談し、生き生きと活躍している社会を目指す。

事業概要

1 バーチャルユースセンターの設置・運営

27,053千円

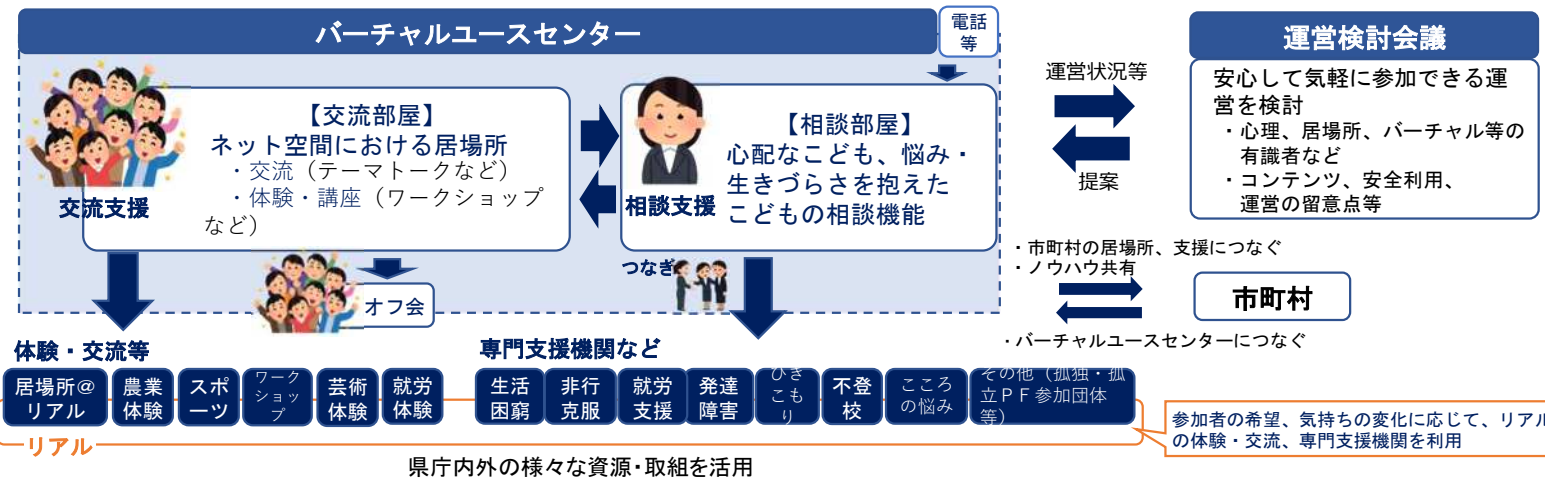
(1) バーチャルユースセンター事業

27,053千円

- ・メタバース空間に、小学生から義務教育修了後の大学生程度までの子ども・若者が安心して気軽に参加でき、体験・交流・相談等の機能を備えた居場所として、バーチャルユースセンターを設置・運営



バーチャルユースセンター（試験運用：R6.10～、本番運用：R7.10～）



埼玉県バーチャルユースセンター・試験運用成果報告について

事業目的

- あらゆるこども・若者が誰でも気軽に利用できる居場所の設置・運営【理念】
- 居場所がなく孤独を感じる、あるいは孤立しているこども・若者がバーチャル空間での交流などを通じて、安心して気持ちを表現し、自分のことを全てさらすことなしにつながって、自分らしくいられる【主なターゲット層・目的①】
- スタッフと信頼関係を構築し、抱える困難の深刻化の予防や早期対応を図る【目的②】

利用実績

	利用者(延べ人数)	登録者
令和6年10月	99名	21名
11月	102名	16名
12月	71名	27名
令和7年1月	41名	5名
2月	30名	23名
3月	19名	16名
4月	9名	10名
5月	45名	10名
6月	33名	11名
7月	48名	34名
8月	116名	20名
累 計	613名	193名

8月の夏休み期間中は、全日登録不要のオープンデーとした。

利用登録者の傾向

性別	男	64名
	女	68名
	わからない	7名
合 計		139名

各施設	さいたまユース	39名
	教育センター	24名
	その他支援機関	17名
	特になし	59名
合 計		139名

R7.6.30時点の登録者139名の内訳
※ 事業特性による性差が生じないこと、「特になし」の割合が増加しており、幅広い層からの登録が増えてきていることが確認できたため、R7.7.1～性別・施設利用の確認を不要とした。

年代	0-5歳	1名
	6-12歳	78名
	13-15歳	43名
	16-18歳	20名
	19-22歳	9名
	23-29歳	11名
	30-39歳	8名
	40歳以上	23名
合 計		193名

R7.8.31時点の登録者193名の内訳
※「40歳以上」では、学校教員や支援機関の職員、保護者等の登録も含む。

利用実績分析

* 自発的利用者数・・・デモ参加者、スタッフがリアルな居場所で声掛けをした参加者を除いた人数

月	利用者延べ人数	内、自発的利用者延べ人数*	自発的利用者実人数
令和6年10月	99名	3名	
11月	102名	4名	
12月	71名	29名	「つながる埼玉フェスタ」で延べ15名参加
令和7年1月	41名	6名	
2月	30名	8名	
3月	19名	9名	8名(内、未登録者7名)
4月	9名	9名	5名(内、未登録者2名)
5月	45名	20名	13名(内、未登録者9名)
6月	33名	6名	5名(内、未登録者1名)
7月	48名	9名	9名(内、未登録者7名)
8月	116名	89名	*全日オープンデーとして実施したため詳細不明
合 計	613名	192名	

主な仮説①(交流・体験事業)

既存の取組では捉えられていない潜在的なニーズを、バーチャルを介在することで顕在化させることができる。

検証

利用者の声	●小学生の子どもと一緒にデモを体験した保護者 「自分の住んでいる自治体にもオンライン上の不登校支援センターはあるのだが、少し学校っぽいので子どもにはなじまない。もっとゆるやかな居場所みたいなものがないかと思い参加してみました。」 ●30代 「ひきこもり支援機関につながっているが、他の人と一緒に参加するリアルプログラムはまだ無理があるので、自分のペースで参加できそうなバーチャルユースセンターに興味を持った。」
利用者アンケート	【質問】若者どうしの交流・体験プログラムに参加する際、お互いの顔が見える対面型と、お互いアバターで参加するバーチャル型のどちらかを選べる場合、あなたが参加したい方を選んでください。 ⇒「アバターでの交流・体験」72.2%「対面での交流・体験」27.8% 【自由記述欄】「アバターにより顔を見せる必要がないため、気軽に参加出来てよかった」「気軽にチャットなどができ、交流がしやすいと思った」

結果

顕在化させることができる

今後の課題

- バーチャルの特性に魅力を感じる利用者が多い一方で、一時的な利用で、その後の利用が継続しない傾向があるため、より気軽に利用できる環境づくりが必要
- ニーズがある層に情報が届いていない可能性がある。

主な仮説②(相談事業)

バーチャルでも居場所の設置により悩みの早期相談や深刻化の未然防止を図ることができる。

検 証

実績	相談実績は0
利用者の声	●デモに参加した20代若者 「オンラインに居場所があればいいという訳ではない。会いたい人がそこにいるから(リアルの居場所に)行っている。」 ●デモに参加した20代若者 「すでに相談できる(リアルの)場所があるからバーチャルで相談しようとは思わない。顔が見えない人には、相談しない。安心感がないから。」

結 果

**判断するには時期尚早
(バーチャルの場合、リアルよりも信頼構築に時間を要するため)**

今後の課題

- 信頼関係構築を促進する広報周知が必要

埼玉県バーチャルユースセンター・試験運用成果報告について

試験運用期間実績(令和6年10月1日～令和7年8月31日)

開室日数	156日	内プログラム実施回数204回
延べ利用者数	613名	
外部有識者会議実施回数	7回	
利用者アンケート協力者数	1,089名	さいたまけん★こどものこえアンケート 1,019名(保護者含む)、利用者アンケート70名
動画広告 ※VYC全体PR	2回	YouTube広告(R7.4.17～5.11)、Instagram広告(R7.8.14～8.19)
SNS発信数 ※活動内容	56回	VYC公式Instagram 53回、県公式LINE 2回、こども応援NW埼玉Facebook 1回
訪問説明実施回数	71回	学校※、不登校支援センター、リアルの居場所事業、NPO団体等
チラシ配布枚数	18,090枚	学校、不登校支援センター、リアルの居場所事業、NPO団体、福祉事務所、保健所等

※ 夏休みは不登校が心配されるところでもあるため、定時制高校等へ集中的に訪問

利用登録者の傾向 ※R7.7.1～8.31

登録のきっかけ	学校の先生	11名
	SNS	11名
	体験会	10名
	WEBサイト	9名
	チラシ	8名
	支援機関	3名
	インターネット広告	0名
	その他	2名
合 計		54名

埼玉県バーチャルユースセンター・試験運用成果報告について

事業目的

- あらゆるこども・若者が誰でも気軽に利用できる居場所の設置・運営【理念】
- 居場所がなく孤独を感じる、あるいは孤立しているこども・若者がバーチャル空間での交流などを通じて、安心して気持ちを表現し、自分のことを全てさらすことなしにつながって、自分らしくいられる【主なターゲット層・目的①】
- スタッフと信頼関係を構築し、抱える困難の深刻化の予防や早期対応を図る【目的②】

目指すべき運営の形

◆ 誰でも自由に気軽に出入りができる居場所

◆ 目的や成果が求められない余暇活動の場や、利用者が共感や自己表現を図ることができる居場所

◆ スタッフとの信頼関係があり、スタッフに会いに来れる居場所

検討要素 ○促進要素、●阻害要素

- 匿名性が高い
- オープンチャットで安全性がある
- リアルタイムコミュニケーションがとれる
- どこからでも参加ができる
- 事前登録が必要
- 開室時間に合わせる必要がある
- デジタルツール等が必要
- 保護者の安全性に対する懸念が大きい

- 匿名性が高い
- 聞くだけの参加も可能
- 利用者企画のプログラムの実施が可能
- 非言語コミュニケーションは困難
- 表現はテキストチャットのみ
- オープンチャットのため利用者間でのコミュニケーションがとりにくい

- スタッフは固定
- スタッフはボイスチャットで話しかけられる
- 事前登録時にスタッフが個別把握を行う
- アバターコミュニケーションの制約
- 講義型プログラムになりがち
- オープンチャットのため利用者の個別対応が困難

➡ 「自由」「気軽」と「安全性」の両立が課題

利用時間帯

安全性

➡ 事業の目的達成に資するユースワークプログラムの実施

プログラム内容

➡ オンライン空間でのスタッフとの信頼関係醸成に時間がかかることが課題

利用者との関係性

埼玉県バーチャルユースセンター・試験運用成果報告について

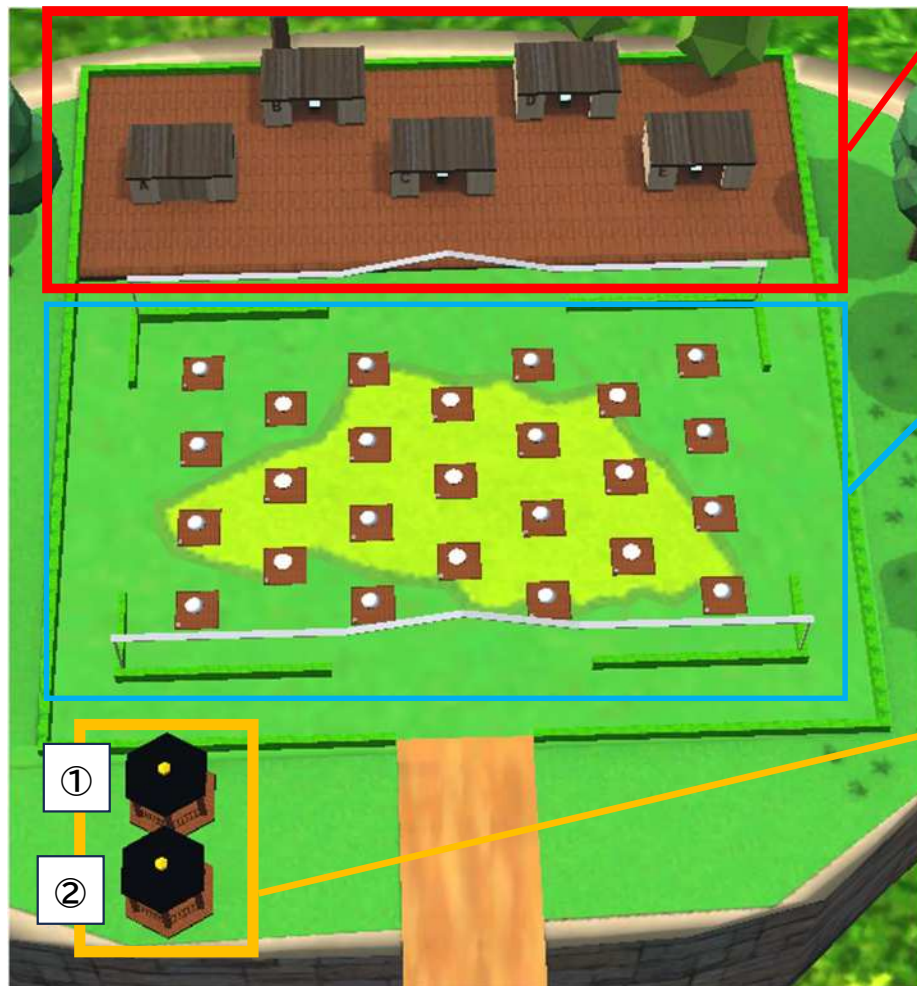
運用方針

事業目的の達成及び課題解消のため、安全性を担保しつつ、自由に気軽に利用できる居場所を目指すもの

開室時間	毎週 火曜日 16:00～19:00(小学生向け) 木曜日 16:00～19:00 日曜日 19:00～21:00 ● 様々な事情を抱えた層に幅広く利用していただくため、学校が終わる夕方以降の時間帯とする。 利用時間帯	● 利用者アンケート 参加しやすい曜日は「日曜日」「土曜日」が多い。 参加しやすい時間帯は「18～21時」が多い。 ● 試行結果 様々な時間で開室を試したが、特に有用な時間帯はなかった。
利用方法	事前申込・事前登録不要 安全性	● 利用者アンケート 保護者の52.3%の方が「こどもにバーチャル空間上の居場所を利用させたいと思わない。」 ● 利用者の声 「バーチャル空間が無秩序な状態ではない、という安心感がほしい。」 「ネット依存にならないために、子どもへの対応策を考えてほしい。」
安全対策	スタッフが常駐し、チャットでの会話等の確認を行う ● 大人数の場合はオープンチャットを徹底することで空間内の透明性を確保する。 ● 問題行動を起こす利用者がいた場合は、事前注意の上、速やかに強制退室させることを徹底する。 ● 長時間利用とならないよう、適宜休憩の声掛けする。 相談エリアでスタッフや利用者間で会話を行う自由な空間（目的や成果が求められない余暇活動の場） ● 少人数の場合は外から見える場所でグループチャットを認める。 安全性	● 試行結果 登録不要のオープンデーを1か月実施したが、問題は生じなかった。
運営内容	○交流・体験事業 ● 利用者の声を基にテーマを決めたプログラムの実施 （共通のテーマを基に、利用者間のコミュニケーションを促進） 例：テーマトーク、好きな本の紹介等 ○相談事業 バーチャル埼玉相談室等を活用した個別相談 （HPから事前予約を受け、個別相談） プログラム内容	● 利用者の声 「自分でプログラムを企画したい。好きなものを紹介したい。」
広報周知	Instagramの運用(週1回程度の更新)、動画による広報、デモの実施、市町村・教育メタバースとの連携 ● リアルとバーチャル、両面からの広報の実施 利用者との関係性	● 利用登録者アンケート(R7.7～8) 登録のきっかけは、学校の先生・体験会・チラシ・WEBサイトが多く、SNS・インターネット広告は少ない。

埼玉県バーチャルユースセンター・試験運用成果報告について

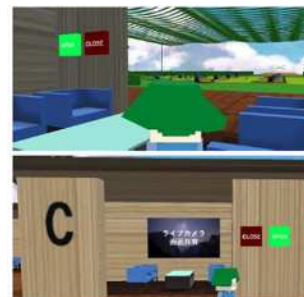
相談エリア概要



相談エリア入口

鍵付き相談ブース

新規



- ブース形式の空間
- ブース内にいるアバターによるグループチャットが可能
- 入り口の扉の開閉が可能であり、閉じることによって秘匿性が高まる

オープンテラス

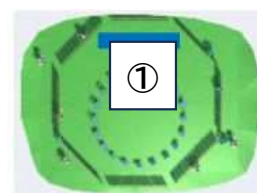
新規



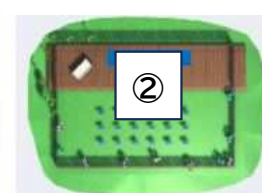
- カフェ席が並んだ広いエリア
- 席に集まったアバターでグループチャットが可能
- オープンテラスに入るための入り口は管理者権限による入場制御が可能

グループワークルーム

従前



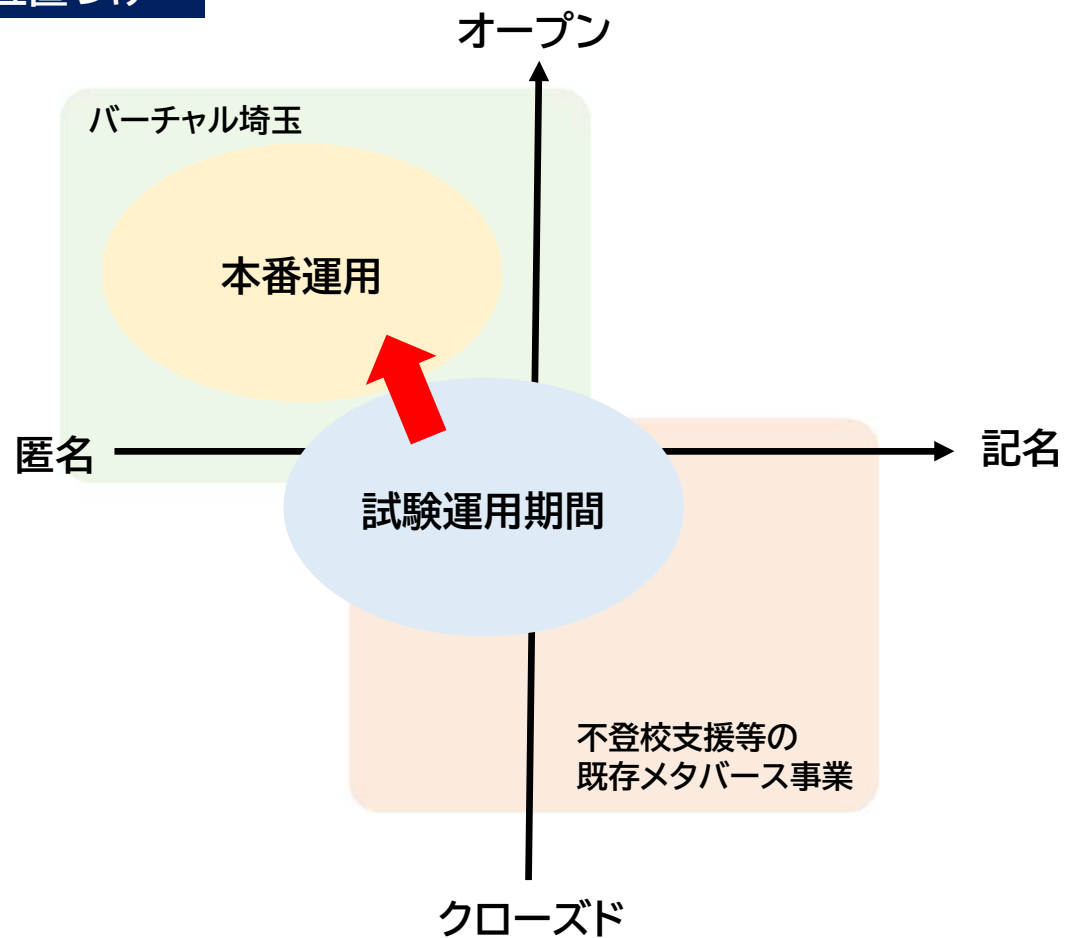
車座形式



教室形式

- 閉鎖された会議室風の空間
- 空間内にいるアバターでグループチャットが可能
- 小屋からグループワークルームへの転移は管理者権限による制御が可能

バーチャルユースセンターの位置づけ



埼玉県バーチャルユースセンター運営検討会議 ・ 結果概要(令和7年9月時点)

回	区分	委員	事務局	対応状況	
②	質問	交流部屋は、対象年齢で部屋を分ける、年齢を分けない、どちらを主として運営するのか。	年齢を分けた方が的確なプログラムを提供できる一方、異年齢が集まることの良さもある。 試行の中で検討する。	-	-
②	質問	Discordを活用するにあたって留意する点として何を考えているのか。 不適切な発言がなされる可能性がある。	(受託事業者) 運用ルールをこども達に働きかける。 ワード登録を行い、不適切な発言があった場合、運営側にアラート通知が届く設定をする。そして、発言をしたこどもに対してケアやサポートをしていく。 なお、Discordはツールの一つの家であり、実際に活用するかどうかは今後、検討を行う。	-	-
②	質問	Discordを活用する場合、スタッフがいない時間においてもこども達だけのやりとりが発生するものか。	(受託事業者) こども同士のやりとりが発生することも想定している。 最初は事前登録したこども達だけの運用となるため、運営側がある程度各個人の把握はできる。 テキストチャットの履歴は残るため、運営が定期的に確認する運用が考えられる。	-	-
②	質問	Discordでの相談時間を設けるのか。	(受託事業者) 運営と直接会話が出来る時間帯はあらかじめ示す必要があるが、今後、検討を行う。	-	-
②	意見	バーチャルユースセンターとDiscordの棲み分けを整理することが課題。 ヨーロッパではDiscordがオンラインユースワークやデジタルユースワークの主戦場となっている。Discordだけで完結できる部分があるが、一方で、アバターを介したバーチャルユースセンターならではの良さもあると考える。それぞれの利点を踏まえ、どう活用していくのか、どうあるべきかを意識して議論していけると良い。	(受託事業者) バーチャルユースセンターの補完的な役割としてDiscordを活用することを考えている。 今後、検討を行う。	利用者機能の管理が行えるTeamsを活用した枠組みを検討中。	済
②	質問	夜の時間帯に対するニーズがあると思われるが、その対応はどのように考えているのか。	(受託事業者) 夜の時間にニーズがあるだろうということは理解しているが、昼間の時間帯で生活リズムを整えられた方がよいという考えもある。また、あまりに遅い時間では生活リズムが崩れる可能性もある。 試行の中で検討する。	-	-
②	質問	協力小中学校に対する広報はどのように考えているのか。	協力小中学校に対して、一斉にチラシ等を配布することを想定している。	-	-
②	質問	1月になると、すべての小学校から大学に一般公開するのか。	試行の中で検討する。	-	-

回	区分	委員	事務局	対応状況	
②	意見	連絡先の登録について、通常の小中学生はメールアドレス等はあまり持っていないと思われる。 また、未成年は保護者の連絡先を登録することとなると、居場所感を下げる要因となり、必要なニーズ(こども)に届かないリスクになる。	-	義務教育年齢の者については、保護者の同意を求めることとし、連絡先は保護者のものとする。 ただし、支援機関等利用者は支援機関等による代理登録を認めることとする。	済
②	意見	保護者の連絡先を求めることは義務教育かそうではないかで分けてもよいのではないか。中学生までは保護者の連絡先を求め、高校生からは任意とする運用も考えられる。 また、保護者の同意が得にくい場合においては、例えば学校の先生や、施設の施設長、ケースワーカーといった親以外の選択肢を認める等、柔軟な対応が必要と思われる。	-	義務教育年齢の者については、保護者の同意を求めることとし、連絡先は保護者のものとする。 ただし、支援機関等利用者は支援機関等による代理登録を認めることとする。	済
②	意見	本人や家族と連絡をとるために、登録時にメールアドレスや電話番号を求めることが必要であることは理解できる。	-	登録時にメールアドレス及び電話番号を求めることとする。	済
②	意見	メインターゲットをどこに設けるか議論が必要。 ユニバーサルかターゲットか。試行当初はターゲットを絞って始めることは了解しているところであるが、将来的にどの層をメインターゲットに据えるかによって運営のルールも変わってくる。 ただ、真に居場所が必要であるこども達に利用したいと思ってもらえるよう、形式上はユニバーサルとして敷居を下げ、実際のメインターゲットは別に据えるという考え方もある。 試行期間中はターゲットを絞り、支援を要するこどもだけに絞ることも考えられる。	-	委員意見を踏まえ、試行の中でニーズを検証し、利用者層の拡大にあたっては慎重に検討を行う。 ⇒(第4回追記) リアルに居場所のあるこども・若者は定着をしない傾向があるため、リアルに居場所がない(感じられない)こども・若者へのアプローチを強化する。	済
②	意見	試行期間の間は、ずっと支援を必要としているこども達だけを対象とするということも考えられる。	-	委員意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。 ⇒(第4回追記) リアルに居場所のあるこども・若者は定着をしない傾向があるため、リアルに居場所がない(感じられない)こども・若者へのアプローチを強化する。	済
②	意見	ユニバーサルの部屋とターゲットを絞った部屋、両方を用意し、行き来できるようにすることも考えられる。	-	講義的なプログラムの回のほか、こども・若者が主体となって活動するような回、特定の目的を持たない余暇の回など、様々なプログラムを設け、こども・若者のニーズに幅広く対応する。	済
②	質問	プライベートテキストチャットで別のサイトのURLや連絡先の交換等が行われる可能性があるが、対応する方法はあるか。	制限する機能はないため、運用ルールの中を定め、対応・指導していく必要がある。	11月14日にプライベートテキストチャットを制限する機能が実装された。バーチャルユースセンターにおいては当面の間、プライベートテキストチャット機能は原則禁止の設定とする。	済
②	意見	不適切な発言等をしてキック(強制退室)されたこどもに対してケアの方法を考えておくことが必要。	登録時に連絡先を確認し、ケアに努める。	ケアを行う旨、マニュアルに追記。	済

回	区分	委員	事務局	対応状況	
②	意見	利用者間のプライベートテキストチャットは早い段階で認められていくものという印象。	試行の中で検討する。	空間内の安全性が求められる一方、プライベートチャットのログを確認すること等できないため、現仕様の中においては制限を継続する。	済
②	意見	入室にあたって、なりすましを防ぐために合言葉等によりきちんと本人確認をしてから入室させるということも考えられるが、一方で、利用のしやすさを優先させるという考え方もある。どの方法が適切かについては試行の中で検討していただきたい。	試行の中で検討する。	合言葉での入室確認は事務的に支障が生じるため、ニックネームによる確認とする。	済
②	意見	今後、バーチャルユースセンターの活動が教育課程上の学校外の活動としてカウントされることも考えられる。	-	試行運用の中で一定の方向性が固まった本格実施となり、安定的な運営が継続された後、協力市町村、教育支援センターと協議する。	継続
③	質問	お試しで参加した者も登録をしているのか。	お試し参加の者は登録していない。	-	-
③	質問	学習プログラムはどこで行う予定か。	(受託事業者) オープンテラスの使用を考えている。例えば鍵付き相談ブースのスクリーンを使用することも検討している。そこで学生ボランティア等がテキストチャット中心で教えるイメージで考えている。	-	-
③	意見	同じ場を共有していることの強みを活かすためには、テキストチャットよりもボイスチャットの方が大事ではないか。	試行の中で検討する。	委員の意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。 ⇒(第4回追記) ボイスチャットを希望しない利用者も一定数いるため、プログラム内容に併せて使い分けをすることとする。	済
③	質問	身分証明の確認を緩和するということだが、具体的にどのような方法か。	支援機関に在籍確認を行うことで本人の身元確認ができたと整理したい。	-	-
③	意見	どこにも在籍していない、中学校にも高校にも在籍していないような人に対する登録方法を検討していただきたい。	-	試行期間当初においては、登録時にオリエンテーションを実施し、本人確認を行う。	済
③	意見	入室にあたっては、システムで本人確認できた方が心理的安全性が高い。	バーチャル埼玉の機能としては実装されていないが、担当課所に要望として伝えている。	担当課所に対し要望を伝えていく。	済
③	質問	利用拡大の状況は。	教育支援センターは調整中。 そのほか、市町村に対して協力の通知を発出しており、協力の相談があれば適宜対応していく。	-	-
③	質問	実際に運営している委託事業者の意見として伺いたいですが、この事業は、何に向いていそうか。 バーチャル埼玉をどう使うかということから始まっており、何かニーズがあって始まっているものではないという難しさを感じている。 その中で、匿名のライン相談やリアルな居場所づくり等も進んでいる中、どんな強みがあると感じているのか。	(受託事業者) 行政が運営しているという信頼性があり、こどもや若者の安全なバーチャルな居場所が提供できるという点に可能性があると感じている。	-	-

回	区分	委員	事務局	対応状況	
③	意見	こどもや若者の安全なバーチャルな居場所が提供できるという点に強みがあるのであれば、そういったニーズに尖らせた拡充の仕方等を進めていくべきではないか。	-	委員の意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。 ⇒(第4回追記) リアルに居場所のあるこども・若者は定着をしない傾向があるため、リアルに居場所がない(感じられない)こども・若者へのアプローチを強化する。	済
③	質問	登録している人はどのような人か。	(委託事業者) 現在の傾向としては面白そうな場所として興味を持った人が登録している割合が大きい。 ただ、中には学校に行かないという選択をしている人や、その時のコンディションでリアルな現場に来れないような人もいる。 (県) 支援が行き届かない層への掘り起こしも検討していきたい。	-	-
③	意見	オンラインの交流からオフ会に繋げていくことのハードルは高い。 間にいるキーパーソンがとても重要になると思う。	試行の中で検討する。	利用者とスタッフ間での信頼関係醸成を、リアルも含めて考える。	済
③	意見	登録にあたっての性別確認については、男女及び男女に該当しないという3択でよいのではないか。 もしくは任意入力でもよいのではないか。	-	男女及び回答しないという3択で項目を設定する。	済
③	意見	性別の配慮については、当事者本人たちから意見を聞いた方がよいのではないか。	試行の中で検討する。	男女及び回答しないという3択で項目を設定する。	済
③	質問	アンケートは記名式か、無記名式か。 記名式の場合、書きやすさは下がる等の良し悪しはある。	利用者向けは無記名式、支援機関向けは記名式を検討している。	-	-
③	意見	何のプログラムに参加したか把握した方がよいのではないか。	-	質問項目の適宜行う見直しの中で検討を行う。 ⇒(第4回追記) 設問数厳選のため一旦見送ることとする。	済
③	意見	フェイスシートにあたる部分は質問した方がよいのではないか。	-	フェイスシートにあたる部分の質問項目を追加する。	済
③	意見	質問をする目的に併せて質問項目を設定すべき。	-	質問項目の適宜行う見直しの中で検討を行う。	済
③	質問	アンケートの配布方法はどのように考えているのか。	フォームに入力してもらう方法と小学校低学年向けに聞き取る方法を検討している。	-	-
③	意見	アンケートは回答する側の負担や時間的な制約がある。例えば小学生には小学生向けのより簡易なアンケートがあってもよいのではないか。	検討を行う。	小学生向けのアンケートの作成。	済
④	質問	バーチャル埼玉とZOOMを両方使用するメリットは何か。	バーチャル埼玉の機能的に制約されている部分を必要に応じて外部ツールの活用により補完するというもの。	-	-
④	質問	テキストチャットとボイスチャット、どちらを使う利用者が多いか。	圧倒的にテキストチャットを使っている方が多い。	-	-

回	区分	委員	事務局	対応状況	
④	意見	学校で配布されているタブレット等にリンクや情報が含まれるとよい。	検討を行う。	試行運用の中で一定の方向性が固まった本格実施となり、安定的な運営が継続された後、協力市町村、教育支援センターと協議する。	継続
④	意見	学校内の保健室等で休んでいるといった、学校には行っていないけれども違う教室でゆっくりしているこども達にも一定のニーズはあるのではないかな。	検討を行う。	SSW、特別支援教育コーディネーター等学校内の支援業務従事者に対し事業紹介の通知を発出する。	済
④	意見	アバターの種類が少ないのではないかな。また、カスタマイズできるようにできないのかな。	担当課所に要望として伝える。	担当課所に対し要望を伝えていく。	済
④	意見	バーチャル埼玉を特に目的なく回遊している者に対して、空間内にある掲示板等で情報発信したらどうか。	(委託事業者) バーチャル埼玉内に特に目的なく回遊している者はほとんどいない。 また、プログラム以外の時間帯に訪れる者もほとんどいない。	-	済
④	質問	11月活動実績の中で22日だけ0人だった理由は何かな。	(委託事業者) リアルイベントに人がとられてしまった。また、「表現哲学対話ミックス」というプログラム名もわかりにくかったと思われる。	-	-
④	意見	プログラム名が少し硬いのではないかな。	(委託事業者) プログラム名は工夫したい。	プログラム名は適宜見直しを行っていく。	済
④	意見	こども達から発信する何か、そのこども達が真ん中に立って、実施できるようなプログラムが今後展開されていくとよい。	-	こども・若者の意見発信となるプログラムを設定する。	済
④	意見	学校については、SCやSSWも良いが、特別支援教育コーディネーターや教育相談コーディネーターにこういった活動を、学校に行きづらい、教室に入りづらい人にどうかということをお願いできれば、個別に対応してくれる。	検討を行う。	各市町村教育委員会等宛に通知を発出	済
④	意見	プログラム外で自由に来て何か話している人はいるのかな。	(委託事業者) ほとんどいない。 そういったところが理想ではあるが、まだ利用者もプログラムがなければ何をしたらいいのかな少し戸惑うといった現状もある。	8月はオープンテラスを活用したチャット利用者があった。	済
④	意見	公共施設とは違うため、現時点では参加者数で事業の善し悪しを評価することでなくても良いのではないかな。色々試行する中で、将来の方向性を見据えていけるとよいのではないかな。	もう少し先を見据えて取組を進めたい。	-	-
④	意見	バーチャルユースセンターが大人気コンテンツを設け、皆がここに行きたいと思うようなことを想定するよりは、むしろここにこそニーズがあるような層を探り、尖らせていく方がいいのではないかな。	試行を進め、どこにニーズがあるのか考えていきたい。	リアルに居場所のあるこども・若者は定着をしない傾向があるため、リアルに居場所がない(感じられない)こども・若者へのアプローチを強化する。	済
④	意見	オンラインユースワークを実施していくにあたり、この空間を使うことや単純な人数の増加をゴールとするのではなく、どこかのタイミングで他の方向性を考えることも必要ではないかな。	-	一定の可能性が感じられることから、メタバースを活用したユースワークを継続していく。	済

回	区分	委員	事務局	対応状況	
④	意見	リアルな居場所との比較のほか、他のオンラインの居場所との比較も考えていく必要がある。バーチャルユースセンターの強みが行政が運営している安全性が強みであるならば、その点も踏まえて尖らせていくことも重要。	-	安全性を追求することは利用のハードルの高さにつながる。一定の安全性を確保した上で、利用のしやすい運営形態を目指す。	済
④	質問	バーチャル埼玉で3D酔いをするが、対策はあるのか。	(委託事業者) 根本的な対処法はないため、長時間の利用とならないよう適宜休憩をはさむようにしている。	-	-
④	意見	他自治体の不登校児向けメタバース事業においては、スタッフ1名は常駐していることを安心安全のポイントとしている。	(委託事業者) バーチャルユースセンターにおいても開室時間は常にスタッフがいます。	-	済
④	意見	周知について、今後の本格運用に向けて広く周知していくという考えがある一方、一般利用者の方が来ることによって、教室に行きづらいようなこともが利用しにくくなる恐れがあるのではないかと。	段階を追って周知を広げていくイメージである。ターゲットを絞る方向性も良いのではないかと御意見もあったため、広げられるところから広げていきたい。	-	済
④	意見	放課後児童クラブ等において、夏の時期、熱中症警戒アラートが発令されると外遊びができなくなり、持て余すこともあったという話も聞いた。そういったタイミングで合同イベントのようなものが企画できるとよいのではないかと。	検討を行う。	夏休み期間中は日中に開室時間を設け、暑さで外出できない層へのアプローチを強化	済
④	意見	登録にあたって電話による本人確認を実施することについてはメリット・デメリットがある。義務教育年齢の子どもについては、電話連絡によって保護者が安心する側面もある。今後、登録者数が多くあった時に向けてSNS通知のような工夫も考えられる。	検討を行う。	義務教育年齢の登録者については電話による本人確認を行い、それ以外の者についての確認はメールでのやりとり等で行うこととする。	済
⑤	質問	「観るラジオ」はボイスかテキストチャットのどちらで行っているのか。	(委託事業者) ゲストとパーソナリティはZOOMを活用して顔出しで対談を行い、聞きに来た子ども・若者はチャットで質問をするという形式。	-	-
⑤	意見	「バーチャル空間であれば誰でも気軽に入るのではないかと」ということに対し、「誰でも気軽に参加できる環境整備を進める必要がある」ということは、イエスでもノーでもなく、とても行政らしい書き方になっている。どの程度フォーマルな報告書なのかにもよるが、出来た・出来なかった、うまくいった・いかなかった等を書いた方がよい	ここの表現としてはもう少し工夫した方がよかったかなとも思ったため、今後、検討させていただきたい。	-	-
⑤	質問	現状の登録者の中で、さいたまユースサポートネットの利用者の方が規模として一番多いと思うが、さいたまユースサポートネットの利用者は、お互いに面識があるのか、また、スタッフともリアルな交流があるということでしょうか。	(委託事業者) スタッフは面識がある。子ども・若者同士は、利用している事業ごとに分かれているため、全員が顔見知りではない。	-	-

回	区分	委員	事務局	対応状況	
⑤	意見	この空間が万能なものではないことは皆わかっており、そこを 取り繕って書かない方がむしろ次に繋がる。もう少しフランクな 会議として検討をしていった方が、実が出るのではないかと。そ もそもニーズがあるかどうかも含めて検討する段階だと理解し ており、その辺りは(ネガティブなことも含めて)おおらかに書い た方がよい。	-	-	-
⑤	質問	バーチャルユースセンターを利用する時間帯について、例え ば21時から24時といった選択肢があったのか、そもそも質問 自体設けていなかったのか。	21時以降のものについては選択肢に入れていなかった。	-	-
⑤	意見	家庭訪問型支援をされている団体との仕掛けづくりも必要で はないか。例えば、アスポートという学習支援を行っている団 体が、要対協と連携してアウトリーチを実際行っており、そう いった団体とのコラボみたいなところは重要になると考える。	(委託事業者) アスポートには、我々が作っているチラシを、青少年課を通じて お届けした。 団体同士として、アスポートの代表の方とも普段からやりとりな どもしている。今後、どのような連携ができるか検討したい。	アスポート関係団体に対し、連携等の依頼を行っ た。	
⑤	意見	その居場所での自分の役割を見つける時は、大体こちらから 少し手伝って欲しいといった、小さな役作りみたいなところから 始めている。そういうちょっとした役割から主体的になっていく という過程を、居場所の中でなんとなく見かけている。	(委託事業者) 小学生の男の子が、自分の好きなものを皆に知って欲しい、み んなの前で話したいということで、自らテーマを企画し、プログラ ムを運営した。そうした役割を持ってもらう中で、広がりを持たせ ていきたい。	-	-
⑤	質問	企画はどのようにサポートをしたのか。	(委託事業者) 事前に本人と打ち合わせをした。小学生は保護者の方ともお話 することになると思うが、丁寧な打合せを行っていききたいと考 えている。	-	-
⑤	意見	何人か、例えば高校生が小学生の中に入って、何かやろうよ みたいな、この間、言ってくれたことを実現しようよ、みたいな 感じでやっていけたら、面白いのではないと思う。それを、自 分達がやって作り上げたと思えるような形で何か出来たら面 白いのではないかと思いつつ、バーチャルでそれをやることに ついては難しいかとも思う。	-	-	-
⑤	質問	広報ツールとして考えているものは、テレビやSNS等ではなく YouTubeなのか。	どこにどんな広報をしていくことがベストなのかといったところは 探りながらいったところが現状。ただ、やはりYouTubeという中 で広く広報していくという方法も試してみて、どんな成果が出る のか出ないのか、といったところを確認していきたいと思っている。	-	-
⑤	意見	YouTubeの利用率はもちろん高いが、10代にしか見られない キッズモードがあるため、その辺の工夫は必要。	-	広告の設定に際し、対象年齢等の設定が可能。	

回	区分	委員	事務局	対応状況	
⑤	意見	SNSで、やはり最も使われているLINEや、10代の利用率が高いTikTokのようなツールを増やしていった方がよい。1分のショート動画を作ればどの媒体でも使いまわしができるため、汎用性高い動画を作るであつたり、また、同じような投稿を増やすといったことは必要。	短い時間の動画を作成しているところ。どのように拡散していくかは今後検討していく。	ショート動画を作成、配信等行った。	済
⑤	意見	学校側のタブレットの中に入れることはかなり有効だと思っているため、協力していただける学校があれば是非進めてみたらどうか。	検討を行う。	試行運用の中で一定の方向性が固まった本格実施となり、安定的な運営が継続された後、協力市町村、教育支援センターと協議する。	継続
⑤	意見	こどもたちも保護者も、YouTubeで検索し、不登校支援を埼玉県がやっていたりすると思うので、引っかかってくるものがあれば、そこからは入れるかと思う。	-	-	-
⑤	意見	展覧会のような、ギャラリーのようなことが機能として組み込むことはどうか。バーチャルのハードルの高さを考えた時には、1回入ってみることに誘導できる仕掛けがあつた方がいいと思う。何か皆が来ることによって色々なものが見れたり、出会えたりするような、何かそういう彼らからの発信が見れる場所のような使い方もあるかと思う。	検討を行う。	利用者の定着が図られた際には、ギャラリーのような取組を行っていく。	済
⑤	意見	文化祭や運動会といった学校行事になかなか参加できなかったことに対し、バーチャル運動会やバーチャル文化祭のような形で参加できると面白いと思った。	検討を行う。	既存の機能の中でそういった利用者のニーズに対応できるプログラムを実施していく。	済
⑤	意見	色々な方がゲストに来てというようなお話があつたと思うが、今、自分たちが運営している居場所に来ている若者の中に、元々学校に居場所がなくてオンラインゲームが自分の居場所になっていたが、そこからリアルに出たという若者がいる。そういった先輩の話みたいなもので、皆さんと繋がれると良いと思った。	検討を行う。	利用者の定着が図られた際には、関係団体の協力を得てプログラムの充実化を図る。	済
⑤	意見	不登校からリアルに繋がった話を聞くときに、それぞれの先輩の言葉みたいなものがバーチャルに置いてあつて、自分で読めるようなものもあつてもよいのではないか。そういったものを、中学時代に読みたいと思っていたというような話がよく記事にある。そういった人達の声が並んであるみたいなものを、テーマに合わせて置いておくような工夫があるといいなと思った。そういった取組とSNSをうまく連動させて広報できるとよい。	検討を行う。	メタバース空間において記録を残す等の機能を実装されていないことから、SNS等を活用して情報の発信に努める。	済
⑤	質問	例えば「電車に乗りたい」や「自転車に自分たちでこぎ動かしたい」ということは機能的に難しいのか。	難しい。	-	-
⑤	意見	何かうまくできる、うまくできたという成功体験のほか、居るだけでいいんだということにフォーカスを当てられたプログラムがあると面白いと思う。ノーやパスができるとか、ちらっと覗くだけでもいいとか、そういったグランドルールのもとで、居て楽しいなと思ってもらえるようにすることがいいと思う。	-	運営マニュアルにおいて共通ルールを作成し、プログラム開始時に説明を行っている。	済

回	区分	委員	事務局	対応状況	
⑤	意見	まだ試行期間ということもあるため、何か特定のプログラムや人気のプログラムを中心に、そこから小さいところから広げていくという方法もあるのかと思う。まず初めは小さいところから徐々に広げてくとも1つかと思う。	-	-	-
⑤	意見	また、ベースの部分が周知も含めてまだ十分ではないのかなと感じているため、今はプログラムを充実させるというよりも、そういった広報や周知に力を入れることも1つかと思う。	-	積極的な広報に力をいれていく。	済
⑤	意見	あとは、そういったブログ等で、核となる利用者を養成し、その核となる人たちからプログラムの提案とかしてもらって広げていくということもいいのかと思う。	-	インスタを開設したので、既存のSNSを活用した取組を進めていく。	済
⑤	質問	TikTokは駄目なのか	埼玉県では運営してない。	-	-
⑤	意見	地方や中心部から離れた地域では保護者の相談先といった資源が限られているところもあるため、そういった社会資源の少ないところの保護者の相談先の1つに、このセンターがなれるといいのかなと思う。そうすることで、保護者や、或いはこどもの支援者の方でもどこかに相談する先が欲しいという方もいると思うため、そういったところから利用していただき、その次として、今度は支援しているこどもにこのセンターの利用を保護者や支援者から周知してもらい、つなげていくということも1つの方法かと思う。	教育支援センター等に声掛けをさせていただき、利用登録が少しずつ増えてきているところ。色々な広報手段を使って広げていきたいと考えている。	不登校の保護者の方を対象としたプログラムを実施した。	済
⑤	質問	保護者相談の先としてここの登録を周知することについてはどうか。	検討を行う。	-	-
⑤	質問	保護者の相談に乗るということの打ち出しはどうか。保護者相談があった際に、その時にこういうものもあるからどうかというような話であればできると思うが、保護者相談の窓口として広報できるか。	検討を行う。	-	-
⑤	質問	保護者が登録し、保護者のグループをバーチャルでやるということもあり得るのか。	保護者への訴えかけが、相談といった形がよいのかどうかはまだ見えていないが、今後、検討したい。	-	-
⑥	質問	小学校や中学校、義務教育の子の学校に報告等はしているのか。	特にしていない。	-	-
⑥	意見	登録のハードルを下げようとするほど、学校や保護者との連携は難しくなっていくと思う。	-	-	-
⑥	質問	申請にあたって確認する質問数を減らすということであったが支援機関との繋がりやの有無を聞くことについては今後どうするのか。	電話等で確認することがハードルになっている面もあるため、申込時に電話相談の希望の確認を行う。	-	-

回	区分	委員	事務局	対応状況	
⑥	質問	教育局で行うメタバース事業のプラットフォームは、バーチャルユースセンターを行っているプラットフォームと同じか。それとも全く別か。	全く別のものとなる。 バーチャルユースセンターはバーチャル埼玉というプラットフォームに乗っているが、教育局の事業はそもそもバーチャル埼玉に乗らない。	-	-
⑥	意見	利用者からすればバーチャルユースセンターと教育局で行うメタバース事業は同じ場所にあった方が使いやすいと思う。 むしろバーチャルユースセンターが教育局と同じプラットフォームに移動しても良いのではないか。例えば不登校の子でも、勉強の時間とそれ以外の時間がオンラインであれば同じ空間の中でできるため、安全性が管理されれば、むしろプラスも多いのではと思う。	-	VYCは開いた環境を目指しているのに対し、教育メタバースは閉じた環境を目指しており、プラットフォームの構成上両立できない。	-
⑥	質問	実際にキック(強制退室)をするような事例はどのような内容で、その後どのような対応ができたのか。	(委託事業者) キック機能は、これまでに1度程度、使用したことがある。 「あああああ〜」のような意味のない長い文章でチャット機能を埋めてしまうような方がいた。 アバターのため年齢はわからないが、複数回注意をした上で、キックをしたという例があるが、これまでに対応が困難だったという事例はない。	-	-
⑥	質問	委託事業者として登録をニックネームの確認のみとしていくことに不安はあるか。それともやってみたい、やってみようと思えるような雰囲気か。	(委託事業者) ユースセンター的な場所は、匿名性が高くした方が、保護者の同意がいない若者に対して事業の提供がしやすいのではないかと考えている。 ニックネームのみであっても、もしバーチャル空間に来てくれたならば、信頼関係を構築できるように一生懸命やるという気持ちで対応したい。	-	-
⑥	質問	登録時に確認を行った携帯電話には電話はしないことになるのか。	携帯電話は非常用として確認する形となる。	-	-
⑥	質問	義務教育の小中学生の保護者にも、連絡はしないということではないか	そのとおり。 (委託事業者) 義務教育年齢の方には連絡の必要性について確認する項目等を設け、やりとりをしたい保護者がいたらお話をする。	-	-
⑥	質問	登録時に義務教育年齢のこどもが自分で入力するときに、電話番号やメールアドレスは自分の親のものを入力するのか。また、高校生年代以上は自分の連絡先を入力するのか。	義務教育年齢のこどもは、保護者の連絡先を基本的には入れていただくことになる。 高校生年代以上は御認識のとおり。	-	-
⑥	質問	高校生年代になると、保護者にはこどもが登録したという情報は全く行かないことになるのか。	そのとおり。	-	-

回	区分	委員	事務局	対応状況	
⑥	質問	ひきこもりや不登校のこどもは色々な悩みを抱えていると思う。信頼関係が構築されると、こどもが悩みを打ち明けたり、その場で解決できないようなことを話したりする可能性もあると思う。そういつたときに、バーチャルユースセンターの中だけでは解決できないことについて、学校の関係者等に伝えた方がよいと思うが、関係機関との連携はどうなっていくのか。また、今までにそういった事例はあったか。	(委託事業者) これまで面談を要するような深刻度の深い相談はない。 不登校状態のこどもや、リアルで学校の校門をくぐれないこども、適応指導教室にも行けなかったりするこどもの保護者の相談の中で、色々調べてバーチャルユースセンターを見つけたなどの話を登録時の電話がけの際にお聞きすることはある。 専門外の分野等もあるため、様々な情報を保護者等からもらいながら、学校やスクールソーシャルワーカー、または行政の専門機関等につなぐことはできると考えている。 (事務局) バーチャルユースセンターには、個別に相談を聞く部屋を用意しているため、その中で詳しくお話を聞き、必要に応じて適切な支援機関の方につないでいくことを考えている。 また、バーチャルユースセンターのホームページには、別途、利用に関わらず相談予約ができるフォームを用意しており、利用登録がない方に対してもフォローができるような体制は整えている。	-	-
⑥	意見	色々な人の声の中に、「リアルで知っている人でないと相談しづらい」という意見があれば「いや、全然知らないから相談しやすい」という意見があるなど、こども、あるいは保護者にとっても分かれるところだと思う。バーチャルだからこそその相談を望むという層が一定現れてくれば、意味はあるかと思う。	-	引き続き相談の積極的な利用を促す。	済
⑥	質問	プログラムとしては、「誰かと話したいな」や「相談したいな」となった時にいつでも行けるような場所ではないということではないのか。	週8時間を1つの目安にしており、24時間365日ではない。 相談の受付は常に行っている。 この8時間をどの時間帯にするのかを検討してきたところであり、希望が多い土日にも段々増やしてきたところ。 ただ一定数、平日にもこの事業でしか声を出せない層があるのかなと感じてきているところなので、そういった時間帯にも用意している。間口はできるだけ広く、ただコアはぶれないようにして、困難を抱えるこどもたちの課題の解決につなげていきたいと思っている。	-	-
⑥	質問	週3～4日、プログラムを行っているところであるが、相談はそれ以外の時間帯に行うということか。それとも並行して行うのか。	相談内容が深刻でない場合は、日頃のやりとりの中で適切な場面を用意していくことになる。	-	-
⑥	意見	スマートフォンや端末をそもそも持っていない家庭や、親が優位になりやすい家庭の環境もある中で、こういった環境の子たちには届きづらい。	検証をしていく中で「必ずしもタブレットを持っていない」「1人1台端末はあるが学校に置きっぱなしにしている」等もあることが徐々にわかってきたところ。どのような対応がとれるのかについては検討をしたい。	リアルの居場所事業等でのデモを実施していくことで、学校のような自宅以外での活用場の創出に努める。	済
⑥	意見	のぞき見システムみたいなものがあるといいのではないかな。少しちら見やのぞき見みたいなものができるとう安心感が出てくるのではないかなと思う。	お試しのバーチャルユースセンターとして、登録不要のオープンデーを作った。 ただ、チラ見システムのようなものがあるとよいと思うため、改善要望を出してみたい。	担当課所に対し要望を伝えた。	済

回	区分	委員	事務局	対応状況	
⑥	意見	キックした事例もあったということだが、ウェルカムチャット（おかしなチャット）があるというのではないかと。大人からすると問題行動にあたる子たちは、本人の意見形成の部分が少し強かったり、表現に少し問題があったりすることで、コミュニティから外されやすく、行き場をなくしているという傾向があるので、1つ前のソフトに戻れる何かがあると面白いと思う。	グループワークルームの前でスタッフがおり、何を話し掛けていただいてもいいという状態で待っていただいているため、安心感やウェルカム感はあると思う。	-	-
⑥	意見	Teamsについて、Office365を高校生のうちから触る若者たちは、そんなにいないのではないかと。ツールとして馴染みがある印象はない。	当初、外部ツールの活用について、若者がゲームで馴染みがあるDiscordと、Teamsの2つが候補に挙がっていた。一定程度、スタッフが管理するためには、Teamsがよいという結論になった。	-	-
⑥	意見	一瞬でも見られる10秒CMのようなものが、YouTubeやInstagramのストーリー等で見られると、若者も少し参加したいという気持ちになるのではないかと。		ショート動画を作成、配信等行った。	済
⑥	意見	利用者のチャットを禁止している、リスクがあるからキックしなければならない等のお話があったと思うが、イベントの開催で初めて来る人が集まる場所では禁止にしたほうが良いと感じるが、複数回やっているようなイベントを実施するのであれば、この利用者のチャット禁止というのは緩和してもよいのではないかと。 利用者間で「またこの子と会えたね、あの人と会えたね」というのが一番のコンテンツになると思う。リスクもちろんあるが、利用者同士のチャットを完全に禁止するのではなく、また会いたいと思ってもらえることが原動力になって、面白かったイベントの2回目3回目にまた行ってみようかなというふうに関わるのではないかと。 メタバースはリアルなコミュニケーションの1歩手前にあるものであり、リアルなコミュニケーションが最上段のコミュニケーションだとしたらその練習にもなると感じている。その辺をケアしていく方法を模索していくと、友達になったり知り合いになったりということに繋がると思う。	今後、検討を行いたい。	オープンテラスを活用することでグループチャットによる交流（外からはグループで話していることが分かるが、話しの内容までは分からない）を行うこととする。	済
⑥	質問	利用者同士がチャットすることをスタッフが見ることができれば安心感が強いが、それは機能的に難しいのか。	機能的には難しい。 利用者間のチャット機能として、プライベートチャット機能もあるが、現在は使用制限をかけているところ。その制限の解除については、限定的に試してみようという方法はあるかもしれないと考えられるため、機能面を整理、確認をした上でチャレンジできればしたい。	オープンテラスを活用することでグループチャットによる交流を行うこととする。	済
⑥	質問	以前、県北地域にも広げていきたいという方向性があったと思うが、県北地域にも広がっているのか。	（委託事業者） 県北地域は相対的に少ない方となる。さいたま市と西部地域が多い印象。	-	-

回	区分	委員	事務局	対応状況	
⑥	質問	こども・若者企画プログラムについて、何か動き始めている例はあるのか。	イバショビルドというプログラムを企画し、話したいテーマに関して高校生以上の若者が企画をしていくようなプログラムを実施していきたいと考えている。	-	-
⑥	質問	登録時に在住市町村を書かなくするとのことであったが、今後は県外からの参加もあり得ることになるのか。	今後、整理をさせていただく。	-	-
⑥	意見	県外の参加を許可しないよりも、間口を広げた方が良いのではないか。オンライン空間の中で、バーチャルユースセンターだけを安全にしようがない。 オンライン空間自体に様々なリスクがある中、この空間だけ安全性を確実にすることが必要なケースはかなり限られるのではないか。 例えば、非常にニーズの高いこども(不登校等)に限定してサービスを提供するのであれば、(登録等により)安全性を高くする必要がある。 一方で、利用者の人数を増やしていくのであれば、バーチャルユースセンターだけが安全な場所にするということはなかなか難しく、多少の性善説に立つ必要があると思う。 ゆくゆくは理想的な姿になるかわからないが、1階と2階部分を分けて、IDがいらぬ1階と、より細かいIDカードが必要な2階部分みたいなものに分けられるような仕組みにするのがいいのではないか。	-	-	-
⑦	質問	正式オープンに向けてアバターをもっと変更・追加される可能性はあるのか。	現時点で改善を図ることは難しい。 引続き担当課所に要望として伝える。	-	-
⑦	意見	安全性については、スタッフの方の調整力が大きい。基本的に、問題行動のある方は強制退出をお願いするという状況があれば、登録不要にしても大丈夫ではないかと考える。	-	-	-
⑦	意見	時間の設定として、火曜日の16時から19時、木曜日と同様のようだが、妥当。	-	-	-
⑦	意見	VYCがかなり稼働しているので、予算が想定範囲で収まっているのか心配。そう考えるくらいたくさんアプローチをしている。	(委託事業者) 予算は問題ない。	-	-
⑦	意見	8月終盤になり、学校が始まる前に自死の数が多くなってしまったりとか、こどもたちにタブレットが支給されていると思うが、そのタブレットで検索ワード1位が死にたいというニュースを聞いて、こういった状況とも関連してくるのではないかと感じている。	-	-	-
⑦	意見	長時間利用は心身に負担がかかるという意見も出ていたもので、無理のない範囲で、3時間程度利用できれば良いと考える。	-	-	-

回	区分	委員	事務局	対応状況	
⑦	意見	一保護者の立場での意見だが、行政が絡んでいる時点で安心してこどもに使わせられると感じられる。	-	-	-
⑦	意見	何か危険なことがあってもすぐに対応するという信頼はできている感覚は持っている。事前登録なしでも問題ないのではと考えている。	-	-	-
⑦	質問	埼玉県のパークチャルユースセンターがすごく良いということが広まり、県外等から人が入ってきてしまった場合、そちらの方たちにかけてしまう労力が発生してくる可能性もあると思うが、何か考えられていることはあるか。	埼玉県のパークチャルユースセンターということを経営しているが、地域をあえて追求しない形をとることで、声が上げづらいこともたちが安心して声を上げられるような環境を整え、定着人数を増やしていくことが大事だと考えている。	-	-
⑦	意見	登録はなしとすることによって、県内か県外か分からなくなるが、それでも利用のハードルを下げることにつながる。登録なしで進めていくという意見にまとめさせていただく。	-	-	-
⑦	質問	オープンテラスをもっと活用しようという論点があったと思うが、今までやってきた、例えば推しトークなどをオープンテラスでやってみるという意見で理解してよいか。	オープンテラスは、4人の中である意味、個室空間でのチャットが可能になるもの。そういった楽しさもあるので利用しながら、プログラムの内容によっては車座を使ってもらうなど、両方を広く使うことによって満足度を高めていきたい。 (委託事業者) プログラムが人気で参加者人数多そうな場合はこれまでと同じように車座に移動をし、少人数の場合はオープンテラスでお話をするような想定。	-	-
⑦	意見	オープンテラスは座席につかなければ参加はできないが、ふらっと来た人たちがオープンテラスで4人座って何かやっているな、などが見えるようになるという話であると理解した。	オープンテラスの4人のグループチャットを認めるということになると、1人のスタッフが入っていない4人だけの会話が成立してしまうことになる。こういう場合には、ケースバイケースだが、よくやりとりについて見守りながら、適切にスタッフが介入していくことになると思われる。	-	-
⑦	質問	4人でグループチャットが可能になる場合、グループチャットの内容は大人が見ることができるのか。	グループに入れば確認することができる。	-	-
⑦	質問	外からは見られないとなると、スタッフの人たちが、ちょっと危険なことをしゃべってるから介入するなどのチェックはできないということか。	4人席の中に入っていないと内容は分からないので、そもそもスタッフ無しにしないようにするか、適宜声掛けをして様子を確認する方法になると考える。 ただ、そうすることによってスタッフにも言えないような話を友達同士でできるという気軽さもあると思っている。 基本的には利用人数にもよると考えており、今後、利用人数が増え安全性が確保できない状況ということになれば、車座を中心にやっていくことも可能性としてはある。 ただ、現在の利用者数から考えれば、利用者数の確保や利便性の確保を図ることの方が、安全性を求めるよりも高いと考えている。	-	-

回	区分	委員	事務局	対応状況	
⑦	質問	オープンテラスで職員がグループに入るときには、会話しているところに後から入るイメージか。それまで話していた履歴は見えないのか。	後から入るイメージを想定している。	-	-
⑦	意見	オープンにしていけばしていくほど危険なことが発生する可能性もあると思うので、まずはある程度の性善説に立ってオープンにしていけることが現実的だと思う。 おそらくだが、もしトラブルがあるとしたら、例えばチャット上で連絡先の交換をしてしまっ、連絡先が別の場所へ流れていくという方が現実的に考えられる。 ただ、まずはやってみるという方向性が現実的なのではと思う。	-	-	-
⑦	質問	過去の会話ログのところは管理者権限で見られるようにすることはできないのか。	現時点の機能ではできない。	ログ管理機能を実装した。	済
⑦	質問	会話しているところに、いきなり人が入ってきた際に、いきなり入ってきた人に対して入ってこないでほしいという感じで、キックすることができるのか。	現時点の機能ではできない。 逆に言うと、スタッフが気軽に入ることができるため一定の抑止力が期待できる。	-	-
⑦	質問	オープンテラスはボイスチャットが可能なのか。	可能。 管理者権限でオンオフの使い分けができるため、実際の運営の中でスタッフの方で適宜判断をさせていただく形になる。	-	-
⑦	質問	本人確認などをした登録済みの人は、オープンテラスを使って、登録していない人はこのグループワークルームしか使えないなど、登録の有無で入れる場所を分けることは技術的に可能なのか。	現時点の機能ではできない。 バーチャル埼玉自体のプラットフォームがオープン・匿名ということで、事前登録なく、いつでも誰でも利用できるということが一つの特長として運営している。機能上で事前登録を求めるような機能はないため、それに基づくような部屋の使い分け等はいない形になっている。	-	-
⑦	意見	過去ログ等のチャットが見られるとありがたいと思った。	-	ログ管理機能を実装した。	済
⑦	意見	登録した人だけがオープンテラスを使えるというのはあってもいいと思う。	-	-	-
⑦	意見	オープンテラスについて、さいたま市のグロウスは2Dメタバースのファムキャンパスでは、チャットの内容の履歴が残るということで、職員が入らなくても履歴が残ることが抑止になって運営できている。履歴が残らないから使わないということはもったいないと思うが、人数が増えてきた時に問題が出てくるのかと思う。 履歴が残るという機能はとても重要だと思うので、実現するのはなかなか難しいと思うが、今後検討していただければと思う。	-	ログ管理機能を実装した。	済

回	区分	委員	事務局	対応状況	
⑦	意見	年齢層が6歳～15歳までが多く、オープンテラスの運営で考えてみると、おそらくいつものメンバーで4人で座ろうというような状況が増えてくるのかなと思う。そうすると、無理にでも座らなきゃいけないみたいな状況も出てくるかなと思うので、職員の方が声かけることが必要だと思う。	-	-	-
⑦	質問	この会議に子どもを参加させてみてはどうかという話が出たと思うが、どれだけ子どもの意見が反映されているのか。	子どもを入れる機会がなく、今のところできていない。それに変えることとして、アンケートを行っているところ。意見をいただく中で、イバショビルド等のプログラムで、バーチャルの場で意見が反映できるような取組も少しずつであるが増えてきていると感じている。	-	-
⑦	質問	バーチャルユースセンターを埼玉県でやっていく中で、今後、5年後、10年後どうなっていくのかという展望を後で聞かせていただきたい。埼玉県として、いわゆる第3の居場所みたいな感じでやっていきどんどん広がっていく可能性というのはあるのか。	必要な層をどう設定していくのかといったところについては、たびたび論点として出てきていて、私どももずっと考えてきたところ。すべての人に届けるようなやり方ではなく、居場所がなく孤独を感じている、あるいは孤立している子ども・若者、そういったところに届くよう目指していきたいと考えている。必要としている人に届くようにするために、入り口は広く取っておこうということで、今の形をとらせていただいている。 バーチャルユースセンターに来てくださる方が、自分のやってみたって思えることを実現できるような場になっていくのが理想だと考える。様々な困難を抱えている子ども・若者がそれまで言えなかった事柄をこの場を使って言い表して、自分のやってみたことにチャレンジができるような場になっているとよいと思う。 (委託事業者) 5年後、もしバーチャルユースセンターが、今よりもっとたくさんのお子・若者の居場所になっていたら、リアルなユースセンターとの相互関係があって、そこへ行ったり来たりする居場所の1つとして利用されるような場所になっていけばよいと考える。	-	-
⑦	質問	必要な層にどう届いたかをどう評価していくのか。いわゆる関わった子がどう変化したのか、リアルに居場所ない子どもたちが、バーチャルユースセンターに関わったことによってどう変化していったのかを聞けると、こちらとしてもやりがい等の実感ができるのではないかな。	試行の段階においては、なかなか継続して利用していただけていない。そのため、利用によって、子どもたちがどう変化したのかをまだ捉えきることができていないと感じている。 今の段階ではできるだけ継続した利用につないでいけるようなプログラムを開発することによって、そこでどんな変化が生じたのかを見たいと思っており、逆に言えば、変容を図る段階に至っていないと残念ながらはあるが思っているところ。 この事業は、相談機能も活用すると謳ってきたところではあるが、相談の実績自体はゼロである。スタッフとの信頼関係を構築に時間がかかることからこのような結果にもつながっているとも思うため、中長期的に見ていかなければと考えており、相談事業は諦めると判断をするのはまだ早いと考えている。	-	-

回	区分	委員	事務局	対応状況	
⑦	意見	必要な層を絞って決めていくことは、時間をかけて見極める必要がある。 外国のルーツを持っている場合、例えば、母親が地域のコミュニティから距離がある状況であると支援が届きづらいとか、行政がいるから入りやすいという方もいれば行政が関わっているから逆にお断りするみたいな方もいたりするため、本当に支援が届きづらい人というのはコミットしていかなければならない。現場に足を運ばないとなかなか入りづらいというのも正直あるため、待ちの姿勢だとなかなかやって来ないと感じる。 ただ、逆に支援が届けにくい層の1人に関わると、その層から口コミで広がったりする可能性もあるので、必要な層の設定はもう少し時間がかかると考える。	-	-	-
⑦	意見	様々な場所にデモに行き、デモやその他広告等より、結果的にどのような層が利用につながっているか分かるようになればいいと思うが、登録制ではないので、分からないところではあると思う。 もう少し利用者が増えてきたら、回答してもいいよという子だけ、バーチャルユースセンターから出るときにアンケートに答えてもらうようにすればとも思うが、やりすぎも煩わしいと思われるかもしれない。また、そもそも学校行っているか行っていないかを聞くことは難しい。	-	-	-
⑦	意見	利用者を小学生もしくは中高生どちらかに尖らせるべきとは思っておらず、今のようになんかそれぞれのプログラムで進めていく形ではないかと考える。我々が考えているバーチャルユースセンターの支援が届いてほしい層と実際に来てくれている層は実際ずれてくるのはありえると思う。	-	-	-
⑦	意見	メタバースを使って不登校の支援を主にやっているが、その中で、中学校を卒業した後に義務教育の不登校のメタバース支援がなくなってしまうのでどうすればよいのかという問い合わせが保護者の方から入ってきたりもする。 支援を長く続けていくと、卒業後の支援は、バーチャルじゃないとなかなかコミュニケーションを取ることが難しいという方たちも結構いると思うので、教育支援センターと連携してつなげていくという仕組みができるとすごくよいと感じる。	教育支援センターでは、各市町村の方にご協力お願いしてデモ等を行ってきたが、なかなか継続的な利用にはつながっていないところであるため、そのための仕組み等が必要だとは思う。また、不登校支援についてはこの会議でも何回かご指摘をいただいているが、教育課程上の単位になることについてはまだチャレンジできていない。 教育メタバースが始まるため、そこで整理をさせていただきたい。	試行運用の中で一定の方向性が固まった本格実施となり、安定的な運営が継続された後、協力市町村、教育支援センターと協議する。	継続

回	区分	委員	事務局	対応状況	
⑦	意見	教育委員会だけではなく、福祉との連携する方法がないか検討しているが、なかなかいい答えが見つからず、足踏みしてしまうケースがある。 逆に埼玉県の方はユースセンターと不登校のメタバースもあるので、連携をもう少ししていただいて、世の中に事例を残していただけると、5年後、10年後、成長していけると思う。 連携ができていない自治体がほぼ今いない状態で、福祉と教育委員会の両方でメタバースをやっているところもかなりまだ限られている。埼玉県はやはり一番進んでいるのではないかとと思う。	-	-	-
⑦	意見	メタバースの活用について、アウトリーチに効果がある。 リアル支援センターの方につなげていくときに、いきなり行きましようと言っても気持ちの面も含めてギャップがある時に、まずバーチャルに入って慣れてもらって話を続けていくことで、リアル支援の方につながるというケースが事例として出てきており、リアル支援センターと連携したプログラムの作成を行うのが非常に重要ではないかと考える。	-	-	-
⑦	質問	プログラムのテイストについて、初期の頃から変化している。 例えば、初期のころは、セクシュアルマイノリティのような少し尖ったプログラムもあったと思うが、最近のプログラムは趣味についてみんなで広く話し合おう、のような感じになっている。一部の人の尖ったプログラムというよりは、誰でも入れるようなプログラムにしていくという解釈でよいのか。	(委託事業者) 当初、専門スタッフもあり、1年間は試行期間でもあるため、性に関するプログラムも行っていたことがある。 アバターだから話しやすいという子も一定程度いると思うが、自分の芯の部分をアバターで見ず知らずの場所で広く開示することは、なかなか勇気がいると思う。実際のLGBTQのプログラム参加者の方はゼロであったということもあり、もう少しリラックスした内容のプログラムを通して、まずバーチャルユースセンターという場に慣れたり親しんだり安心を感じてもらおう。それを通して初めて、もう一歩ぐらい踏み込んで性の自認や人間関係の悩み、家庭内や学校との関係などをおしゃべりできるようになるのではないかと仮説を立てて、最近のプログラムではみんなで推しトーク等をして、まずバーチャルユースセンターのリピーターの1歩となるようプログラムにしてある。 一方で、8月末のプログラムに設定している「学校行きたくない」など、テーマの言葉だけを尖らせて、学校に行けないいわゆる不登校状態にあったとしても、それがこども・若者であるあなたの困りごとや悩みではないのであれば、それはそれでいいじゃないか、学校行きたくないって言うてもいい、というように、タイトルを工夫してプログラムに惹きつけられて来てくれる方がいればいいと思い、試行錯誤を行いながら運営している。 性自認などに関しても、おしゃべりの中で出てくるようであれば、丁寧に時間をかけながらプログラムや相談に繋げていきたいなと考えている。		